

# よく考えて行動する子どもを育む 教育課程・指導計画

よく考えて行動する子どもを育む教育課程・指導計画

よく考えて行動する子どもを育む教育課程・指導計画  
高知大学教育学部附属幼稚園



平成30年度

高知大学教育学部附属幼稚園

平成30年度

高知大学教育学部附属幼稚園

## はじめに

本園は平成30年に創立70周年を迎えました。広い園庭には長い歴史を物語るかのようにしっかりと根を張ったイチョウやクスノキの大木があり、園舎には長年の保育の中で活用されてきた数多くの絵本が整理された絵本の部屋があります。このような素晴らしい教育環境の中で、心身ともにたくましく、豊かな遊びを工夫し、自分も友達も大切に子どもを育てることを教育目標とし、教職員が力を合わせて幼児教育・保育に努めています。

教育・研究園である本園では、平成17年度から「よく考えて行動する子ども」を目指す子ども像とし「よく考えて行動する子どもを育む園生活のあり方」を研究課題に据えて、研究を進めてきました。折しも、平成30年に幼稚園教育要領が改訂され、その中に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の姿が示され、そのひとつとして「思考力の芽生え」が掲げられています。子ども達が主体的、積極的に環境にかかわる中で様々なことに気づき、考え、工夫し、予想し、判断し、再考し、自分の考えをよりよいものにするようになることは、新しい未知の課題に対して試行錯誤しながらも対応することが求められるこれからの知識基盤社会を生きていくうえで重要であることは言うまでもありません。

研究の最終年度にあたる本年度は、これまでの研究経過をご報告するとともに、研究の成果でもある教育課程をみなさまに公開することとなりました。教育課程は日々の保育の根幹を成すものです。そのような教育課程を編成するにあたって、関係法令や教育目標などを考慮することはもちろんですが、日々の子ども達の姿や保育実践に具体的に結びつけ、「わかりやすく、使いやすい」教育課程をつくりたいと考えました。そして、子ども達の発達の実態や日々の保育実践を振り返り、園内研や保育カンファレンスを重ねながら、週日案の枠組みの見直しから月別指導計画の見直しへと、教育課程の編成に向けての作業をボトムアップ方式で続けてきました。このような方式によって、子ども達の姿がイメージしやすい教育課程が編成できたと考えています。

本書では、同じ学年であっても子ども達の発達には個人差があることを考慮したうえで、子ども達の育ちの姿を4期に分けて整理しました。そして、各々の期における事例やエピソードを例示して、ねらいと内容については、教師の願いや子どもの経験する中身がわかるように表しました。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿との関連がわかりやすいように表記に工夫を凝らしています。幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園など保育の場やさまざまな研修の場でご活用いただき、忌憚のないご意見をお聞かせください。

本日の公開研究発表会では『「げんきな子・やさしい子・考える子」～子どもたちの健やかな成長のために～』と題して、桶田ゆかり先生（東京都文京区第一幼稚園 園長）のお話を拝聴できることに深く感謝しております。

最後になりましたが、本研究にあたり、山下文一先生、佐々木晃先生をはじめ、多くの先生方のご指導、ご助言をいただきましたことに衷心よりお礼申し上げます。

平成31年2月

高知大学教育学部附属幼稚園  
園長 玉瀬 友美

# 目次

はじめに

## 第1部 研究の概要

1. 研究にあたって	1
2. 研究の方法	1
3. 研究経過	2
(1) 1年次(平成26年度):週日案の統一から月別指導計画の修正へ	
(2) 2年次(平成27年度):“よく考えて行動する子どもに育つ道筋”の見直しと月別指導計画から教育課程へ、さらには学年別教育目標の見直し	
(3) 3年次(平成28年度):さらに目指す子ども像へ	
(4) 4年次(平成29年度):教育課程の見直しと見えてきた課題解決に向けて	
(5) 5年次(平成30年度):教育課程から月別指導計画へ	
4. 成果と今後の課題	12
(1) 成果:ボトムアップから出発した教育課程の再編成と月別指導計画の作成	
(2) 課題:より本園ならではの教育課程や月別指導計画へ	
資料1 “よく考えて行動する”とは	13
資料2 本園オリジナル週日案枠	19
資料3 “よく考えて行動する子どもに育つ道筋”	20

## 第2部 教育目標

教育目標	21
学年別教育目標	22
“心ゆくまで”の頃(主に年少期)の教育目標	
“自分なりに”の頃(主に年中期)の教育目標	
“経験を生かして”の頃(主に年長期)の教育目標	
3学年連続した期の特徴	

## 第3部 教育課程

教育課程を見ていただくにあたって	27
3年保育 3歳児	28
2・3年保育 4歳児	29
2・3年保育 5歳児	30

## 第4部 月別指導計画

月別指導計画を見ていただくにあたって	31
3年保育 3歳児	34
2・3年保育 4歳児	56
2・3年保育 5歳児	78

おわりに

# 第1部 研究の概要

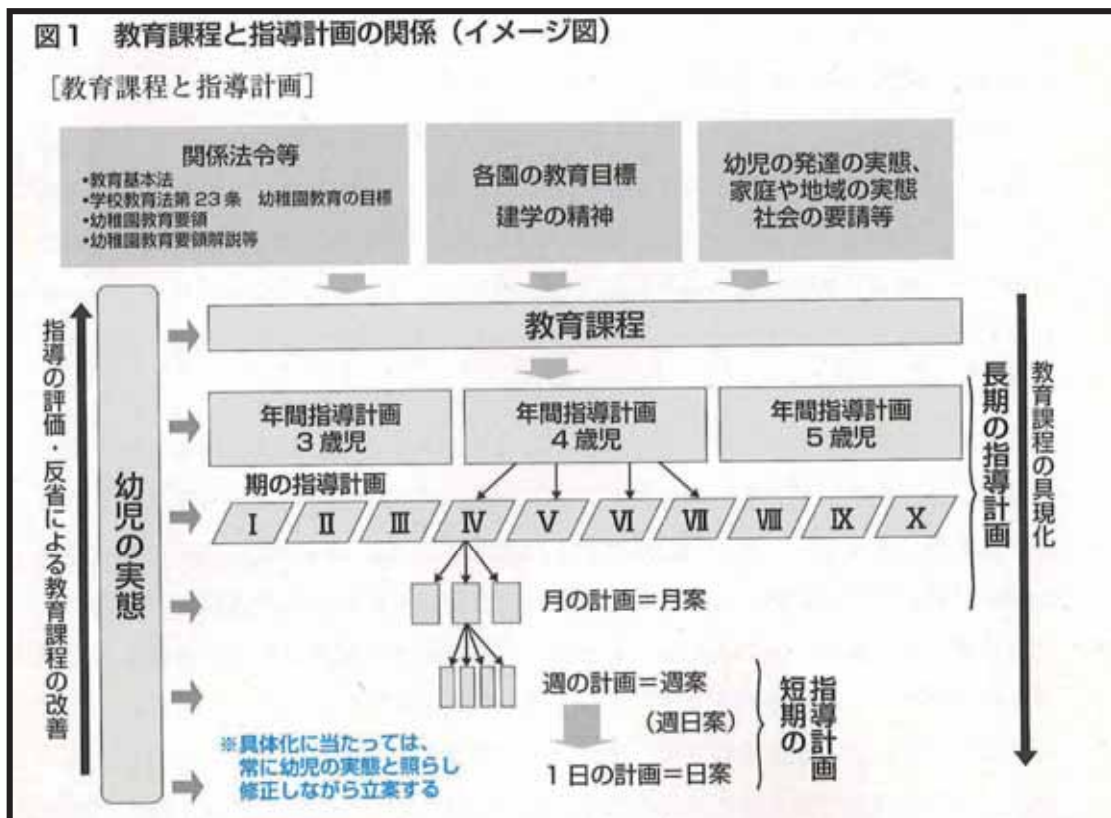
# 1. 研究にあたって

一本園の目指す子ども像から

主題を“よく考えて行動する子どもを育む教育課程・指導計画”にしたのは、本園の目指す子ども像である“よく考えて行動する子ども”を育むための教育課程を改めて見直す時期でもあり、2018年4月から実施された幼稚園教育要領をふまえた教育課程・指導計画が必要になったからである。

# 2. 研究の方法

本来であれば、教育課程は関係法令などや教育目標などを考慮して編成され、さらに月別指導計画から週日案へと細分化される（図1）。



『指導計画の作成と保育の展開』文部科学省 平成25年7月改訂 フレーベル館 18頁より

しかし、教育課程を幼稚園教育要領や園の教育目標に即して再編成しようとする、どうしてもその内容は“あるべき子どもの姿”や“子ども達に達成してほしい内容”といった抽象的で、保育者の思いが優先されたものになりがちになるのではないかと、という課題が浮かび上がった。

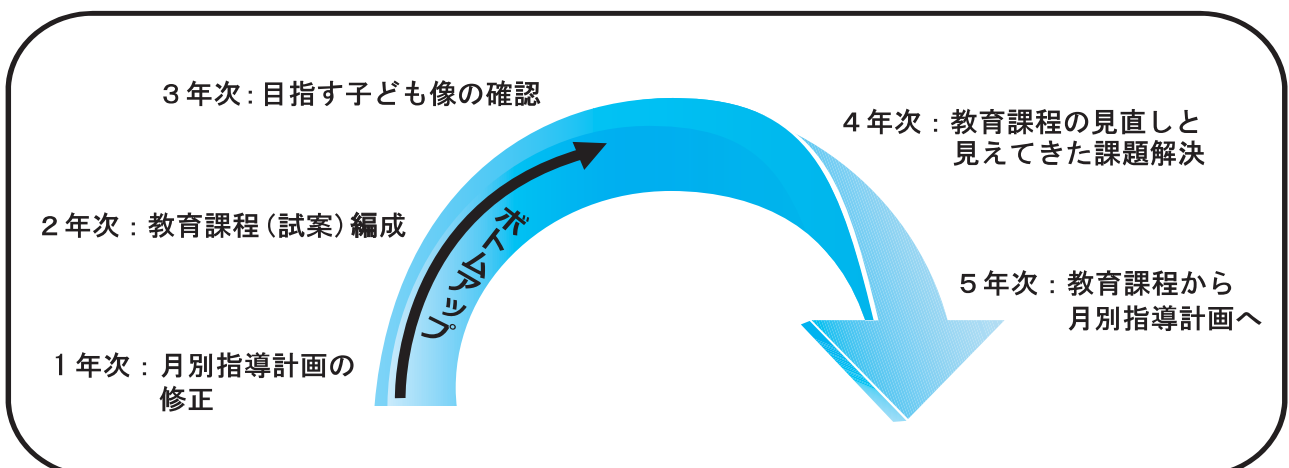
そこで、本園では目指す子ども像である“よく考えて行動する子ども”と今の本園の幼児の発達の実態や日々の保育実践を結びつけた教育課程や指導計画にしたいと思い、次のような方法を考えた。



【本園のカリキュラムマネジメント図】

上図のように、まずは実践したことから出発し、日々の記録を見直し、カンファレンスなどもふまえて月別指導計画を修正し、さらには教育課程を再編成していくというボトムアップスタイルで見直すことにした。

### 3. 研究経過



(1) 1年次（平成26年度）：週日案の統一から月別指導計画の修正へ

まず、週日案の枠組みを全クラス統一した。

週日案の枠組みを作成するにあたって、高知県教育委員会幼保支援課より講師を招き、具体的な週日案のあり方などについて指導いただいた。指導助言を得て、本園オリジナルの“よく考えて行動する子ども”を育むための週日案の枠組みを考えた。

高知大学教育学部附属幼稚園 平成 年度 歳児 組 月 第 週 担任 補助		学籍 男児 名 女児 名 計 名		園長印	副園長印
先週の子どもの姿・教師の願い		ねらい・内容		手遊び: 歌: 紙芝居: 絵本: 自然:	
日(月)天気	日(火)天気	日(水)天気	日(木)天気	日(金)天気	
<div style="border: 2px solid green; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">予想される子どもの姿・援助・環境構成</p> </div>					
<div style="border: 2px solid purple; width: 80%; margin: auto; padding: 10px;"> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">反省・評価</p> </div>					
行事など					
生活の流れ					
子どもの姿					
反省・評価					

よく考えて行動する子ども/健康/人間関係/環境/言葉/表現/健康な心と体/自立心/協同性/道徳性/規範意識の芽生え/社会生活との関わり/思考力の芽生え/自然との関わり/生命尊重/数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚/言葉による伝え合い/豊かな感性と表現

上記の様式が、現在使用している週日案（実際使用している週日案枠19頁参照）である。まず、先週の子どもの姿に基づき、ねらい・内容を立てる。ねらい・内容は週の途中に変更したり、つけ足したりできるように点線で緩やかに区切り、予想される子どもの姿や援助・環境構成を大きく真ん中に据え、反省・評価枠も以前より大きく構え、明日へのねらい・内容へとゆるやかなW字を描くようなスタイルで次の日につながる保育となるように意識した。

この週日案は、一目で月別指導計画の編成をするときに役立つよう、例えば、本園の目指す子ども像であるよく考えて行動する子どもの姿が表れているという事柄には、ひらがなで“よ”に丸印を記入し、④と週日案の中に表記した。（週日案も少しずつ変化し、現在（平成30年度）では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の表記などもしている。例えば、数量に関することであれば、“数”に丸印をつけた標記(Ⓢ)をしておくなど可視化の工夫も行っている。）

次に、実際に週日案や記録、事例を、以前作成した月別指導計画やこれまでの研究と照らし合わせながら、“よく考えて行動する子ども”に着目した月別指導計画案として修正することにした。

## 週日案の記録から月別指導計画へ

### 〈週日案の記録1 年長5月〉

A男がカナブンによく似た虫を捕まえた。早速、年長児に1人1冊配付しているポケット図鑑（子ども達に大ヒット）で、B子が名前を調べ「ハナムグリ」と判明。網から飼育ケースに慎重に移そうとしたが、ハナムグリは飛んで逃げてしまった。残念がっているA男、B子とともに、ハナムグリを探していると、ポケット図鑑を見ていたB子が「ハナムグリは『花を食べる』って書いている。花を咲いているところを探そう」と私に言った後、はっとした顔で「花を食べるから『ハナムグリ』っていうんだ」と言った。結局ハナムグリは見つからなかったが、教師はB子の気づきに驚き、クラスの子ども達に紹介したくて、集まりの時間にハナムグリのエピソードを知らせた。

### 〈週日案の記録2 年長5月〉

ダンゴムシが大好きな子ども達は、毎日のようにダンゴムシをカップに集めている。年中組の時に学んだのか、カップに枯れ葉や土を入れている子どももいたが、ダンゴムシの生態に合っているかどうかはおかまいなしに、木の実や花を摘んではダンゴムシのいるカップに入れたり、カップに入れたままのダンゴムシを逃がさずに、忘れて帰ってしまったりする子ども達もいた。

そこで、命ある生き物を大切にしてほしいと考え、捕まえたダンゴムシを飼いたいという子ども達に、飼育ケースを渡すとともに、どのようにすれば、ダンゴムシが喜ぶ環境ができるか、図鑑で調べるように促した。するとC子が、自分のポケット図鑑のダンゴムシのページ（飼い方のイラスト入り）をじっと見て、「えさ、かれは、きゃべつ……」とつぶやいていた。C子の見ているページの下の方に、小石が栄養になるという記述があり、気づいてほしいと思い、「その下も読んでみる？」と促した。「こいしかコンクリート。ダンゴムシがなめて、えいようにする。」と文字を追って読んだ後、目を丸くして「えいよう〜？」と裏返りそうな声で教師に言った。「石が栄養になるんだね」と教師が返すと、C子は早速、石を探しに出かけていった。

週日案の記録1、2のように、これまでよく行っていた援助であったけれども、月別指導計画には記載されていなかったもので、次の援助を新たに付け加えた。

#### 〈5歳児5月の月別指導計画“援助”として〉

- ・生き物とかかわる際に、子どもなりの気づきや発見を大切に、好奇心や探求心を育む。一方で、生き物の生態に合っていないかかわり方をしているときは正しいかかわり方に気づかせ、命あるものとして大切にできるようにする。

さらに、“調べる”ことを大切に捉え、図鑑の配付、配置等は環境構成に記載していたが、調べることについての援助については触れていなかったもので、以下のように加筆した。なお、5月の記録ではあるが4月から必要な内容であると考え、4月の指導計画を変更するようにした。



### 変更前

〈4月の月別指導計画“援助”より〉

- ・子ども達が見つめてきた自然物についての発見や驚き（自分達の蒔いた種の発芽など）を、共感的な立場で受けとめ、他の子どもにも知らせていく。



### 変更後

- ・子ども達が見つめてきた自然物（自分達の蒔いた種の発芽など）や**図鑑などで調べたこと**についての発見や驚きを、共感的な立場で受けとめ、他の子どもにも知らせていく。

※赤文字が付け加えた箇所

一方で目指す子ども像に即して、週日案から月別指導計画に反映させようとする、週日案などから選んだ子どもの姿が、“よく考えて行動する子ども”にとられすぎて、高度なものになってしまうことがあった。

例えば、年中6月の子どもの姿として、週日案の記録上では、数名の子ども達がごっこ遊びのイメージを膨らませ、友達や先生と必要な物を作ったり、役柄や季節など細かい設定をしたりして同じごっこ遊びが何日も続くといった姿があった。この姿を6月の指導計画の子どもの姿に入れてはどうかと、園内研究で話し合った時、これは数名の年中の子ども達の姿であって、年中の子ども達が全体的にこのような姿ではないことから6月の指導計画には載せないことになった。

このように週日案を月別指導計画に反映させる際、全体的な子どもの姿として育ちを捉えないと、指導計画が高度になり、子どもを追い込んでしまうことにつながりかねないことに気づいた。

## （2）2年次（平成27年度）：“よく考えて行動する子どもに育つ道筋”（※）の見直しと月別指導計画から教育課程へ、さらには学年別教育目標の見直し

1年次に、ボトムアップで3学年の月別指導計画を見直した。これは、全教員が3学年分の月別指導計画を修正し園内研究にのぞんだものではなく、その学年担当の教員が主に各月ごとの指導計画を見直したものを園内研究で検討したものである。そこで、3月までの月別指導計画を見直した後、高知県教育委員会幼保支援課の方や他附属幼稚園の園長を招いた時に、大きな課題となったのが、全教員が卒園までに子どもをどのように育てたいのか方向性が同じになっているのだろうかといったものであった。

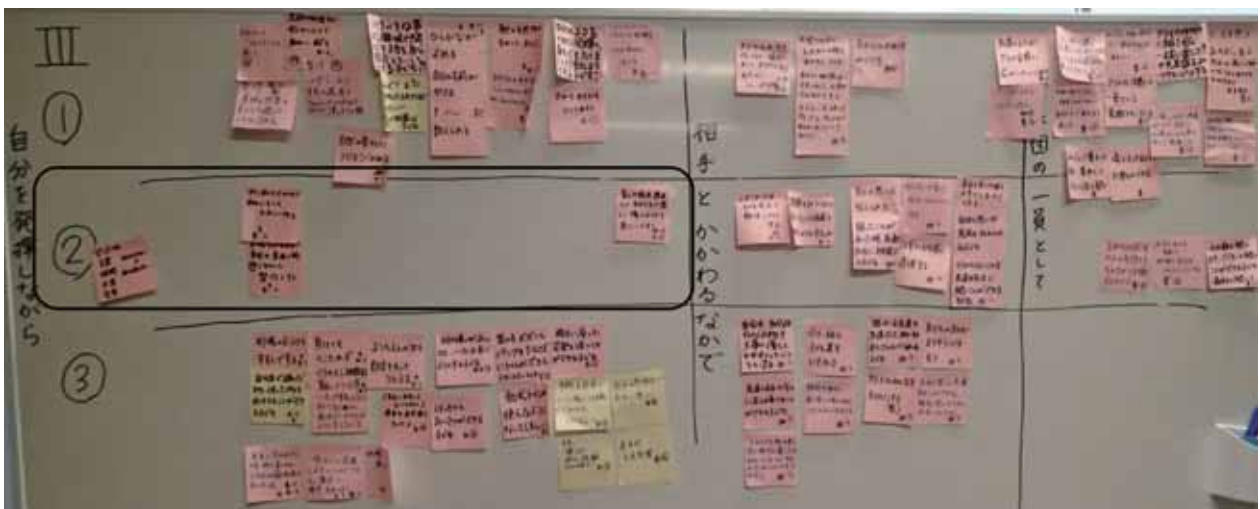
検討の結果、“よく考えて行動する子どもに育つ道筋”を基にして、教員全員が保育を展開できているわけではないことが明らかとなった。さらには、“よく考えて行動する子どもに育つ道筋”に記載されている事項自体が内容に幅がなく、改訂すべきではないかという意見も出た。

それらの課題を受けて、一人一人の教員が卒園の頃にはこんな姿になってほしいという具体的な姿を付箋にたくさん書き出した。そして、そのひとつひとつが“よく考えて行動する子どもに育つ道筋”のどの部分とどのくらいリンクしているのか分類してみた（次頁写真）。

入園	I “心ゆくまで”の頃	II “自分なりに”の頃	III “経験を生かして”の頃
自分 を 発 揮 し な が ら	① 五感を通して、いろいろなもの・ことに興味をもつ ○興味を持って触れたいもの、見るもの、聞くこと、触れるものなど、いろいろなもの・ことが新鮮で、興味をもつ。 ② 様々な事象に心動かされる ○おもしろい様子や物が目で見ていく様子、色や音が変化する様子など、物の様子が変わっていくことに動かされる。 ③ 繰り返しやってみる ○したいことや、できるようになったことを繰り返し、心ゆくまで楽しむ。	① 繰り返し遊ぶなかで、性質・しくみに気づいたり、試したり、考えたりする ○身近な物を使って繰り返し遊ぶなかで“どうしてだろう?”“どうやるのか?”などの物の性質やしくみについて気づいたり、試したり、考えたりする。 ② 自分で素材、道具、場所などを選んで遊ぶ ○自分のはしい素材や使いの道具を選んだり、したい遊びがしやすい場所に行ったりする。 ③ 自分なりによりよい方法を考える ○友達の様子を見たり、先生にヒントをもらったりして、自分なりによりよい方法を考えたりする。	① いろいろな性質・しくみを生かしてイメージしたものを表現する ○自分のイメージをもとに、細かところまでこだわって表現する。 ② びったりの素材、道具、場所などを選ぶ ○自分の作りたい物にぴったり合う材料や道具を選んだり、本物らしさを求めて工夫して遊ぶ。 ③ 共通しをもって、よりよい方法を考える ○“やるために、こうしてあこう”と、先生見通しでやる準備したり、“いぼが、こうしてみよう”などと、よりよい方法を考えたりして遊ぶ。
相手 と か か わ る な か で	① 先生や友達と一緒にすることに興味をもち、自分もやりたいくなる ○先生や友達と一緒にすることや関する言葉に興味をもつて、自分も同じことをしてやる。だんだんと、自分なりに必要な言葉で言ったりやったりするようになる。 ② 自分の思いを言葉で伝えようとする ○いろいろな経験のなかで、自分の思いを表現する言葉に気づき、自分なりの言い方がかかわろうとする。 ③ いろいろな人の思いにふれたり、感じたりする ○相手の表情や、言葉、身振り、手振りなどから、その人の思いやその場の雰囲気を感知する。	① 友達と一緒に楽しい遊びを考える ○友達と一緒に、したい遊びができる場所に出かけたり、遊びにしたい物を集めたりして、思いを出しながら遊びを進めていくとする。 ② 自分の思いや考えを言葉で伝えようとする ○自分の思いや考えを聞いてほしくて、自分なりの言い方や方法を工夫して、伝えようとする。 ③ 相手の思いをわかろうとする ○様々な感情を体験し、先生のかかわりをもとに今まで気づいていなかった相手の思いにも気づき、相手の立場にたって考えようとする。	① 友達から刺激を受けたり、共通のイメージをもったりして遊びを進めていく ○遊びのイメージに合うような場所や道具、材料などを選び、共通しをもって、より自分達の遊びのイメージに合うように遊びを進めていく。 ② 自分の思いや考えを言葉で伝え、相手の思いや考えもわかるようになる ○自分の思いや考えを相手にわかりやすく言葉で表現したり、相手の思いや考えを聞いてほしくて、よりよい方法を一緒に考える。 ③ 相手の思いに合わせることができるようになる ○自分の思いだけを優先せず、相手の思いにも合わせて行動したり、自分の意図を調整して解決したりしようとする。
集団 の 一 員 と し て	① 幼稚園がどんなところかを知る ○先生や友達と一緒に、遊んだり、受け付けたり、お弁当を食べたりして、幼稚園生活を感知する。 ② 大勢で遊ぶことと楽しいと感じる ○同じこととして遊んだり、同じ場所を共有したりして、かかわりが生まれ、しだいにみんなと遊ぶことと楽しいと感じるようになる。	① 集団のなかで、自分なりに行動する ○お友達に“～してほしい”と伝えなくても、自分なりに先生見通しで自分がお友達と関わることや、やりたいことをやってみようとする。 ② 集団と自分の思いとの間でゆれる ○まわりの様子などから、やどすることや望ましいのか気づきつつあるが、自分がしたいことや自分なりのやりかたを優先して進めようとする。	① みんなと力を合わせるなかで、共通の目的をもってよりよい方法を考える ○クラスみんなで共通の目的に向かって、力を合わせることで活動が思い通りに進められ、ルールや役割分担など、よりよい方法を考え、遊びを進めていく。 ② 生活の流れを見通して自分達で生活をつくりだそうとする ○幼稚園での生活の流れを見通し、毎朝の決まりや自分のするべきことを意識して、みんなで調整しながらよりよい生活をつくりだそうとする。

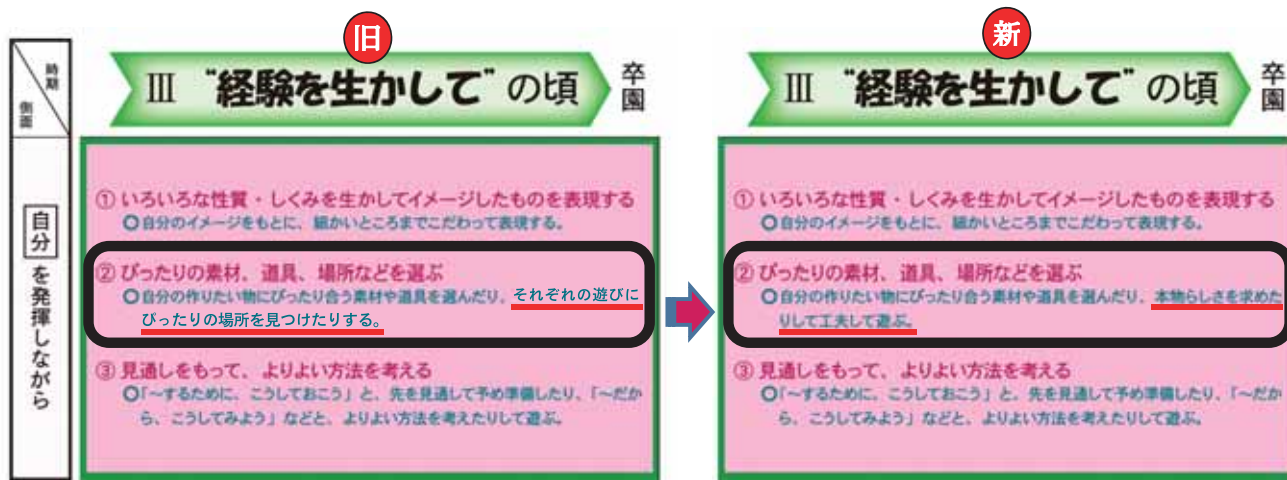
（“よく考えて行動する子どもに育つ道筋” 20頁 A 3 版あり）

※“よく考えて行動する子どもに育つ道筋”とは、本園の教育目標である、「よく考えて行動する子ども」に育っていく道筋を3つの時期と3つの側面で表記したもの。子どもの育ち・時間の流れを左から右へと横軸にとっている。子どもの発達を“自分”を發揮しながら” “相手”とかかわるなかで” “集団”の一員として”の3つの側面から捉え、縦軸に並べている。3つの時期と3つの側面との組み合わせごとに9つの枠に分けて表している。また、子ども達は、一つのことができるようになったからといって、次もまた同じことができるかということ、そうでないことも多くある。行きつ戻りつする子ども本来の発達過程を考慮し、年少、年中、年長という学年の区切りで捉えるのではなく、子ども達の発達に合わせた捉え方ができるように、“心ゆくまでの頃” “自分なりにの頃” “経験を生かしての頃”としている。また、それぞれの側面に見られる特徴的な姿のなかから、特によく考えて行動することにつながっている姿を表記している。



平成27年4月28日 園内研究にて

例えば、以前までは、(Ⅲ－**自分**－②)の“自分の作りたい物にぴったり合う材料や道具を選んだり、それぞれの遊びにぴったりの場所を見つけたりする”という表記だった。主に年長期になると、経験を生かして、より自分のイメージに合うよう、より本物らしさを求める姿や工夫する姿などがあるのではないか、ということから、“自分の作りたい遊びにぴったり合う素材や道具を選んだり、本物らしさを求めたりして工夫して遊ぶ。”とするなどし、マトリックスを改訂した。



そして、“よく考えて行動する子どもに育つ道筋”の“心ゆくまでの”の頃、“自分なりに”の頃、“経験を生かして”の頃ごとに教育目標を見直した。(詳細については、20頁参照)。

さらに、月別指導計画から教育課程の見直しを行った。期の切れ目の捉えなおしや、“この期によく見られる子どもの姿”や“ねらい・内容”にどのように“よく考えて行動する子ども”が色濃く出ているのかなど検討していった。

そして、学年別教育目標の内容も確認していった。(各学年の教育目標は、22・23頁参照)。

### (3) 3年次(平成28年度)：さらに目指す子ども像へ

“よく考えて行動する子どもに育つ道筋”を改訂した後、教員間で本園の目指す子ども像である“よく考えて行動する子ども”とは、どのような子どもなのか見直した。



“よく考えて行動する子ども”を端的に言い表すとしたら、いったいなんだろうか……。その答えを探るべく、資料を読み議論してきたが、“よく考えて行動する子ども”とは、“とことんやってみようとする”“多面的に考えようとする”“自分で判断し行動しようとする”“これまでの経験を生かそうとする”“先への見通しをもとうとする”“自分の思いを言葉で伝えようとする”“友達やみんなのことを考えようとする”などとした。(これらの姿の詳細については、13～18ページ参照)。



#### (4) 4年次(平成29年度): 教育課程の見直しと見えてきた課題解決に向けて

教育課程としてねらっている各期の特徴である文言とねらいが3学年の育ちに合っているかどうかを検討した。

まずは、年少の教育課程から、年長の教育課程にある各期の特徴とねらいまでを縦に並べてみた。そうすることで、これまで、学年ごとに見直してきたことと違って、全体像から見えてくるものがあるのではないかと考えたからである。

例えば、本園では、年中から入園する子どももおり、2・3年保育といった形になる。そのため、年中期の“期の特徴”となる文言にも“新しい生活の始まり”といった特徴やねらいがあるのではないかと見直しを行った。また、年長2期の“期の特徴”となる文言がこれまでは“友達と共通のイメージをもって”であったが、年長2期としては、“友達と思いや考えを出し合って・自分なりのめあてをもって”といった特徴ではないかといった話し合いを行い、加筆修正していった。

学年	期	期の特徴	各期のねらい
年少	1期	幼稚園ってどんなところ？ →先生と一緒に・ 幼稚園生活の始まり	○先生に親しみをもつ。 ○園生活に少しずつ慣れ、安心して過ごす。
	2期	わたしは、これがしたい →やってみたいことが 増えてきて	○先生や友達と一緒に、自分のしたいことをする楽しさを味わう。 ○園生活の仕方を知り、自分で身の回りのことなどをやってみようとする。
	3期	幼稚園って楽しいな →先生や友達と いろいろな遊び	○自分の好きな遊びを楽しむ。 →先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○身のまわりのことを自分でしようとする。 →先生や友達にいろいろなやり方で自分の思いを表現する。
	4期	仲よしと一緒にいると楽しいな →友達と一緒にいることが 楽しくて	○いろいろなことに興味をもち、好きな遊びに熱中する。を心ゆくまで楽しむ。 ○自分でできることは自分でしようとする。 →クラスの友達とかかわり合いながら一緒に過ごす楽しさを味わう。
年中	1期	先生や友達と一緒に →先生や友達と一緒に・ 新しい生活の始まり	○（共通）自分のしたい遊びや好きな場所を見つけて、園生活を心地よく感じる。 ○園での生活の仕方を知り、自分でやってみようとする。 ○（進級）友達や先生とかかわりを楽しみ、新しいクラスに慣れる。 ○（新入）先生やまわりの友達とかかわりながら、幼稚園に慣れる。
	2期	好きな遊びを思いきり	○自分のしたいことを見つけて、友達や先生と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○園での過ごし方がわかってきて、できることは自分でやってみようとする。 →思いをめぐらし、試したり、繰り返したりして遊びを楽しむ。
	3期	遊びや友達がつながってきて →自分の思いや力を出し切って・自分とは違う思いもあることに気づき始めて	○自分のしたいことをはっきりと表して、遊びや気の合う友達とのかかわりを存分に楽しむ。 ○自分なりの見通しをもって、できることをしようとする。
	4期	大勢と遊ぶ楽しさがわかってきて →友達とイメージや気持ち がつながってきて	○友達とイメージをふくらませて、遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○友達の思いを知り、自分の思いも表現しようとする。
年長	1期	幼稚園で一番大きくなった喜びを感じて	○年長組になった喜びや自覚をもつ。 ○気の合う友達や先生とかかわりながら、好きな遊びを楽しむ。
	2期	友達と共通のイメージをもって →友達と思いや考えを出し合って・自分なりのめあてをもって	○気の合う友達と思いや考えを出し合いながら、自分達で遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○自分なりのめあてをもって遊びに取り組もうとする。 ○健康で安全な生活の仕方を知る。
	3期	友達と共通の目的に向かって・仲間意識をもって →みんなで心を合わせて	○友達と思いや考えを出し合い、共通の目的に向かって、力を合わせて遊ぶ楽しさを味わう。 ○様々な事象について探究心をもってかかわろうとする。
	4期	みんなで力を合わせて →みんなで共通の目的に向かって・大きくなった喜びや自信を感じて	○クラスや学年のみんなで共通の目的をもち、力を合わせて活動に取り組む充実感を味わう。 ○自分の成長に喜びや自信を感じる。

※赤字は加筆      ——— は削除した箇所

## 一見えてきた課題一

教育課程を再編成し、月別指導計画を作成する過程で、たくさんの課題が浮かびあがってきた。カリキュラム・マネジメントを俯瞰してみると、本園の弱い部分が見え、次のような課題があった。

1. 実践力の向上
2. 教員全員で研修
3. 月別指導計画の共通理解
4. 新幼稚園教育要領との兼ね合い
5. 異年齢交流
6. 教育目標、教育方針の保護者へのアピール

そこで、次のような実践を行った。



1つ目の課題と2つ目の課題を考えるにあたって、カンファレンスを行うことにした。高知大学の教員を交えて、園内研修として月1回のペースで行っている。対象児を決めたり、写真や映像など各担任で工夫したり、担任だけではなく保育補助員も参加してもらったりするなどし、実践を振り返ることで保育の質向上を図っている。

3つ目の月別指導計画の共通理解を進めていくために、これまで学年担当の教員が見直し、園内研究の時に見直しをしていたが、全員が同じ月の3学年の月別指導計画を見直し、検討することで、3学年の育ちの連続性を意識し、共通理解をはかっていた。

4つ目の課題として、新幼稚園教育要領との兼ね合いについてだが、改訂ポイントの1つである“10の姿”と本園の教育課程を比較し、それぞれの文末に“10の姿”のどの姿にあてはまるのか、“10の姿”の最初の文字などの記号を付け、確認した。すると本園の教育目標である“よく考えて行動する子ども”に通ずる“思考力の芽生え”に関するねらいや内容が多くあった。

高知県教育委員会幼保支援課講師より“10の姿”をふまえ、行っていないわけではない“数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚”の表記が極端に少ないこと、“10の姿”のうち、1項目しか記していない内容があるが、もっとあてはまる項目があるのではないかと、といった助言があった。また、学年間の横のつながりも検討する必要がある、などの助言より、教育課程内にあるねらい、内容の文言のあとに、さらに“10の姿”の最初の文字などの記号を追加表記した。以下の囲みは3年保育3歳児の教育課程1期の一部である。

例えば、年少1期の内容である“小動物を見たり、草花を摘んだりする”は“10の姿”のうち、“自然との関わり・生命尊重”のみの表記だったが、“思考力の芽生え”“豊かな感性と表現”“数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚”もあるのではないかと話し合い、追加することで、他の3項目についても援助や環境を意識した保育を行っている。

- 園生活に少しずつ慣れ、安心して過ごす。(立健)
- 今までに遊んだことのある遊びをしたり、幼稚園ならではの遊びを楽しんだりする。(立健思)
- 自分の気に入った場や物、遊びを見つける。(思立)
- 小動物を見たり、草花を摘んだりする。(自思豊数) (青文字が追加表記したもの)
- 自由に使うことのできる玩具や材料、道具があることを知る。(思社立)
- 家庭とは違う園での生活の仕方があることに気づく。(社健立)

5つ目の課題、異年齢交流については、園舎が、長い廊下で分断され、学年別に建てられていることもあり、異年齢交流を図ることが難しいという課題があがった。それに関しては子ども達同士、他クラスの子どもの名前を知らない、各クラスそれぞれの保育にとどまりがちという実態があった。幼稚園教育要領の改訂では「幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにする」ことがこれまで以上に打ち出されている。そこで、本園の環境をどのように改善するとよいのかについて話し合った。高知大学教育学部附属学校園の研修制度の期間中に、イタリアのレッジョ・エミリア市に行った教師が、学んできたことをふまえて、長い廊下の真ん中に“お宝ステーション”を作ってはどうかと提案した。全教職員の協力によりできあがった“お宝ステーション”は、全クラスの共通の素材置き場となり、思い思いの素材や場を選んで自由に製作したり、お店屋さんを開いたり、異年齢の子ども達が混じって遊ぶ姿が見られたりするようになった。



6つ目の課題は、教育目標、教育方針の保護者へのアピールについてである。教育目標を理解してもらうために、毎日保護者に今日の出来事を降園時に口頭で知らせたり、クラス便りに書いたりしていたが、幼稚園生活や保育の中で大切にしていることや育っていることをわかりやすく伝えるための方法としてドキュメンテーションの掲示を行うことにした。

右の写真はドキュメンテーションを保護者や子ども達が見ているところである。

保護者が参加していない行事だけでなく、生活習慣や他の附属学校や近隣の学校との連携などの写真掲載をしている。そこに吹き出しと共に“10の姿”との関連も示すことにした。

そのドキュメンテーションを作成する過程で教員同士が“10の姿”をより意識し、自然と園内研修の場のひとつとなっている。



#### (5) 5年次(平成30年度): 教育課程から月別指導計画へ

再編成した教育課程から、今度は月別指導計画を見直していった。その際、3歳児の4月～3月までといった見直しではなく、3歳児の4月、4歳児の4月、5歳児の4月といったように縦の4月の月別指導計画として“10の姿”も意識した見直しを行った。(各学年の月別指導計画は31頁以降に掲載)。

例えば、1月や2月の月別指導計画に記載されていた氷や霜などの遊びについて、南国である高知は、年度によっては天候がずいぶん違うので、学年によって教師間の統一はされていなかった。どちらかという教師自身の経験したことや育ってきた環境などによる保育になっており、発達に合わせた環境ではなかったと言える。そこで、“10の姿”の中にもある“自然とのかかわり・生命尊重”の観点から、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え、身近な事象への関心が高まるよう、3学年間で以下のように加筆した。

### 〈月別指導計画の環境構成〉

#### 3歳1月

- ・氷のできそうな場所に、いろいろな容器に水を入れて置いておく。

#### 4歳1月

- ・氷作りを通して、不思議さを感じたり、いろいろ試すことができたりするように、様々な大きさや形、素材の容器を用意しておく。

#### 5歳1月

- ・なぜ、この場所や容器だと氷が張るのか、考えながら氷づくりをし、確かめることができるように、いろいろと試すことができる様々な大きさや形、素材の容器を用意しておく。

## 4. 成果と今後の課題

今回の研究で教育課程と月別指導計画ができあがったことで、指導の方向性を明確にもつことができ、本園のこれからの保育に見通しをもつことができるようになったことが一番の成果である。

ただ、週日案を書く際に、そのまま使うのではなく、また、その姿にならねばならぬと評価基準とするのではなく、その年の子ども達の実態や担任の個性なども考え合わせ、柔軟にアレンジして活用していくことになる。

また、目指す子ども像である“よく考えて行動する子ども”を育てることについて、教職員が同じイメージをもって子どもにかかわっていくことができるようになったことも、大きな成果である。

研究を進めていくなかで、多くの課題も見えてきたため、研究物としての教育課程や月別指導計画を作ることに同時に、その課題解決策としての、カンファレンス、ドキュメンテーション、お宝ステーション、10の姿との照らし合わせなどを続けている。

また、週日案を活用しながら、保育を振り返り、明日の保育に生かしていくというPDCAのサイクルも大切にしている。今のところ、週日案は、担任個人から広がっていないことも課題である。今後、週日案を互いに見合い、共通理解を深めたり、相談し合ったりすることができればと考えている。そして、週日案から月別指導計画へのボトムアップも続けていきたい。

それらは、保育の質を高めるためにも、保護者の理解を深めるためにも有効であり、大切にしたいことである。しかし、実際のところ、保育、研究に加えて続けていくことは、容易なことではない。どのようにすれば、子どもにとって、保護者にとって、そして、教職員にとって、よりよい方向に進んでいくことができるか、これからの課題である。



## 資料1

### “よく考えて行動する”とは

【本園紀要“よく考えて行動する子どもを育む園生活のあり方”より抜粋】

“よく考えて行動する”という言葉を出すと、小学校以降の学校の先生方や保護者から、「(小学生でも難しいのに)(大人でもよく考えて行動できない人もいるのに)幼稚園で“よく考えて”というのは、難しいのではないですか」という声をよく聞きます。確かに、私達大人でもよく考えて行動することは大変難しいことです。ですから、幼児に対して、思慮深く冷静に判断して行動することを期待しているわけではありません。

子どもの身近にいる私達大人が、子ども達の小学校以降のことまで見通し、“よく考えて行動する子ども(人)”に育つために、幼児期に育てておかなくてはならないことは何かをしっかりと理解し、幼児期にふさわしい生活を通して、“よく考えて行動する子ども(人)”に育つ基礎の部分を育てたいと考えます。“よく考えて行動する”という感覚、“自分からまわりの環境や人にかかわりながら考えよう”という意欲を身につけさせたいのです。幼児期に、よく考えて行動する基礎の部分を十分に培い、小学生になってから、さらに大きくなって大人になってからもずっと、よく考えて行動しようとする人になってほしいのです。

では、本園が大事にしたい“よく考えて行動する子ども”の姿とは、どのような姿でしょう。

#### とことんやってみようとする

子どもは、大人から見ると何が楽しくて、何度も繰り返しているのだらうと思ったり、きつこのままではうまくいかないだらうなと思うことをしたりしていることが、よくあります。でも、大人が「こうしたらうまくできるよ」とか「～してごらん」と教えてできるようになることよりも、失敗しながらも自分で何度もやってみて、スムーズにできなくても納得できることの方が得ることが多いのではないのでしょうか。正しい方法に早く楽に行き着くことよりも、失敗も成功もなんかわからないこともたくさん経験して、自分なりになんとなくこうなんだなと思える多様な経験をすることを楽しむを味わったり、とことんやってみようとしたりする意欲を育てたいと思います。

また、心と体を働かせて、いろいろなことや物にじっくりとかかわろうとする態度を身につけ、とことんやってみるなかで、“いいもの見～つけた”とか、“いいこと考えた”と思ったことをさらに試してみたり、どうすればもっとおもしろくなるかを考えたり、別のことにも活用しようとしたりするようになってほしいと思います。とことん遊ぶなかでおもしろいことを発見し、そのことを他のことでも活用してみようとし、そうすることで、また、あらたな発見をするということを繰り返すことによって、興味を広げ、興味をもったことに自分からかかわることを楽しみ、興味や関心を深めていくことは、“よく考えて行動する”ことにつながると考えます。

#### 多面的に考えようとする

“よく考える”の要素に“多面的に考えて行動する”ということもあります。何か困難にぶつかったとき、ひとつのやり方ではうまくいきそうにないと思ったら、他にも何かいい方法があるのではないかと考える柔軟性や前向きな気持ちを育てたいと思います。

自分ひとりの考えだけでなく、友達など他の人の考えも聞き、まわりの状況も見わたし、力を合わせようとする気持ち、協力して何かを成し遂げる充実感も味わってほしいと思います。自分がいいことを思いついたと思ったとき、それをとことん楽しむとともに、それしかないとは考えず、友達のアイデアも聞いてみたり、他のやり方も試してみたりして、こんな考え方もあんな考え方もあるんだと広く考えることができるようになってほしいと思います。

### 自分で判断して行動しようとする

遊びや生活の場で、自分でやりたいこと、ほしいもの、一緒に遊びたい友達などを、自分で考えたり、自分で決めたりして、興味をもったことを楽しんでほしいと思います。

最近では小さなことでも自分で決められない（決めることを避けている）子どももいます。たとえば、絵を描くときでも、「先生は何を描いたらいいと思う？」「何色で塗ったらいいと思う？」などと聞いたり、隣にいる友達と同じように描いたりなど、自分で考えようとしなないことがあります。自分で考えるのが面倒という子どももいれば、無意識のうちに“もし、絵が上手に描けなくても、先生の言う通りにしたのだから…”と責任のがれをしているような、あるいは自分がいやな思いをしなくてすむ予防線を張っているような様子の子もいます。もちろん、教師や友達の真似をしながら、いろいろなことを身につけることが大切なことや時期もあるでしょう。けれども、だんだんと、教師や友達に見守られながら、失敗を恐れず、いろいろなことに自分なりにチャレンジできるようにしてほしいと思います。

また、すぐに「だって〇〇君がやれって言ったから、やったんだよ」とか「僕だけじゃないよ。みんな、してたよ」などと言って、自分は悪くないんだと言いたい子どもが少なくありません。自分の判断力を働かせず人に言われたことをすると、その結果、どのようなことになっても、自分には責任ではないと考えてしまいがちです。自分で選んだり、判断したりすると、その結果は自分に返ってきます。それがうまくいったときには、喜びは大きくなりますし、うまくいかなかったときには、その残念な気持ちも自分で受けとめなくてはなりません。

人のせいにしてしまうことは大人でもよくあり、その気持ちを受けとめてあげることもしときには必要でしょう。けれども、年齢が高くなると、自分の行動の結果に対する責任も重くなってきます。ですから、幼児期から、ほんの小さなことでも、自分で考えたり選んだり、工夫したりなど、自分で判断して自ら行動し、その結果をしっかり受けとめることができる基礎を培ってほしいと願っています。

### 今までの経験を生かそうとする

言われたことを、言われたようにさらりとこなしていけることを求めるのではなく、前に同じことをしたことを思い出したり、以前には違う形で経験したことも、これに使うことができそうと応用したりする力が育ってほしいと思います。

たとえば、年少組のときに、庭に落ちているたくさんの小枝や木の実を「ここにもある。あそこにも…」と次々拾い集めた子どもが、年中や年長組になったときに、その小枝や木の実のことを思い出して、砂や土で作ったごちそうの飾りに使ったりします。水鉄砲でペットボトル等をねらって、何度も倒した子どもが、水に浮かべた船を見て、「そうだ。水鉄砲（の水の勢い）で船を動かそう」と考えたりします。また、（春はため池として使っている）プールでオタマジャクシを捕まえているときに、保育室で飼っているオタマジャクシが観察ケースの隅によく集まっていることを思い出して、プールでも隅っこにたくさんいるのではないかと予想したりもします。

ひとつのことを他のことに当てはめて考えることのできる応用力や、柔軟な発想力の基礎も培いたいと思います。

### 先への見通しをもとうとする

何かをするときに段取りを立て、手順を考えたり、先のことを考えて自分の思いを調整したりなど、少しずつ先の見通しをもつことができるようになってほしいと思います。

たとえば、テラスでままごとをしたいときに、何が必要かを考えて、籠にごちそうやお鍋、お皿などを入れて持って行ったり、オタマジャクシを捕まえるときに、あらかじめ観察ケースに水を入れておいたりなど、今までの経験をもとに、ほんの少し先のことを見通すこともあるでしょう。また、友達が使っている物を自分も使いたいとき、だまって取ってしまうとその友達が困ったり怒っ

たりしそうだから、まず、使っている友達に聞いたり、頼んだりすることが必要だと考えることも大切な見通しです。絵も描きたいけれどサッカーもしたいから、ここまで描いたら続きは明日にしようといったような少し先への見通しや、12月の中頃には、おうちの人が踊りや歌を見に来てくれるから、どんな衣装を作ろうかと11月下旬から準備をするといった少し長い見通しもあるでしょう。

空き箱などで車を作った後、外で遊びたくなり、すぐに行きたいけれど、ハサミやマーカーなどをそのままにしておくと、次に使うとき探さないといけなくなり困るから、今は面倒でも道具箱に戻しておこうと考えたり、材料をそのままにしておくと、他の人の邪魔になるから片付けておこうと考えたりなど、今の自分の行動が次にどういうことにつながっていくか意識し、やりたくないという自分の思いから、やった方がいいからやろうという思いへと調整することも少しずつできるようになってほしいと思います。

### 自分の思いを言葉で伝えようとする

新入園児のなかには、大好きな家族に囲まれて、自分の思いは伝えようとしなくても伝わるような生活をしてきた子どもも多いことでしょう。きっと、言葉などで子どもが表現する前に、家族が思いを察してくれ、思いがかなうことが多かったのでしょう。ところが、同じ年齢の子ども達が大勢いる幼稚園では、自分の思いや考えを表現しないとわかってもらえない場面にたくさん出会います。自分なりに何とか伝えようとして、身振りや短い言葉などで教師にわかってもらったり、気持ちを受けとめてもらったりすることを通して、自分の思いを相手にわかってもらううれしさや満足感、自分の気持ちを表す楽しさなどを味わっていきます。教師に代弁してもらったり、言葉を足してもらったりして、友達にも思いが伝わるようになっていきます。

そのような経験を経ながら、自分の思いが相手にうまく伝わるには、どのように言えばいいのか、どんなタイミングで話せばいいのか、どんな相手にはどういう話し方をしたらいいのかなど考えるようになってほしいと思います。

こうしたいという思いはあっても、それがうまく伝わらないことがあったり、思いは伝わっても、思い通りにはならなかったりするときもあります。友達と何かを一緒にしようとするときや、相談しようとするときには、自分の思いを伝えるだけでなく、相手の思いをわかろうとすることも必要になっていきます。

相手にわかってもらえるような言葉を考えることは、自分の心のなかで会話をイメージすることにつながり、相手にわかってもらうためだけでなく、自分の考えを広げたり、まとめたりするなど、考える力につながっていきます。このような育ちを見通して、自分の思いを言葉で伝えようとする気持ちを大切に育てたいと思います。

### 友達やみんなのことを考えようとする

集団で生活するなかで、楽しいこともあれば、いざこざが起きたり、自分の思い通りにならないことがあったりします。そのような経験を通して、自分とは違った感じ方や考え方をする人もいることに気づき、だんだんと自分以外の人立場に立って考えることもできるようになってきます。

自分以外の他の人達と心地よく生活できるために、自分はどんなことができるだろうかと考えたり、時には自分の思いを我慢したりなど、自分だけでなく、友達や、小さい組の子ども達、幼稚園のみんなのこと、家族のことなども考えることができるようになってほしいと思います。

### “よく考えて行動する子どもを育む”ために

では、そのような“よく考えて行動する子ども”はどうすれば育つのでしょうか？ 子ども達に「よく考えて行動しましょう」と声をかければそのように育つというものではありません。もっと具体的に、「いろいろな方法を考えてみましょう」とか「今までしたことを思い出してね」「友達のを

ことも考えてあげてね」などと言ったらいいのでしょうか。言葉でそう言われても、そのようなことができる土台が子ども達に培われていないと、一足飛びによく考えて行動できるようにはなれません。

いろいろな方法を思いつくような経験のため込みや多様な発想のできる柔軟性、友達のことも思いやれる心情など、いろいろなことが必要です。それらを培うためには、それぞれの年齢や発達、個人差などに合った適切な環境や援助が大切です。

そこで“よく考えて行動する子ども”には、幼児期3年間でどのような道筋をたどって育っていくのか、どの時期にどのような経験を大切にして育んでいけばよいのか、どのような援助や環境構成が大事かを考えました。

よく考えて行動する子どもに育つ道筋と、そのように育つための援助と環境構成についての2つの例をあげたいと思います。

### ぴったりの物を選ぶ

“よく考えて行動する”ために大切にしたい育ちの一つに“ぴったりの素材、道具、場所などを選ぶ”ということがあります。

ぴったりの物を選ぶことができるようになってほしいからと、入園したときから、できるだけたくさん素材を常時目に付くところに置いておき、自由に使っていいよと見守っていたらどうでしょう。園生活が初めての子ども達は、今まで家庭では使ったことのない目新しい物に次々と手当たりしだいにさわったり、ちぎったり、投げたりするかもしれません。適量も考えず、ほしただけ手にするかもしれません。じっくりとかかわるといよりも、目移りして落ち着かない様子になることが予想されます。また、たくさん種類がありすぎて、その時期にかかわりを大切にしたいと考えるものに触れることなく過ぎてしまうこともあるかもしれません。その状態が続くことで果たして、ぴったりの物を選ぶことができるようになるのでしょうか。

では、それとは逆とも言えるこんな方法はどうでしょう。入園したときから、いつもその遊びにぴったりの厳選した素材を必要最小限だけ用意し、どうぞと手渡し、一番わかりやすい作り方を教え、失敗なく作ることができる援助をしていたら、ぴったりの物を選ぶことができるように育つのでしょうか。

どちらの方法も、“よく考えて行動する子どもを育む”ための、適切な環境や援助とは言えないでしょう。入園した頃には、その子ども達が扱いやすく、興味をもちそうな素材を、使いやすいように出しておき、教師も一緒になってそれを楽しみながら、その使い方、楽しみ方のモデルとなったり、楽しさを共感する仲間となったり、手助けをする援助者となったりします。もちろん、教師が用意したものばかりではなく、自然物や家庭から持ってきた空き箱なども使えるようにします。子ども達は、葉や実、石や砂などでもいろいろな発想をし、大人が思いつきもしなかった使い方をしたり、おもしろい遊び方をしたりします。ちぎったり、貼ったり、落としたり、固めたりなど、心ゆくまで繰り返して楽しみ、満足感や充実感、探究心や好奇心などを満たす経験も大切にしたいと考えます。

年中の頃には、ぜひ経験させたいと思う物は、目に付きやすいテーブルの上に出しておき、だんだん使い慣れてきたら、教材用の引き出しや箱に入れて、必要なときに出して使えるように用意したりもします。

年長になると、より本物らしいものを作りたくて、それを作るのにぴったりの素材や材料を選ぼうとします。教師も一緒にどれがいいだろうと考えたり準備したりします。でも時には、いつでも出せるように事前に用意しておきながら、使いたいと思うであろう量より、あえて少なく出しておき、必要と思ったときに、教師にどんなものがどれくらいほしいかわかるように言葉で伝えて、要求したり、他に代用できるものはないかを考えたり、自分で探したり、新たな発見をしたりする機会もつくっていきます。また、少し扱い方が難しい道具（目打ちや金槌など）でも、その道具があ

ればこそ作ることができるという状況では、すぐに使えるように用意しておき、教師も一緒に手伝いながら、使うこともあります。

そんなふうには、いろいろな素材や道具等を使ってみて、「ああ、これってぴったり」「これは、なんだか違うかな…」などの経験を重ねて、だんだんとぴったりの物を選ぶ判断力や、よりよいものを求める意欲などが育って、よく考えてぴったりの物を選ぶことができるようになっていくのではないのでしょうか。

このように、ぴったりの物を選ぶということだけでも、発達に合った援助や環境構成を長期に見通して計画を立てることが大切になります。いろいろなことが“早く”“うまく”“間違わず”できるようになることを期待するのではなく、長い見通しもって、そのときどきに必要な経験は、たとえ失敗につながりそうなことやいやな思いをすることが予想されることであっても経験できるようにしたいと思います。

### 心のゆれを感じながら、みんなと力を合わせることができるようになる

入園間もない頃、子ども達は、先生やまわりの子ども達のしていることに興味をもち、しだいに友達ともかかわりをもつようになります。でも、まだ、他の人のことを考えて自分の思いを我慢しようとしたりすることはあまりなく、自分の思いに正直で、好きなことを心ゆくまで楽しみ、自分の物は自分の物、みんなの物も自分の物といった自由奔放な時期です。その時期には、教師は、まわりの子ども達の思いも伝えながら、できるだけ、それぞれの子どもが自分はどうしたいと思うことを実現できるように援助していきます。

年中になると、友達と楽しく遊んだり、時にはいざこざが起きたり、思いが行き違ったりなどの経験を通し、だんだんと仲よしの気持ち、相手の気持ち、まわりの人の気持ちなどがわかるようになってきます。自分では喜んでもらおうとしてしたことが、相手にとってはいやなことだったのだとわかったり、自分はこうしたい、けれども、友達は違う思いをもっているということがわかったりして、自分の思いと、友達の思いの間で、心がゆれることもあります。また、自分はまだ遊びたいのに、みんなで集まる時間になってしまい、もっと遊びたいという自分の思いと、みんなのところへ行かなくっちゃという集団の一員としての思いの間で、心がゆれることもあります。

友達が作りかけていた車を親切心で手伝おうとしたら、自分ひとりで作りたかったのにと友達に泣かれてしまったり、弁当の時一緒に隣に座ろうと思って、気を利かせて友達の弁当を隣に用意してあげたら、友達は別の友達と食べるつもりだったのにと怒ったりすることがあります。また、自分はRちゃんとままごとをして遊びたいのに、Rちゃんは色水遊びをしたいと言う。Rちゃんと遊ぶためには、ままごとをすることを諦めて色水遊びをしようか、それとも、ままごとをどうしてもしたいから、別の友達を誘おうか、それとも、Rちゃんと相談して、順番にしようかなど、どうしたらいいか、いろいろ考えることもあります。

このような思いの行き違いやいざこざ、葛藤体験は、子どもにとって楽しいことではありません。けれども、これから、たくさんの人達とかかわりながら、集団の一員として生活していくためには、自分の思いだけを優先していくことはできません。年齢が高くなるにつれ、葛藤の内容も複雑になり、心が押しつぶされそうになることもあるかもしれません。

幼児期に葛藤を経験しないように、大人が仲裁をしてしまったり、先回りしていざこざにならないようにしたりするのではなく、それぞれの思いを教師が受けとめ、必要に応じた仲立ちをしたり、一緒によりよい方法を考えたりなどの援助をし、様々な感情体験を大切にしていきたいと思います。葛藤やいざこざなどを通して、みんなが自分と同じ思いでいるわけではなく、人それぞれの考え方や感じ方があることに気づいたり、相手の立場にたって考えることが少しずつできるようになったり、だんだんと自分の気持ちの中で、折り合いをつけたりすることができるように援助したいと思います。

そして、人それぞれによさがあることにも気づいていけるように、一人一人が自己発揮できるよ

うな援助をしたり、それぞれのよさがつながらるような声かけをしたりしていきたいと思います。そして、卒園間近には、子ども達がそれぞれのよさを発揮できるような役割分担を自分達で考えたり、共通の目的に向かって、みんなで力を合わせ、アイデアを出し合い、よりよいものにしようとする連帯感や、友達と力を合わせると、一人ではできないこともできたという充実感などを味わえるようになってほしいと願っています。

このように、“よく考えて行動する子どもを育むための園生活のあり方”を考え、その時期にふさわしい生活を送ることができるようにしたいと思います。

資料2 本園オリジナル週日案枠

高知大学教育学部附属幼稚園 平成 年度 歳児 組 月 第 週 担任 補助 在籍 男児 名 女児 名 計 名 園長印 副園長印

先週の子どもの姿と教師の願い		生活習慣・保健・食育・安全			園長印	副園長印
	日(月)天気	日(火)天気	日(水)天気	日(木)天気	日(金)天気	
○ねらい ■内容						手遊び: 歌: 紙芝居: 絵本: 自然:
・予想される子どもの姿 ◇環境構成と☆援助のポイント						
行事など						
生活の流れ						
家庭との連携						
反省・評価						

よく考えて行動する子ども/健康/人間関係/環境/言葉/表現/健康な心と体/自立心/協同性/道徳性・規範意識の芽生え/社会生活との関わり/思考力の芽生え/自然との関わり・生命尊重/数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚/言葉による伝え合い/豊かな感性と表現

よく考えて行動する子どもに育つ道筋（3つの側面から見て）

時期 側面	入園	I “心ゆくまで”の頃	II “自分なりに”の頃	III “経験を生かして”の頃	卒園
自分 を 発 揮 し な が ら	<p>① 五感を通して、いろいろなもの・ことに興味をもつ ○幼稚園で安心して過ごすなかで、見るもの、聞くこと、触れるものなど、いろいろなもの・ことが新鮮で、興味をもつ。</p> <p>② 様々な事象に心動かされる ○水の流れる様子や砂が水で流されていく様子、色水遊びでの水の色が変わっていく様子など、物の様子が変わっていくことに心動かされる。</p> <p>③ 繰り返しやってみる ○したいことや、できるようになったことを繰り返し、心ゆくまで楽しむ。</p>	<p>① 繰り返し遊ぶなかで、性質・しぐみに気づいたり、試したり、考えたりする ○身近な物を使って繰り返し遊ぶなかで「どうしてだろう」「～するためにはどうしたらいいのかな」などと物の性質やしぐみについて気づいたり、試したり、考えたりする。</p> <p>② 自分で素材、道具、場所などを選んで遊ぶ ○自分のほしい素材や使いたい道具を選んだり、したい遊びがしやすい場所に行ったりする。</p> <p>③ 自分なりによりよい方法を考える ○友達の様子を見たり、先生にヒントをもらったりして、自分なりによりよい方法を考える。</p>	<p>① いろいろな性質・しぐみを生かしてイメージしたものを表現する ○自分のイメージをもとに、細かいところまでこだわって表現する。</p> <p>② ぴったりの素材、道具、場所などを選ぶ ○自分の作りたい物にぴったり合う素材や道具を選んだり、本物らしさを求めたりして工夫して遊ぶ。</p> <p>③ 見通しをもって、よりよい方法を考える ○「～するために、こうしておこう」と、先を見通して予め準備したり、「～だから、こうしてみよう」などと、よりよい方法を考えたりして遊ぶ。</p>		
相手 と か か わ る な か で	<p>① 先生や友達のしていることに興味をもち、自分もやりたくなる ○先生や友達のしていることや発する言葉に興味をもって、自分も同じことをしてみる。だんだんと、自分なりに必要な場面で言ったりやったりするようになる。</p> <p>② 自分の思いを言葉で伝えようとする ○いろいろな経験のなかで、自分の思いを表現する言葉に気づき、自分なりの言い方でかかわろうとする。</p> <p>③ いろいろな人の思いにふれたり、感じたりする ○相手の表情や、言葉、身振り、手振りなどから、その人の思いやその場の雰囲気を感じる。</p>	<p>① 友達と一緒に楽しい遊びを考える ○友達と一緒に、したい遊びができる場所に出かけたり、遊びに使いたい物を集めたりして、思いを出しながら遊びを進めていこうとする。</p> <p>② 自分の思いや考えを言葉で伝えようとする ○自分の思いや考えを聞いてほしくて、自分なりの言い方や方法を工夫して、伝えようとする。</p> <p>③ 相手の思いをわかろうとする ○様々な感情を体験し、先生のかかわりをもとに今まで気づいていなかった相手の思いにも気づき、相手の立場になって考えてみようとする。</p>	<p>① 友達から刺激を受けたり、共通のイメージをもったりして遊びを進めていく ○遊びのイメージに合うような場所や道具、材料などを選び、見通しをもって、より自分達の遊びのイメージに合うように遊びを進めていく。</p> <p>② 自分の思いや考えを言葉で伝え、相手の思いや考えもわかるようになる ○自分の思いや考えを相手にわかりやすく言葉で表現したり、相手の思いや考えを聞いたりして、よりよい方法を一緒に考える。</p> <p>③ 相手の思いに合わせてかかわろうとする ○自分の思いだけを優先せず、相手の思いにも合わせて行動したり、自分達で相談して解決したりしようとする。</p>		
集団 の 一 員 と し て	<p>① 幼稚園がどんなところかを知る ○先生や友達と一緒に、遊んだり、片付けたり、お弁当を食べたりして、幼稚園生活を知る。</p> <p>② 大勢で過ごす楽しいなと感じる ○同じことをして遊んだり、同じ場所を共有したりして、かかわりが生まれ、しだいにみんなと過ごす楽しいなと感じるようになる。</p>	<p>① 集団のなかで、自分なりに行動する ○先生に「～しましょう」と言われなくても、自分なりに先を見通して自分が必要だと思ったことや、やりたいことをやってみようとする。</p> <p>② 集団と自分の思いとの間でゆれる ○まわりの様子などから、今どうすることが望ましいのか気づきつつあるが、自分がしたいことや自分はやりたくないという思いを優先してしまうこともある。</p>	<p>① みんなと力を合わせるなかで、共通の目的をもってよりよい方法を考える ○クラスみんなで共通の目的に向かって、力や心を合わせて活動に取り組むなかで、ルールや役割分担など、よりよい方法を考え、遊びを進めていく。</p> <p>② 生活の流れを見通して自分達で生活をつくっていくこととする ○幼稚園での生活の流れを見通し、時間の流れや自分のすべきことを意識して、みんなで相談しながらよりよい生活をつくっていくこととする。</p>		



## 第2部 教育目標

本園が卒園するまでに目指す“よく考えて行動する子ども”とは、今までの経験から多面的に考えたり、先への見通しをもとうとしたりしながら、自分で判断して行動しようとする子どもです。

本園では、以下のような3つの子どもの姿を大切にします。

## 1 心も体もすこやかでたくましい子ども

子ども達は、うれしいと体が弾みますし、体を弾ませているうちに気持ちが明るくなっていくこともあります。自分に素直になることができる心をもつとともに、うまくいかない時は、またやり直そうとするあきらめない心もち、状況に応じて柔軟に対応できる心を育んでいきたいと考えます。

また、思いきり動かすことのできる体や、バランスを保ちながら自由に動かすことのできる体も育んでいきたいと考えます。

このように心も体もすこやかでたくましい子どもを目指しています。

## 2 いろいろなことに興味をもち、生き生きと遊ぶ子ども

子ども達は、自分のまわりにあるものや、身近にあるできごと、自然現象など、心惹かれることがあると、目を輝かせて取り組んでいきます。自分からまわりの環境にかかわっていくなかで、気づいたり発見したりしたことへの喜びや驚きは大きく、自らの世界を広げていく力の源ともなります。

このように、身のまわりの物事に自分から興味や関心をもってかかわっていく生活を大切にし、自分らしく生き生きと遊ぶ子どもを目指しています。

## 3 自分も友達も大切にする子ども

子ども達は、友達とのかかわりで楽しいことをたくさん経験します。その一方で、自分の思うようにならないことも、いろいろ経験します。喜びを味わったり、心の葛藤を経験したりして、自分とは異なる友達の思いや考えに気づいていくことができるようになります。そして、相手の考えを確かめたり、推察したりなどして、自分と相手の気持ちを関連づけて考えることができるようになります。そのようなかわりの積み重ねによって、集団の中で自分自身の必要性を感じとり、自分を大切に思うとともに、友達も大切、みんなも大切にしようとする子どもを目指しています。

これら3つの子どもの姿のどれにも大切なことは、自分で考え、自分で判断し、自分で行動し、自ら課題を解決していくことであると考え、目指す子ども像を“よく考えて行動する子ども”とし、教育目標を“よく考えて行動する子どもを育てる”としました。

## 【学年別教育目標】

### “心ゆくまで”の頃（主に年少期）の教育目標

心ゆくまで遊んだり繰り返したりしながら、自分で考えて行動する基礎を培う。

入園の頃の子ども達は、目新しいものやできごとへの期待や喜びと同時に、集団生活にいろいろな戸惑いや不安を感じがちであるから、まず、教師と子どもとの間に信頼関係を築くことを心がける。この時期の子ども達は、相手の立場に立って考えることが非常に難しい。その子ども達に、自分の思いを抑えるのではなく、出すことができるようにすることを目指して援助することが大切である。ゆくゆくは相手の立場に立って考えることができるようにするために、相手の思いをわかりやすく伝えていく。

“心ゆくまで”の頃の子どもは、いろいろなことに好奇心をいだき、真似をしたがるのが大きな特徴である。また、同じことを何度も繰り返したり、大人からすると一見取るに足らない、もしくは無駄に思われる行為がよく見られたりする。しかし、どの行為にも子どもなりの思いがある。まわりにいる大人や友達の真似をしながら、自分達の暮らしている社会や文化を自分自身のなかに無意識にためこんでいる。

この頃は、“心ゆくまで”遊ぶなかで、いろいろな事象や人とのかかわりに心を動かされる様々な体験をする機会を大切にし、自分で考えて行動する基礎を培いたい。

### “自分なりに”の頃（主に年中期）の教育目標

遊びのなかで試行錯誤を繰り返し、様々な感情体験をすることを通して、他者の存在を意識し、自分なりに考えたり行動したりする子どもを育てる。

“自分なりに”の頃は、自分の思いや考えなどが今までよりもはっきりしてきて、それらを相手に伝えようとする姿や、自分のよさやできることを先生に認めてもらいたい姿がよく見られるようになる。いろいろなことに対する自信もついてきて、自分でしようとする気持ちも高まってくる。いわゆる自分が躍動する時期である。

この頃は、あらかじめ、よく考えてから行動するといった見通しをもつことは少ない。しかし、繰り返し遊ぶ中で、もの・ことの性質やしくみに気づいたり考えたりする。偶然であったとしても「できた!」「やったあ!」といった体験の積み重ねを大事にしたい。

また、まわりの友達にも気持ちが向いていく時期であり、思いを出し合って遊ぶ姿が増えてくる。自分の思いが強くなってしまうと、相手のことまで気持ちが及ばずにぶつかり合ってしまうこともある。しかし、教師と一緒に話したり落ち着いて考えたりすると、「自分はこうしたいけど、〇〇ちゃんは…したいんだ」としだいにわかるようになる。友達とのかかわりの中で、様々な感情体験を大切に受けとめ、その気持ちを支えていく。そして、相手の気持ちを受け入れていくことができるようにし、子ども同士がお互いのよさに気づき、かかわり合う楽しさを感じていくことができるようになることを目指したい。

自分が躍動する時期だからこそ、自己と集団との間に葛藤が生まれる。集団の一員として、今は〇〇をしなければならないということがわかっている、自分がしたいことを優先したり、その狭間で心がゆれたりすることもある。葛藤やゆれなどを通して、自分なりに折り合いをつけることができるように育てたい。

## “経験を生かして”の頃（主に年長期）の教育目標

集団のなかで心も体も思いきり動かして遊んだり、経験を生かしてよく考えて行動したりする子どもを育てる。

“経験を生かして”の頃は、これまでに経験してきたことを生かしながら、より自分のイメージにあった遊びを展開することができるようになってくる。

仲間意識も強くなり、チームで競い合う遊びを好んだり、大勢でルールを守ったりして遊ぶことも楽しむことができるようになってくる。主体的に取り組む姿を認め、考えたことが実現できるように援助することで、自分の力を発揮することができるようにしたい。

自分とは違う相手の思いもわかるようになってきて、友達と共通のイメージを持ち、思いや考えを出し合いながら遊びを進めていくことが楽しくなってくる。クラスや学年のみんなで共通の目的をもって取り組もうとする時、お互いの意見を出し合う場を保障したり、一人一人の意見を共通の目的へとまとめていったりして、みんなと同じ目的をもって力を合わせていこうという雰囲気づくりをする。

みんなが心地よく園生活を送ることができるように、集団の一員として、時間の流れや自分のすべきことも意識しながら、見通しをもって自分達で園生活をつくっていくことを目指す。また、園全体の仕事をしたり、小さい組の世話をしたりする機会をつくり、自分達が大きくなったという喜びや誇りを感じられるように援助する。

最終的には、自分達で役割分担しながら遊びや生活を進めていったり、集団で共通の目的をもって活動に取り組んだりするなかで、自分の力を発揮することが自信や喜びにつながる子どもを育てたい。





3 歳児



4 歳児

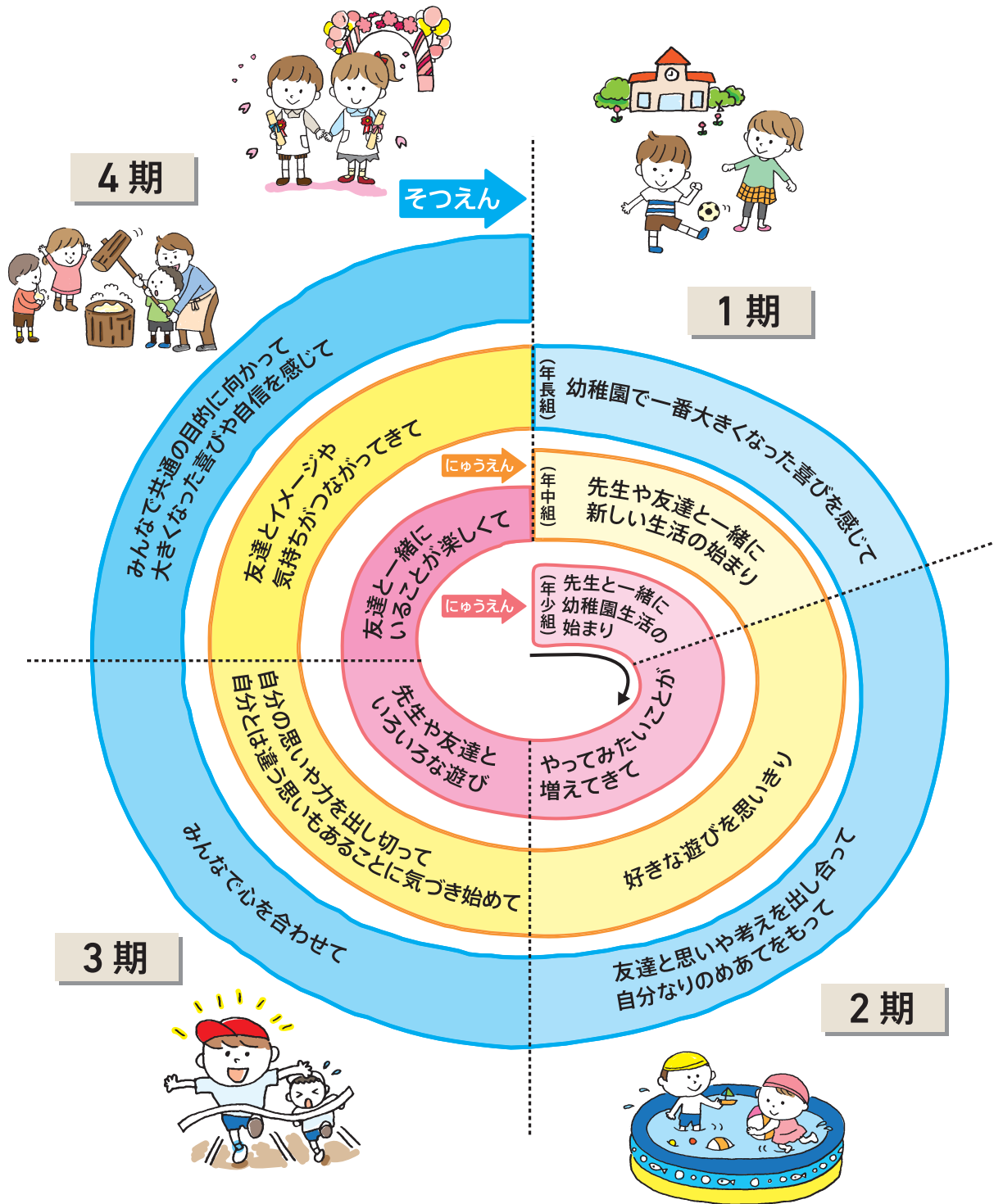


5 歳児

# 【3学年連続した期の特徴】

本園の子どもそれぞれの期の特徴を、簡潔に表したものを図にまとめ、幼稚園3年間の子どもの育ちがわかるように示したものの。

## 本園の子ども達が育つ道筋





## 第3部 教育課程



# 教育課程を見ていただくにあたって

**この期によく見られる子どもの姿**  
 記録や事例などからその期によく見られる子どもの姿を拾い上げて、まとめていきました。その際私達は、子どもと遊びや生活を共にしながら、子どものよさに目を向け、マイナス的な見方でなくプラスの方向に向かう姿として捉えていくことを心がけました。  
 “この期によく見られる子どもの姿”と“ねらい・内容”内にある下線太文字は、特にその期によく考えて行動する子どもの特徴として見られる姿やねらい、内容です。

**期**  
 子ども達の育ちの節目を期の切れ目として捉えました。学年ごとに1年を通して子ども達の姿の変化を捉えていくと、本園では1年間が4期に分かれました。そこで、長期の指導計画は1年を4期に分けて作成していますが、学年の育ちの違いから期の長さは異なっています。また、同じ学年であっても、子ども達の発達には個人差があるので、切れ目は斜線で表しています。年少組は個人差が大きいので、ゆるやかな傾斜になっていますが、個人差が少なくなってくる年長組は反対に、傾斜が急になっています。  
 期を追って色を濃くしていき、同じ色で表すことで1年間の流れの中でどの期にあたるのかがわかるように表しています。

**ねらい (○)**  
 “ねらい”は、子ども達はその期に、何を経験し、どのように成長してほしいのか、その期に育つことが期待される育ちの方向性を示すものです。この期に、子どもの内面に育ちつつあることを捉えた上で、多くの子ども達の内面に育てたいと考える心情・意欲・態度の方向性を、教師の願いも織り込んで表しています。

**内容 (■)**  
 “内容”は、ねらいとして捉えた方向性に向かうために、教師が援助し、子ども達が生活の中で実際に経験し、身につけていくことが望まれることを表しています。その際、その期のねらいの方向性に向かって、経験する中身がわかるように表すことを心がけました。

3年保育 3歳児 教育課程												
月	4月	5月	6月	7月	(8月)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期	1期		2期			3期			4期			
期	1期 (先生と一緒に・幼稚園生活の始まり)		2期 (やってみたくが増えてきて)			3期 (先生や友達といろいろな遊び)			4期 (友達と一緒にいることが楽しくて)			
この期によく見られる子どもの姿	家庭での経験や月齢、保育経験などの違いによって、個人差が非常に大きい。親と離れることも集団に入ること初めての子どもがほとんどであり、園生活の中で、初めての体験がたくさんある時期でもある。楽しみとともに緊張や戸惑い、不安もある。先生と一緒に遊んだり、身のまわりのことをしたりするなかで、先生への信頼感や園生活への安心感が少しずつ芽生え、だんだんと幼稚園での生活の仕方がわかってきて、自分の好きな遊びを思い思いに楽しむようになる。		幼稚園にも慣れ、安心して過ごすことができるようになってくる。表情も明るくなり、おしゃべりも増え、体の動きも活発になる。先生やまわりにいる友達と一緒に遊ぶ楽しさにも気づき、気に入った友達と一緒にいることも求め始める。自分の思いを出すようになり、したいことを楽しむようになるが、要求のぶつかり合いやつもりの食い違いなども起こりがちである。			自分のしたいことがはっきりしてきて、いろいろな感情を表現するようになる。仲のよい友達と一緒に遊ぶことが多くなり、ごっこ遊びを楽しんだり、同じ物を作ったり、戸外で体を動かしたりなど、いろいろな遊びを楽しむ。友達を求める気持ちは強くなってきているが、まだ、自分の楽しみが優先なので、仲よく遊んでいるかと思えば、いざこざになったりもする。			すっかり幼稚園の生活に慣れ、保育室を拠点として、仲のよい友達と気に入った場所で遊ぶようになる。ごっこ遊びで同じようなイメージをもつことができるようになり、仲のよい友達と同じことを言ったりするなど、一緒に遊ぶことが楽しくてたまらない様子が見られる。少しずつ仲のよい友達の思いにも心が向くようになる。			
ねらい・内容の中の丸付き赤文字について	○先生に親しみをもつ。◎◎◎◎ ■先生と一緒に遊ぶなかで、友達の存在に気づく。◎◎◎◎ ■先生と一緒に遊んだり、近くにいる友達のすることを見たり、部屋のまわりをゆっくり散策したりする。◎◎◎◎ ■絵本や紙芝居を喜んで見たり、手遊びや歌を楽しんだりする。◎◎◎◎		○先生や友達と一緒に、自分のしたいことをする楽しさを味わう。◎◎◎◎ ■自分のしたい遊びや物、場を見つけて遊ぶ。◎◎◎◎ ■気に入った友達と触れ合いながら、一緒に楽しく遊ぶ。◎◎◎◎ ■自分とは違う思いをもつ人もいるんだなと感じる。◎◎◎◎ ■感触を楽しみながら、砂、土、水などに十分触れる。◎◎◎◎ ■小動物を見たり、探したり、触れたりする。◎◎◎◎			○先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。◎◎◎◎ ■仲のよい友達を誘って、一緒にいることを楽しむ。◎◎◎◎ ■体を動かすことの楽しさや心地よさを知る。◎◎◎◎ ■身近なものや遊具に興味をもって、自分のペースでゆったり遊ぶ。◎◎◎◎ ■まわりの友達と遊ぶ楽しさを感じたり、そのなかで自分なりの楽しさを見つけたりする。◎◎◎◎ ■秋の自然物を使って遊ぶ。◎◎◎◎			○いろいろなことに興味をもち、好きな遊びを心ゆくまで楽しむ。◎◎◎◎ ■自分の思ったことを表現する楽しさを知る。◎◎◎◎ ■戸外で積極的に体を動かして遊ぶ。◎◎◎◎ ■冬の自然や春への自然に触れて遊ぶ。◎◎◎◎ ■自分とは違う友達の思いにふれていく。◎◎◎◎			
内容 (■)	○園生活に少しずつ慣れ、安心して過ごす。◎◎◎◎ ■今までに遊んだことのある遊びをしたり、幼稚園ならではの遊びを楽しんだりする。◎◎◎◎ ■自分の気に入った場や物、遊びを見つける。◎◎◎◎ ■小動物を見たり、草花を摘んだりする。◎◎◎◎◎◎ ■自由に使うことのできる遊具や材料、道具があることを知る。◎◎◎◎ ■家庭とは違う園での生活の仕方があることに気づく。◎◎◎◎		○園生活の仕方を知り、自分で身の回りのことなどをやってみようとする。◎◎◎◎ ■園での生活の流れがだいたいわかり、安心して過ごす。◎◎◎◎ ■思いを伝えるための言葉があることに気づき、使ってみる。◎◎◎◎ ■身の回りのことを必要に応じて手伝ってもらいながら、少しずつ自分で試みる。◎◎◎◎ ■先生や友達に自分なりの方法で親しみをもって挨拶をする。◎◎◎◎ ■生活や遊びを通して、危険な事、してはいけないことなどに気づいていく。◎◎◎◎◎◎			○先生や友達にいろいろなやり方で自分の思いを表現する。◎◎◎◎ ■自分のしたいことや言いたいことを言ってみる。◎◎◎◎			○クラスの友達とかかり合いながら一緒に過ごす楽しさを味わう。◎◎◎◎ ■先生や友達と、簡単なルールのある遊びを楽しむ。◎◎◎◎◎◎ ■みんなで一緒に歌ったり、ごっこ遊びをしたりしてクラスのみんなと一緒に遊ぶことを楽しむ。◎◎◎◎◎◎			

( )の中は、それぞれの期の特徴を簡潔に表したものです。12期につなげて渦巻き状にしたものが「3学年連続した期の特徴(25頁)」です。

**ねらい・内容の中の丸付き赤文字について**  
 ねらい・内容のあとに小さな赤文字で書いてある項目は“10の姿”の最初の文字などです。これらの赤文字の順番は強弱や優先順位ではありません。

- “10の姿”の最初の文字など
- ・健康な心と体
  - ・自立心
  - ・協同性
  - ・道徳性・規範意識の芽生え
  - ・社会生活との関わり
  - ・思考力の芽生え
  - ・自然との関わり・生命尊重
  - ・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
  - ・言葉による伝え合い
  - ・豊かな感性と表現

# 3年保育 3歳児 教育課程

月	4月	5月	6月	7月	(8月)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期	1期			2期			3期			4期		

期	1期 (先生と一緒に・幼稚園生活の始まり)	2期 (やってみたいことが増えてきて)	3期 (先生や友達といろいろな遊び)	4期 (友達と一緒にいることが楽しくて)
この期によく見られる子どもの姿	<p>家庭での経験や月齢、保育経験などの違いによって、個人差が非常に大きい。親と離れることも集団に入ること初めての子どもがほとんどであり、園生活の中で、初めての体験がたくさんある時期でもある。楽しみとともに緊張や戸惑い、不安もある。<u>先生と一緒に遊んだり、身のまわりのことをしたりするなかで、先生への信頼感や園生活への安心感が少しずつ芽生え、だんだんと幼稚園での生活の仕方がわかってきて、自分の好きな遊びを思い思いに楽しむようになる。</u></p>	<p>幼稚園にも慣れ、<u>安心して過ごす</u>ことができるようになってくる。表情も明るくなり、おしゃべりも増え、体の動きも活発になる。先生やまわりにいる友達と一緒に遊ぶ楽しさにも気づき、気に入った友達と一緒にいることも求め始める。<u>自分の思いを出す</u>ようになり、したいことを楽しむようになるが、要求のぶつかり合いやつもりの食い違いなども起こりがちである。</p>	<p><u>自分のしたいことがはっきりしてきて</u>、いろいろな感情を表現するようになる。仲のよい友達と一緒に遊ぶことが多くなり、ごっこ遊びを楽しんだり、同じ物を作ったり、戸外で体を動かしたりなど、いろいろな遊びを楽しむ。友達を求める気持ちは強くなってきているが、まだ、自分の楽しみが優先なので、仲よく遊んでいるかと思えば、いざこざになったりもする。</p>	<p>すっかり幼稚園の生活に慣れ、保育室を拠点として、仲のよい友達と気に入った場所で遊ぶようになる。ごっこ遊びで同じようなイメージをもつことができるようになり、仲のよい友達と同じことを言ったりするなど、一緒に遊ぶことが楽しくてたまらない様子が見られる。少しずつ<u>仲のよい友達の思いにも心が向く</u>ようになる。</p>
ねらい ○ ・ 内容 ■	<p>○先生に親しみをもつ。①②③ ■先生と一緒に遊ぶなかで、<u>友達の存在に気づく。</u>④⑤⑥⑦ ■先生と一緒に遊んだり、近くにいる友達のすることを見たり、部屋のまわりをゆっくり散策したりする。⑧⑨⑩ ■絵本や紙芝居を喜んで見たり、手遊びや歌を楽しんだりする。⑪⑫⑬</p> <p>○園生活に少しずつ慣れ、<u>安心して過ごす。</u>⑭⑮ ■今までに遊んだことのある遊びをしたり、幼稚園ならではの遊びを楽しんだりする。⑯⑰⑱ ■自分の気に入った場や物、遊びを見つける。⑲⑳ ■小動物を見たり、草花を摘んだりする。㉑㉒㉓ ■自由に使うことのできる遊具や材料、道具があることを知る。㉔㉕㉖ ■家庭とは違う園での生活の仕方があることに気づく。㉗㉘㉙</p>	<p>○先生や友達と一緒に、<u>自分のしたいことをする楽しさ</u>を味わう。①②③ ■自分のしたい遊びや物、場を見つけて遊ぶ。④⑤ ■気に入った友達と触れ合いながら、一緒に楽しく遊ぶ。⑥⑦⑧ ■自分とは違う思いをもつ人もいるんだなど感じる。⑨⑩⑪ ■感触を楽しみながら、砂、土、水などに十分触れる。⑫⑬⑭ ■小動物を見たり、探したり、触れたりする。⑮⑯</p> <p>○<u>園生活の仕方を知り、自分で身の回りのことなどをやってみようとする。</u>⑰⑱⑲ ■<u>園での生活の流れがだいたいわかり、安心して過ごす。</u>⑳㉑㉒ ■<u>思いを伝えるための言葉があることに気づき、使ってみる。</u>㉓㉔㉕ ■身の回りのことを必要に応じて手伝ってもらいながら、少しずつ自分で試みる。㉖㉗㉘ ■先生や友達に自分なりの方法で親しみをもって挨拶をする。㉙㉚㉛ ■生活や遊びを通して、危険な事、してはいけないことなどに気づいていく。㉜㉝㉞㉟</p>	<p>○先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ■仲のよい友達を誘って、一緒にいることを楽しむ。①②③ ■体を動かすことの楽しさや心地よさを知る。④⑤ ■身近なものや遊具に興味をもって、<u>自分のペースでゆったり遊ぶ。</u>⑥⑦⑧ ■まわりの友達と遊ぶ楽しさを感じたり、そのなかで自分なりの楽しさを見つけたりする。⑨⑩⑪ ■秋の自然物を使って遊ぶ。⑫⑬⑭</p> <p>○先生や友達にいろいろなやり方で自分の思いを表現する。 ■自分のしたいことや言いたいことを言う。⑮⑯⑰⑱</p>	<p>○<u>いろいろなことに興味をもち、好きな遊びを心ゆくまで楽しむ。</u>①② ■自分の思ったことを表現する楽しさを知る。③④ ■戸外で積極的に体を動かして遊ぶ。⑤⑥ ■冬の自然や春への自然に触れて遊ぶ。⑦⑧ ■自分とは違う友達の思いにふれていく。⑨⑩⑪⑫</p> <p>○クラスの友達とかかわり合いながら一緒に過ごす楽しさを味わう。⑬⑭⑮ ■先生や友達と、簡単なルールのある遊びを楽しむ。⑯⑰⑱⑲ ■みんなで一緒に歌ったり、ごっこ遊びをしたりしてクラスのみんなどと一緒に遊ぶことを楽しむ。㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙</p>

## 2・3年保育 4歳児 教育課程

月	4月	5月	6月	7月	(8月)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期	1期		2期			3期			4期			

期	1期 (先生や友達と一緒に・新しい生活の始まり)	2期 (好きな遊びを思いきり)	3期 (自分の思いや力を出しきって自分とは違う思いもあることに気づき始めて)	4期 (友達とイメージや気持ちがつながってきて)
この期によく見られる子どもの姿	年少時には1クラスであった子ども達が、進級時には2クラスに分かれ、新入児を迎えて新しい年中組が始まる。進級児は以前とは違う幼稚園の雰囲気戸惑いを感じたり、新入児も新しい生活に期待感をもつ一方で、緊張した様子も見られ、ちょっとしたことで不安になることもある。次々に遊びが変わり、ひとつの遊びの時間が短い。先生のそばで遊んだり、知っている友達と遊んだりするなかで、少しずつ落ち着き、その子どもらしさが出てくる。友達がするのを見たり、真似したりするなかから好きな遊びが見つかっていく。	好きな遊びと一緒に遊びたい友達が見つかり、自分らしさを出し始める。言葉のやりとりなども増え、クラスがにぎやかになる。また、 <u>友達や先生と遊ぶなかで</u> <u>したいことがはっきりして、ひとつの遊びを繰り返し楽しむようになる。</u> 自分がやりたいことを続けたくて、 <u>片付ける気持ちになるまで時間を必要とすることもある。</u> それぞれの主張が強くなり、物や場の取り合いが多くなる。	経験やイメージが広がり、 <u>自分なりのアイデアや工夫を遊びのなかに取り入れよう</u> としたり、遊びの楽しさや興味が続き、落ち着いて遊ぶようになってくる。また、 <u>おもしろいと思ったことに自分なりのやり方で意欲的に取り組み、自分ができるようになったことを先生に認めてもらいたい気持ち</u> が大きくなる。それぞれが自分らしさを発揮して遊ぶようになることで、今までかかわりの少なかった友達とも、思いを伝え合いながら遊ぶ姿が見られてくる。自分の思いを受け入れてもらったり、時には受け入れてもらえなかったりすることを通して、 <u>少しずつ相手はこうしたいんだなという思いがわかるようになる。</u> その一方で自分はこうしたいという思いもしっかりあって、それを抑えきれない姿も多い。 <u>自分の思いを通してしまった後で、自分の思いと相手の思いと両方がわかるために心がゆれ、戸惑いを感じる子どももいる。</u>	気の合う友達と思いを出し合って遊ぶことが増え、お互いに思いを出し合うことで遊びのイメージがつながっていき、クラスみんなで遊ぶ楽しさがわかってくる。 <u>自分の気持ちを優先しがちではあるが、ルールを守ろうとしたり、友達の様子を意識して行動しようとする気持ちが強まっていく。</u> また、今までしようとしなかったことや新しいことにも、友達がしている姿を見て、自分もやってみようとする意欲が出てくる。遊びや生活など、 <u>いろいろな場面で見通しをもつことができるようになってくる。</u>
ねらい(○)・内容(■)	<p><b>【進級・新入児共通】</b></p> <p>○自分のしたい遊びや好きな場所を見つけて、園生活を心地よく感じる。(健立社)</p> <p>■自分のしたいことを見つけ、先生や友達と遊ぶ。(社立)</p> <p>■体を動かしたり、楽曲等に合わせて思い思いに表現したりすることを楽しむ。(健豊思)</p> <p>■様々な感触の心地よさを感じながら遊ぶ。(思豊)</p> <p>■園庭にある花や実を集めたり、身近な小動物に触れたり捕ったりする。(自思豊)</p> <p>○園での生活の仕方を知り、自分でやってみようとする。(健立通)</p> <p>■登降園時や弁当の用意などの仕方を知り、先生や友達と一緒にしてみようとする。(健立豊)</p> <p><b>【進級児】</b></p> <p>○友達や先生とかかわりを楽しみ、新しいクラスに慣れる。(健立社)</p> <p>■年中組になってから使うことができる遊具で遊んだり、新しいクラスの友達と過ごしたりすることに、楽しさを感じる。(健社立)</p> <p>■幼稚園のことを新入児に教えたり、自分のできることを手伝ったりする。(社立協言豊思)</p> <p><b>【新入児】</b></p> <p>○先生やまわりの友達とかかわりながら、幼稚園に慣れる。(社立)</p> <p>■やってみたい遊びや遊んでみたい道具で遊んだりして、安定して過ごす。(健立)</p> <p>■自分の思ったことや感じたことを先生に伝える。(言社立思)</p>	<p>○自分のしたいことを見つけて、友達や先生と一緒に遊ぶことを楽しむ。(立思社)</p> <p>■自分なりのイメージや見立てを楽しんだり、表現したりしながら遊ぶ。(豊思)</p> <p>■友達や先生がしていることに興味をもって、自分でも試してみる。(思立)</p> <p>■友達や先生と一緒に、好きなものや憧れているものになりきって遊ぶ。(思協豊)</p> <p>■先生と一緒に自分の思いを友達に言おうとする。(言社思)</p> <p>○思いをめぐらし、試したり、繰り返したりして遊びを楽しむ。(立社思)</p> <p>■砂・土・水の感触を味わいながら、自分なりに試したり、発見したりして遊ぶ。</p> <p>■身近な草・花・実を集めたり、遊びに使ったりして遊ぶ。</p> <p>■小動物を探したり、捕ったり、先生と一緒に飼ってみたいりする。</p> <p>■遊びのなかでいろいろな手触り、音、形などがあることを感じて、繰り返し何度も試してみる。</p>	<p>○自分のしたいことをはっきりと表して、遊びや気の合う友達とかかわりを存分に楽しむ。(思立社豊)</p> <p>■秋の自然物に触れ、集めたり、遊びに取り入れたり、工夫して使ったりする。(自思豊和)</p> <p>■遊びを通して気づいたり、知ったりしたことを生かして、友達と一緒に遊ぶ。(思社協言)</p> <p>■いざこざを経験したり、思いを伝え合ったりするなかで自分とは異なる考えがあることに気づく。(言思豊)</p> <p>■友達や先生と一緒に、思いきり体を動かして遊ぶ。(健協思)</p> <p>■まわりの友達と一緒に、ルールのある遊びを楽しみ、ルールの大切さに気づく。(社協思豊)</p> <p>○自分なりの見通しをもって、できることをしようとする。(立思豊)</p> <p>■遊びに必要な物の準備や片付け、衣服の着脱など、自分が必要だと感じたことをやってみる。(社立思豊)</p> <p>■できたことを誇らしく感じ、他のこともやってみる。(立社)</p> <p>■自分が気がついたり、やってみてわかったりしたことを、友達にも教えてあげようとする。(社思言)</p>	<p>○友達とイメージをふくらませて、遊ぶ楽しさを味わう。(協立豊思)</p> <p>■友達と一緒に遊びが楽しくなりそうな物や場を準備したり、いろいろな工夫をしたりして遊ぶ。(協思)</p> <p>■友達と誘い合って、自分達でルールやアイデアを出し合って遊ぶ。(社協言)</p> <p>■遊びが広がっていくうれしさや楽しさ、思いきり体を動かす心地よさなど、友達と思いを共感しながら遊ぶ。(健協言豊)</p> <p>○友達のことを知り、自分の思いも表現しようとする。(協言通社)</p> <p>■いろいろな遊びを楽しんでいくなかで、友達の思いや今まで気づかなかったよさにふれる。(協通社)</p> <p>■自分の考えを言葉で言ったり、友達の考えをよく聞いたりして、遊びを進める。(言思社)</p> <p>■クラスみんなの前で、自分の言いたいことを言ったり、見てほしいことをしてみせたりしてみる。(言社協立)</p>

## 2・3年保育 5歳児 教育課程

月	4月	5月	6月	7月	(8月)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期	1期		2期			3期				4期		

期	1期 (幼稚園で一番大きくなった喜びを感じて)	2期 (友達と思いや考えを出し合って・自分なりのめあてをもって)	3期 (みんなで心を合わせて)	4期 (みんなで共通の目的に向かって 大きくなった喜びや自信を感じて)
この期によく見られる子どもの姿	<p>自分の生活する場所を整えたり、小さい組の世話をしたりする。気の合う友達と誘い合って、今まで繰り返し楽しんできた遊びを自分達で進めようとする。また、年長ならではの遊具や道具、素材で遊ぶことを楽しみ、年長組になった喜びをもち、はりきっている姿が見られ、いろいろな人とのかかわりが増えてくる。</p>	<p>気の合う友達と思いや考えを出し合いながら、自分達で遊びを進めていこうとする。自分の思いや考えを実現したくて、いざこざになることもある。友達がしていることが刺激となって、少し難しそうなことにも挑戦してみようとする。みんなで行動するとき、自分はどうしたらよいかを自分なりに考えようとする。</p>	<p>いろいろな友達を誘い合って遊びを楽しむなど、友達関係に広がりが見られるようになる。また、仲間意識が強くなり、チームで競い合う遊びを好み、人数が多くてもルールを守って遊ぶことを楽しむ。そのなかで自分の得意なことを発揮して遊ぶ姿が見られる。友達の考えも受け入れて遊ぶ楽しさがわかり、友達と一緒に共通の目的をもって協力して遊ぶようになる。友達同士で思いや考えを言葉で伝え合い、必要に応じてルールをつくり変えたり相談したりして進めていくようになる。</p>	<p>クラスや学年で共通の目的に向かって、話し合ったり、教え合ったりして、みんなで力を合わせて見通しをもって活動することが楽しくなる。友達のよいところがわかり、相手の気持ちにも合わせて行動しようとする。卒園に向けての行事や生活などを進めていくなかで、大きくなったという喜びや自信をもち、自分の力を発揮するようになる。</p>
ねらい(○)・内容(■)	<p>○年長組になった喜びや自覚をもち。(健立協通社思言)  <b>■</b>小さい組の世話や手伝いをし、役に立つ喜びを感じる。(社思通協立)  <b>■</b>遊びや生活に必要な場や物、環境について必要な情報を取り入れ、話し合いながら、みんなでつくっていく。(健立協通社思言)  <b>■</b>文字に親しみ、便利さに気づく。(数思)</p> <p>○気の合う友達や先生とかかわりながら、好きな遊びを楽しむ。(健協通社思言)  <b>■</b>友達や先生と一緒に、今まで親しんできた遊びや、年長組になってできるようになった遊びに取り組む。(健協社)  <b>■</b>春の生き物を、友達と一緒に工夫して捕まえ、命あるものとして大切にす。(自思協)  <b>■</b>植物の成長や変化を楽しみにしながら、好奇心や探究心をもって苗植えや世話などをする。(自思社数)  <b>■</b>自分なりの言葉で思いや考えを伝えようとするともに相手の言葉や様子からその思いや考えに気づく。(言思健豊協)</p>	<p>○気の合う友達と思いや考えを出し合いながら、自分達で遊びを進めていく楽しさを味わう。(協言自豊)  <b>■</b>友達とアイデアを出し合いながら友達の様々な考えにふれ、遊びの場や必要な物を作ったり、自分達なりのルールを決めたりして遊ぶ。(言自協通社思健)</p> <p>○自分なりのめあてをもって遊びに取り組もうとする。(自道思)  <b>■</b>試したり工夫したりしながら、自分なりのイメージで表現する。(思豊)  <b>■</b>水・砂・土などの身近な環境とかかわるなかでいろいろな遊びを考えたり試したりする。(社自思立教)  <b>■</b>友達と一緒に、身近な小動物を工夫して捕まえたり、飼ったりし好奇心や探究心をもつ。(自思協社)  <b>■</b>図鑑と比べながら、小動物をじっくり見たり、適した飼い方を考えたりする。(自思協社)</p> <p>○健康で安全な生活の仕方を知る。(健社)  <b>■</b>健診や食育などの機会を通して、健康な生活の仕方に関心をもち、自ら健康な生活を送ろうとする。(健社思)  <b>■</b>クラスや園全体の共有の遊具や用具を安全に気をつけて大事に使ったり、見通しをもって片付けたりする。(社思健教)</p>	<p>○友達と思いや考えを出し合い、共通の目的に向かって、心を合わせて遊ぶ楽しさを味わう。(協思言)  <b>■</b>自分の考えを言ったり、友達の思いを聞いたりして、遊び方やルール、役割などを考えて遊ぶ。(言社通)  <b>■</b>チームの意識をもって、友達と力を合わせたり、応援しようとしたりする。(協言思社)  <b>■</b>自分の体を精いっぱい動かしたり、うまくコントロールしたりして遊ぶことを楽しむ。(健社)</p> <p>○様々な事象について探究心をもってかかわろうとする。(思豊数言)  <b>■</b>落ち葉や実など身近な秋の自然物の変化や美しさに気づき、特徴を生かし、遊びに取り入れる。(自豊思)  <b>■</b>遊びや生活を通して、文字や数量、標識などに興味をもち、自分達で活用しようとする。(数思言)  <b>■</b>いろいろな素材にかかわって、その特徴に気づき、本物らしく表現しようとする楽しさを味わう。(豊自言思)</p>	<p>○クラスや学年のみんなで共通の目的をもち、心を合わせて活動に取り組む充実感を味わう。(協思言)  <b>■</b>みんなでする活動に意欲をもって取り組んだり、いろいろな表現を楽しんだりする。(自立豊協)  <b>■</b>教え合ったり、助け合ったりして心を通わせることを通して、互いの思いや考えなどを共有し、友達のよさに気づく。(協社言)  <b>■</b>冬から春の自然の変化を感じ取り、生活や遊びに生かす。(自思豊)</p> <p>○自分の成長に喜びや自信を感じる。(立健豊)  <b>■</b>小学校生活に期待をもって、就学に向けた生活リズムを進んで身につけ、見通しをもって行動する。(立社健通)  <b>■</b>生活を共にしてきた友達や先生と心を通わせ、大きくなった喜びを味わい、感謝の気持ちをもつ。(健立協豊言)</p>

## 第4部 月別指導計画

# 月別指導計画を見ていただくにあたって

## ねらい (○)

“ねらい”は、子ども達はその月に、何を体験しどのように成長してほしいのか、育ちの方向性を示すものです。つまり、知識・技能ではなくて、育てたい心情・意欲・態度のことを言います。前の月において、子どもの内面に育ちつつあることや、その月に、ぜひ、多くの子ども達の内面に育てたい心情・意欲・態度の方向性を、実際の子どもの姿や思いと教師の願いを考えて表しています。

## 内容 (■)

“内容”は、ねらいとして捉えた方向性に向かうために、生活の中で実際に体験してほしいことを表しています。その際、活動名のみで表すのではなく、その月のねらいの方向性に向かって、体験する中身がわかるように表すことを心がけました。

## 環境構成

その月に、具体的な“ねらい”や“内容”として取り上げたことを、実際の保育の中で体験することができるような状況づくりを、“環境構成”として表しています。以前は、実際の物、場など、主に物的・空間的環境を用意することが、環境構成であると捉えていました。しかし、それだけではなく、人・天候・自然・時間・雰囲気も含め、子ども達とその環境にかかわりたくなるような状況を、実際に教師がどのようにつくっていくのかを“環境構成”としました。

## この月によく見られる子どもの姿

その月の子ども達の生活の様子、先生・友達とのかかわり、遊びへの取り組み方などを表しています。

## キーワードを太字に……

指導計画を読み進めていただきやすいように、“この月によく見られる子どもの姿”と“環境構成”“援助のポイント”に見出しをつけています。その見出しは、“ねらい”のキーワードになっている部分(太字)からつけており(一部違うところもあります)“姿”→“ねらい・内容”→“環境構成”→“援助のポイント”と、横の流れがわかりやすいようにしています。

3年保育 3歳児

## 4月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○)・内容 (■)
<p><b>初めての園生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの家庭での生活経験によって、遊びや生活などあらゆる面で個人差が大きい。</li> <li>園生活を楽しみに喜んで登園する子どももいれば、保護者から離れられずに泣く子どももいる。</li> <li>いろいろな遊具や用具に次々に触れて遊ぶ。先生に誘われたり、人がするのを見たりして、真似をする子どももいれば、見ているだけの子どももいる。</li> <li>粘土や砂、土などの素材に触れ、偶然できたものをいろいろなものに見立てることが楽しい。できた物を先生に見てもらいたい。</li> <li>ダンゴムシやミミズを見たり触ったり捕まえたりする。草花や木の実などを拾ったり集めたりする。</li> <li>「お母さんはどこへ行ったの？」と尋ねる子どももいる。そのうち、お母さんがいないことに気づいて、泣き出すこともある。</li> <li>自分の気持ちをどう表したらいいのかわからずに、相手を叩いたり、泣いたり、黙ったりすることもある。</li> <li>砂に触れたり、スコップですくったりして遊ぶことを好む。</li> <li>「先生、見て」「先生、して」と、先生にかかわってもらったり、先生の手や衣服に触れていたりしたい。自分でできることも、先生にやってもらいたいときがある。</li> <li>登園すると、ままごとコーナーや戸外など、興味をもった場所で遊び始める。遊びは長く続かないことがあり、遊び場所が賑々とするこも多い。</li> <li>先生が歌ったり手遊びをしたりすると、真似してやってみる。真似をせずに、じっと見ているだけの子どももいる。</li> </ul> <p><b>園での生活の仕方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登降園の際、先生や年長児に手伝ってもらいながら、用意をしてみようとする。まわりの遊びが気になって、なかなか用意に気持ちが向かないこともある。</li> <li>上靴や外靴を靴箱に片付けたり、決められた場所で外靴を履いたりすることが難しい。</li> <li>手の洗い方を先生や年長児に教えてもらって、自分でもやってみる。トイレは抵抗なく使える子どももいれば、抵抗を感じてなかなかトイレに行かない子どももいる。</li> </ul>	<p>○先生に親しみを持ち、安心して過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■先生と一緒に遊んだり、友達の遊びを見たりする。</li> <li>■自分の好きな場や物、遊びを見つめる。</li> <li>■小動物にえさをあげたり、草花などを集めたりする。</li> <li>■先生の手遊びや歌を真似て、やってみようとする。</li> </ul> <p>○園での生活の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■戸外に行くときの手順を知る。</li> <li>■朝の身支度の仕方や、持ち物の置き場所を知る。</li> <li>■手洗いやトイレの仕方を知る。</li> </ul>

環境構成	援助のポイント
<p><b>安心して過ごすために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育室は、家庭と同じようなゆったりとした雰囲気のなかで遊ぶことができるように、ままごと、ぬいぐるみ、木の列車、ブロックなどを、遊びの途中のように出しておき、遊びの様子に合わせて環境をつくりかえる。</li> <li>粘土、砂、土など、見立てることを楽しむことができるような素材を用意し、楽しいイメージがわく言葉をかけながら、教師が楽しそうに遊ぶ。</li> <li>自分ひとりでいろいろな遊具や素材を使いたいの、一人一人が安心して遊ぶことができるように、子どもの要求に応えられるだけの遊具の数を準備しておく。</li> <li>おんぶするだけで安心することができる赤ちゃん人形や、ゆっくりと目で追いつながら繰り返して楽しむことができるおもちゃ(クレーンゲーム※1など)を準備しておく。</li> <li>子ども達が固定遊具で遊んでいるとき、遊びのイメージをふくらませたり、教師に親しみをもつことができたりするように、ごっこ遊びの雰囲気をつくって一緒に遊ぶ。</li> <li>3歳児の庭で飼育しているカモなどを見ることで、気持ちがほぐれるので、見たい子ども達を誘って、飼育小屋へ出かけ、えさを食べる様子を見たり、まわりの草などを子ども達と一緒にやってみたりする。</li> <li>子ども達と戸外に出かけたときに、庭に咲く小さな花や実と一緒に摘んだり、オオバコの茎ですもうをしたりするなどして、教師にかかわってほしいという一人一人の気持ちを満たしたり、身近な自然に触れて心を和ませたりできるように心がける。</li> <li>草花や木の実などを集めたり、持ったりすることが好きで、安心にもつながるので、入れ物を取り出しやすい場所に用意しておく。</li> </ul> <p><b>園生活に慣れるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の持ち物を安心して片付けることができるように、靴箱やロッカー、タオル掛け、道具箱に親しみやすくわかりやすい個人ごとのマークをつけておく。</li> <li>保育室の壁面やトイレの戸や壁などにも親しみやすい絵を貼っておく。</li> <li>降園時の集まりでは心が和むひとときとなるように、おやつを食べたり、よく知っている歌を歌ったり、手遊びをしたりして、楽しい雰囲気をつくる。また、絵本や紙芝居も大好きで楽しみに待つので、繰り返しのあるものなどを、子ども達とお話の世界を一緒に楽しみながら、読んでいくようにする。</li> </ul>	<p><b>安心して過ごすために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師に親しみを持ち、園が安心して過ごすことができる場になるために、一人一人のありのままの姿を温かく受けとめ、子ども達と心がつながっていくように心がける。</li> <li>登園時に泣いたり、保護者と離れることをいやがったりする子どもには、その気持ちを受けとめながら、心が和むことを探していく。また、しばらく保護者と一緒に過ごすことができるようにする。</li> <li>降園時に保護者の話をゆっくり聞いたり、連絡帳でやりとりしたりするなどして、保護者の不安もしだいに取り除いていくことができるように配慮する。</li> <li>ジャングルジムや太鼓橋などは、手を離してしまったり、しっかつかまることのできなかったりすることもあるので、常に目を配る。</li> </ul>  <p>※1：クレーンゲーム</p> <p><b>園生活に慣れるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エプロン(制服)やかばんなど持ち物の始末をしたり、トイレや手洗いを使ったりするときは、その都度一人一人に丁寧に教えていく。また、スキップの機会として大切に捉え、できるだけゆつたりかかわり、手をそえながら、できたことが自信につながるように言葉をかけていく。</li> <li>エプロンを自分でつけることは難しいので、生活が落ち着くまでは、教師がやり方を見せながら、着せるようにする。</li> <li>片付けてからトイレに行き、手洗いをした椅子に座るなど、片付けから降園活動の手順を一定にし、子ども達が園生活のリズムに気づき安心して過ごすことができるようにする。</li> <li>年長組のお兄さんやお姉さんにエプロンをつけてもらったり、お弁当の準備を手伝ってもらったり、自分だけではできないことを手伝ってもらいながら身支度などの手順を知ることができるように、教師間で連携を図る。</li> <li>戸外に行くときは、帽子をかぶったり、上靴を外靴に履き替えたりすることを知らせ、難しい子どもには一人一人丁寧に教えていく。</li> </ul>

## 援助のポイント

子ども達が環境にかかわって遊び始めた後に、ねらいの方向性に向かって、主体的に遊びを展開できるように、特に大事にしたい援助を、“援助のポイント”として表しています。具体的には、教師の認めや共感、助けや励まし、遊び仲間としての役割など、“ねらい”の方向性に向かって、体験させたい“内容”を実現するための具体的な手立てのことを言います。ただし、教師が願ったことをさせるという視点で援助を捉えるのではなく、子ども達が自ら、主体的にその体験をしていくことができるように、“援助するポイント”として捉えています。

- ・行事が毎年同じ月にあるとは限らないので、行事によっては子どもの姿や援助・環境構成も前後することが考えられます。
- ・子どもの姿によっては、月ごとにねらいや内容が変わるよりも、同じ月のねらいや内容をじっくりと深めるような時期もあります。
- ・環境構成や援助の項目の中に1行空けて文章を掲載している部分があります。見出しと対応していない内容ですが、どうしてもその月に大事にしたいこととして掲載している文章です。
- ・子どもの姿によっては、月をまたいで、ねらいや内容、環境構成や援助が参考になる場合があると思われます。そのような場合には、前後の月を参考にして保育をしています。



3 歳児



4 歳児



5 歳児

## 4月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>初めての園生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの家庭での生活経験によって、遊びや生活などあらゆる面で個人差が大きい。</li> <li>・園生活を楽しみに喜んで登園する子どももいれば、保護者から離れられずに泣く子どももいる。</li> <li>・いろいろな遊具や用具に次々に触れて遊ぶ。先生に誘われたり、人がするのを見たりして、真似をする子どももいれば、見ていだけの子どももいる。</li> <li>・粘土や砂、土などの素材に触れ、偶然できたものをいろいろなものに見立てることが楽しい。できた物を先生に見てもらいたい。</li> <li>・ダンゴムシやミミズを見たり触ったり捕まえたりする。草花や木の実などを拾ったり集めたりする。</li> <li>・「お母さんはどこへ行ったの?」と尋ねる子どももいる。そのうち、お母さんがいないことに気づいて、泣き出すこともある。</li> <li>・自分の気持ちをどう表したらいいのかわからずに、相手を叩いたり、泣いたり、黙ったりすることもある。</li> <li>・砂に触れたり、スコップですくったりして遊ぶことを好む。</li> <li>・「先生、見て」「先生、して」と、先生にかかわってもらったり、先生の手や衣服に触れていたりたい。自分でできることも、先生にやってもらいたいときがある。</li> <li>・登園すると、ままごとコーナーや戸外など、興味をもった場所で遊び始める。遊びは長く続かないことがあり、遊び場所が転々とすることも多い。</li> <li>・先生が歌ったり手遊びをしたりすると、真似してやってみる。真似をせずに、じっと見ているだけの子どももいる。</li> </ul>	<p>○先生に親しみをもち、安心して過ごす。</p> <p>■先生と一緒に遊んだり、友達の遊びを見たりする。</p> <p>■自分の好きな場や物、遊びを見つける。</p> <p>■小動物にえさをあげたり、草花などを集めたりする。</p> <p>■先生の手遊びや歌を真似て、やってみようとする。</p>
<p><b>園での生活の仕方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登降園の際、先生や年長児に手伝ってもらいながら、用意を試みようとする。まわりの遊びが気になって、なかなか用意に気持ちが向かないこともある。</li> <li>・上靴や外靴を靴箱に片付けたり、決められた場所で外靴を履いたりすることが難しい。</li> <li>・手の洗い方を先生や年長児に教えてもらって、自分でもやってみる。トイレは抵抗なく使える子どももいれば、抵抗を感じてなかなかトイレに行かない子どももいる。</li> </ul>	<p>○園での生活の仕方を知る。</p> <p>■戸外に行くときの手順を知る。</p> <p>■朝の身支度の仕方や、持ち物の置き場所を知る。</p> <p>■手洗いやトイレの仕方を知る。</p>



環境構成	援助のポイント
<p><b>安心して過ごすために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室は、家庭と同じようなゆったりとした雰囲気の中で遊ぶことができるように、ままごと、ぬいぐるみ、木の列車、ブロックなどを、遊びの途中のように出しておき、遊びの様子に合わせて環境をつくりかえる。</li> <li>・粘土、砂、土など、見立てることを楽しむことができるような素材を用意し、楽しいイメージがわく言葉をかけながら、教師が楽しそうに遊ぶ。</li> <li>・自分ひとりでいろいろな遊具や素材を使いたいの、一人一人が安心して遊ぶことができるように、子どもの要求に応えられるだけの遊具の数を準備しておく。</li> <li>・おんぶするだけで安心することができる赤ちゃん人形や、ゆっくりと目で追いながら繰り返し楽しむことができるおもちゃ（クーゲルバーン※1など）を準備しておく。</li> <li>・子ども達が固定遊具で遊んでいるとき、遊びのイメージをふくらませたり、教師に親しみをもつことができたりするように、ごっこ遊びの雰囲気をつくって一緒に遊ぶ。</li> <li>・3歳児の庭で飼育しているカモなどを見ることで、気持ちがほぐれるので、見たい子ども達を誘って、飼育小屋へ出かけ、えさを食べる様子を見たり、まわりの草などを子ども達と一緒にやってみたりする。</li> <li>・子ども達と戸外に出かけたときに、庭に咲く小さな花や実と一緒に摘んだり、オオバコの茎ですもうをしたりするなどして、教師にかかわってほしいという一人一人の気持ちを満たしたり、身近な自然に触れて心を和ませたりできるように心がける。</li> <li>・草花や木の実などを集めたり、持ったりすることが好きで、安心にもつながるので、入れ物を取り出しやすい場所に用意しておく。</li> </ul> <p><b>園生活に慣れるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の持ち物を安心して片付けることができるように、靴箱やロッカー、タオル掛け、道具箱に親しみやすくわかりやすい個人ごとのマークをつけておく。</li> <li>・保育室の壁面やトイレの戸や壁などにも親しみやすい絵を貼っておく。</li> <li>・降園時の集まりでは心が和むひとときとなるように、おやつを食べたり、よく知っている歌を歌ったり、手遊びをしたりして、楽しい雰囲気をつくる。また、絵本や紙芝居も大好きで楽しみに待つので、繰り返しのあるものなどを、子ども達とお話の世界を一緒に楽しみながら、読んでいくようにする。</li> </ul>	<p><b>安心して過ごすために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師に親しみをもち、園が安心して過ごすことができる場になるために、一人一人のありのままの姿を温かく受けとめ、子ども達と心がつながっていくように心がける。</li> <li>・登園時に泣いたり、保護者と離れることをいやがったりする子どもには、その気持ちを受けとめながら、心が和むことを探していく。また、しばらく保護者と一緒に過ごすことができるようにする。</li> <li>・降園時に保護者の話をゆっくり聞いたり、連絡帳でやりとりしたりするなどして、保護者の不安もしだいに取り除いていくことができるように配慮する。</li> <li>・ジャングルジムや太鼓橋などは、手を離してしまったり、しっかりつかまることができなかつたりすることもあるので、常に目を配る。</li> </ul> <div data-bbox="884 882 1279 1173" data-label="Image"> </div> <p>※1：クーゲルバーン</p> <p><b>園生活に慣れるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロン（制服）やかばんなど持ち物の始末をしたり、トイレや手洗いを使ったるときは、その都度一人一人に丁寧に教えていく。また、スキンシップの機会として大切に捉え、できるだけゆったりかかわり、手をそえながら、できたことが自信につながるように言葉をかけていく。</li> <li>・エプロンを自分でつけることは難しいので、生活が落ち着くまでは、教師がやり方を見せながら、着せるようにする。</li> <li>・片付けてからトイレに行き、手洗いをし、椅子に座るなど、片付けから降園活動の手順を一定にし、子ども達が園生活のリズムに気づき安心して過ごすことができるようにする。</li> <li>・年長組のお兄さんやお姉さんにエプロンをつけてもらったり、お弁当の準備を手伝ってもらったり、自分だけではできないことを手伝ってもらいながら身支度などの手順を知ることができるように、教師間で連携を図る。</li> <li>・戸外に行くときは、帽子をかぶったり、上靴を外靴に履き替えたりすることを知らせ、難しい子どもには一人一人丁寧に教えていく。</li> </ul>

## 5月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>その子どもらしい表情を見せ始めて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活にも慣れてきて、幼稚園が安心して過ごすことができる場になり、泣いていた子どもや緊張していた子どもも、その子どもらしい表情を見せるようになる。先生にも自分の思いをその子どもなりの伝え方で伝えるようになる。</li> <li>・自分の好きな遊びをしながら、まわりに目が向くようになり、追いかけてっこをしたり、まわりにいる子どもとにこにこしたりするなど、一緒にいることを喜んでいるような姿が見られる。</li> <li>・先生やまわりにいる友達とごっこ遊びや砂遊びなどをするなかで、自分の思ったことやイメージしたことを表現することが楽しい。</li> <li>・身近にある自然物などを見立てて、教師やまわりの友達と遊ぶことが楽しい。</li> <li>・ちょっとした高さのある場に登ったり、そこから跳び降りたりすることが楽しい。</li> <li>・年少組前庭の小山に駆け上がったたり、駆け下りたりすることを喜ぶ。</li> <li>・他の人が持っている物がほしい、他の人がいる場所にいたいなど、同じことをしたがる。</li> <li>・水や砂などに触れて遊ぶことが楽しくなる。一方で、汚れたり、濡れたりすることをいやがる子どももいる。</li> <li>・砂場で、入れ物に砂を入れたり、砂に水を混ぜて遊んだりすることを楽しむ。</li> <li>・三輪車やスケーターに乗って出かけたり、偶然すれ違う友達や先生に手を振ったり、にこにこしたりする。</li> <li>・入園当初の緊張もほぐれて、はしゃいだり、ふざけていたずらをしたり、言い分を通そうとしたりする子どももいる。</li> <li>・それまで元気に来ていた子どもでも、登園をしぶったり、泣き出したり、自分の気持ちをどう表現してよいかわからなかったりするなど、不安を示す子どもも見られる。</li> <li>・物の取り合いなどのいざこざが少しずつ見られ始める。言葉で自分の気持ちを表そうとしてももどかしかったりして、叩いたり、押ししたり、噛んだりすることもある。</li> <li>・ハサミで紙を繰り返し切り落とししたり、糊の感触を楽しんで、紙に塗り付けたりして遊ぶことが楽しい。</li> </ul> <p><b>身のまわりの生活の仕方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えは、先生に着やすいように床に広げてもらうなどすると、簡単な服なら自分で着替えることができることが多い。濡れた服を脱ぐのは難しい。自分で着替えようとする気持ちがない子どももいる。</li> <li>・教師の真似をしながら、遊んだ物を片付けてみようとする。遊びが楽しくて、片付けには気持ちが向かないこともある。</li> <li>・いろいろな健診や身体測定、避難訓練を怖がる子どももいる。</li> </ul>	<p>○先生やまわりにいる友達に親しみ、安心して過ごす。</p> <p>■先生やまわりの友達と同じ場で遊ぶなかで、自分の思いやイメージを表現してみる。</p> <p>■先生に自分の思いを言ってみる。</p> <p>■水や砂に触れて遊ぶなかで、感触を味わったり、偶然にできる形や変化を心ゆくまで楽しんだり、見立てたりし、繰り返し遊んでみる。</p> <p>■小動物を見たり、触れたり、探したりする。</p> <p>■走ったり、とび降りたりするなど、いろいろな動きを楽しむ。</p> <p>■三輪車やスケーターに乗って地面を蹴って進んだり、こいだりする。</p> <p>■糊やハサミの使い方を知り、自分なりに使ってみる。</p> <p>○身のまわりのことや生活の仕方がわかり、自分でできることは自分でしてみようとする。</p> <p>■先生に手伝ってもらいながら、自分で着替えようとする。</p> <p>■自分が遊んだ物を、先生と一緒に片付けてみる。</p> <p>■弁当の用意や片付けの仕方を知る。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>安心して過ごすために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ物を持ったり、同じ場にいたりする喜びを感じることができるように、遊具や用具を多めに用意したり、互いの顔が見えやすい場を準備する。</li> <li>・子ども達が自然物を様々に見立てて遊ぶ楽しさを味わうことができるように、草花を集めておき、手に取りやすい場所に置いておいたりする。</li> <li>・三輪車やスケーターは、出しやすく、片付けやすい場所に置いておく。</li> <li>・高い所に上がったたり、とび降りたりすることが好きなので、巧技台を組み合わせて保育室前に置くなど、安全にとぶことを楽しむことができるような場をつくり誘っていく。</li> <li>・自分の懂れているものに変身して、楽しそうに台からとんでいるところを受けとめ、見ている子ども達もしてみたいくなるような楽しい雰囲気をつくる。</li> <li>・ハサミや糊を使って楽しく遊ぶことができるような製作遊びを提案する。その際、ハサミの安全な使い方、持ち運び方や、糊の適切な量や塗り方も知らせていく。</li> <li>・汚れたり、濡れたりすることを気にしないで十分遊ぶことができるように、タオルや雑巾、お湯のシャワーなどを用意し、体を清潔にできるようにしておく。</li> </ul>	<p><b>安心して過ごすために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごっこ遊びを楽しんでいる子どもがいれば、教師も遊びに参加し、子ども達の遊びのイメージをふくらませ、自分の思いやイメージを安心して表現することや、まわりの友達と遊ぶ楽しさにつなげていく。</li> <li>・砂、水などの感触や形が変化すること楽しみ、心ゆくまで繰り返して遊ぶことができるように、楽しいイメージを投げかけながら、子ども達と一緒に穴を掘ったり、水を汲んで入れたりしてみる。</li> <li>・子ども達が触れ合っている姿を見かけたときには、うれしい気持ちを受けとめ、共感していく。また、互いの名前を知ることによってうれしい気持ちがふくらむように、遊びの中で名前を伝えていく。</li> <li>・入園当初は元気だった子どもも、連休明けなどに登園をいやがることがあるので、子どもの様子によって、スキンシップを心がけたり、好きな遊びを探して、一緒に楽しんだりするなど、一人一人に合ったやり方で安定して過ごすことができるようにする。</li> <li>・自分の気持ちをどう表現してよいのかわからず、叩いたり、押ししたり、噛んだりした時には、お互いの気持ちを代弁したり、受けとめたりして、ゆっくりとお互いの気持ちに気づいていくことができるようにかかわる。</li> <li>・園庭にいるダンゴムシやミミズなどの小動物と一緒に探しに行き、見たり触れたりする。小動物の動きや感触などからの驚きや気づきに共感する。</li> </ul>
<p><b>身のまわりのことや生活の仕方がわかるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お湯のシャワーで洗うことができる環境を用意しておき、排泄のとき、汚れたり、濡れたりしたときは、体を清潔にすることを知らせていき、自分で着替えやすい場をつくる。</li> <li>・片付ける場所がわかるように、片付ける物の絵や写真を棚や入れ物に貼っておく。</li> <li>・身体測定は、慣れた保育室でする。</li> </ul>	<p><b>身のまわりのことや生活の仕方がわかるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・床に着替えの服を広げたり、難しいところは手伝ったりしながら、子ども達が自分でできるようにする。</li> <li>・弁当については、大体の手順がわかるようになるが、食べ方や片付け方には個人差が大きいので、一人一人に応じて手を貸しながら、ゆっくり伝えていく。また、楽しく食べることができるような雰囲気づくりをする。</li> <li>・片付けの仕方がわかるように、楽しい遊びのような雰囲気をつくりながら、子ども達と一緒に片付けていく。また、きれいになったことを子ども達と一緒に喜ぶようにする。</li> <li>・いろいろな健診は、保健室に行くことや、医者をおそれる子どももいるので、不安をやわらげることができるように、前もって安心できるような話をしておく。</li> <li>・初めての避難訓練の不安を軽くするために、どんなふうにするかを前もって話しておく。</li> <li>・オムツの子どもは、園ではパンツに履き替えるようにし、失敗をしないことやうまくできることよりも、まずは清潔な気持ちのよい状態と、濡れて気持ちの悪い状態を感じることができるようにする。</li> </ul>

## 6月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい(○)・内容(■)
<p><b>自分のしたいことをして楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園での生活に慣れてきて、先生に親しみをもって挨拶をしたり、元気よく登園したりする。</li> <li>・用事や困ったことがあれば、先生に聞いたり、頼んだりすればよいとわかり始める。</li> <li>・一緒にいたい、遊びたいなど、お気に入りの友達ができてくる。</li> <li>・友達の名前を覚えて、朝、登園した友達の名前をうれしそうに呼んだり、友達が休んでいると「○○ちゃんは？」と先生に聞いたりする。</li> <li>・1人がテレビの主人公や動物などになったつもりになると、それを真似たり、動いたりすることが楽しい。同じ役が何人いてもかまわない。</li> <li>・積み木やブロックなどを、何かに見立てて遊ぶ。</li> <li>・園が安心して過ごすことができる場になって、自分の思いを出し始める。そのため、ほしい物やいたい場所などの取り合いがたびたび起きる。</li> <li>・自分が好きなものになりきると、まわりにいる友達や先生を勝手に敵に見立てて、たたいたり、蹴ったりする子どももいる。</li> <li>・水、砂、土、絵の具などに全身で触れる中で、偶然できる形を喜んだり、自分なりに見立てたりして、心ゆくまで繰り返し遊んだりする。</li> <li>・梅雨時期で雨の日が続いていると、少しでも晴れ間があると、戸外へ出かけていく。</li> </ul> <p><b>心ゆくまで水で遊ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プールやビニールプールに浸かりながら、洗面器やジョウロ、ペットボトル、カップなどいろいろな容器に、繰り返し水を入れたり出したりして、水が変化する様子を喜ぶ。</li> <li>・教師が散らすホースの水を喜ぶ一方で、顔に水が散ることをいやがる子どももいる。</li> <li>・プールやビニールプールの中で先生や友達とワニやカエルになってごっこ遊びをしてみたり、動物などの浮くおもちゃを使ってごっこ遊びをしたりすることなどが楽しい。</li> </ul> <p><b>自分でできることは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水着を着たり、濡れた水着を脱いだりすることが難しく、時間がかかる。また、脱いだ物を始末することを忘れることもある。</li> <li>・弁当の用意や片付けが、少しずつ自分でできるようになる。なかには、苦手なものがあることで、おしまいまで座って食べたり、自分で片付けたりすることが難しい子どももいる。</li> </ul>	<p>○先生やまわりにいる友達と触れ合って、<b>自分のしたいことをする楽しさを味わう。</b></p> <p>■ごっこ遊びなどで、なりきったり、自分の思いやイメージを先生やまわりの友達に表現したりして遊ぶ。</p> <p>■いろいろな遊具に興味をもって遊ぶなかで、まわりにいる友達と触れ合う。</p> <p>■身近な素材に触れたり、見立てたりして遊ぶ。</p> <p>■水、砂、土、絵の具に触れて遊ぶなかで、感触を味わったり、偶然にできる形や変化を心ゆくまで楽しんだり、見立てたりし、繰り返し遊んでみる。</p> <p>■友達に、自分の思いを伝える言葉があることに気づく。</p> <p>■追いかけてごっこをしたり、固定遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。</p> <p>■大きい組のお店屋さんで買い物をしたり、真似てお店屋さんになってみたりする。</p> <p>○水に親しみ、水の感触や変化に心動かされ、<b>心ゆくまで水で遊ぶ楽しさを味わう。</b></p> <p>■水をくんだり、移し替えたり、流したりするなど、心ゆくまで繰り返し試みる。</p> <p>■プールに浸かったり、シャワーやホースなどでやわらかい水を浴びたりして、全身で水の心地よさを感じて遊ぶ。</p> <p>■先生やまわりの友達と一緒に、水の中でごっこ遊びを楽しむ。</p> <p>○<b>自分でできることは</b>、自分でやってみようとする。</p> <p>■先生に手伝ってもらいながら、水着の着替えや始末をしようとする。</p> <p>■先生と一緒に弁当の用意や片付けをしようとする。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>自分のしたいことをして楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園生活に慣れてきて、自分のお気に入りの場所や使いたいおもちゃが明確になり、それを使うことを楽しみに登園してくる。おもちゃの場所はいつもと同じ場所で手に取りやすいところに置いておく。</li> <li>自分の好きな役になって、イメージを表現して遊ぶことができるように、スカートやエプロン、かばん、お面、ごごなど、取りやすい場所に十分な数を用意しておく。</li> <li>物や場所の取り合いが多くなる時期であり、おもちゃは十分な数と安全なものを用意する。</li> <li>雨ならではの楽しさ、不思議さを感じ取ることができるように、雨だれを子ども達と一緒に容器にためたり、雨の降る様子を子ども達と眺めたりし、子どもからこぼれた言葉に共感する。また、雨上がりには、やわらかくなった砂や土に気づかせ、一緒に遊びを楽しむようにする。</li> <li>砂、水、土、絵の具などの感触や、偶然できる色や形の変化を心ゆくまで楽しむことができるようにする。</li> <li>雨の日に、体を動かして遊びたい様子が見られたときは、テラスで平均台や巧技台、マットなどを用意しておく。</li> <li>色が出る花を、保育室前の採りやすい場に植えておく。そして、花が咲き始めた頃、子ども達を誘ってオンロイバナが咲いていることに気づかせ、目の前で咲き終わった花を摘み、楽しそうに色水を作って見せる。興味をもってやり始めた子ども達と一緒に、きれいな色が出たことを喜び、一緒に遊びを楽しむ。</li> <li>少し暑く、水に触れることが心地よい日に、絵の具遊び（スタンプング、フィンガーペインティングなど）を十分楽しむことができるような道具や紙などを用意し、教師が進んで遊び、楽しい雰囲気をつくる。</li> <li>保育室前のテラスに遮光ネットを張るなどして、テラスでの水遊びなどが涼しくできるようにする。</li> <li>年中・年長組のお店屋さんから帰ってきて、真似してお店屋さんをしたいと言ってきたときは、大きい組のお店屋さんにあったようなもので、年少児が扱いやすい素材を用意する。</li> </ul> <p><b>心ゆくまで水で遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が、水の変化に心動かされながら心ゆくまで水と遊ぶ楽しさを味わうことができるように、洗面器やジョウロ、ペットボトル、カップなどいろいろな容器を整理して置いておく。その際、透明な容器には色テープを貼るなど、見やすくし、足で踏んでけがをすることがなく、安全に遊ぶことができるようにする。</li> <li>年少組用のプールの他にも、ビニールプールやタイヤなどにも水をためておき、広いスペースを確保することで、顔に水がかかることがいやな子どもも安心して遊ぶことができるようにする。</li> <li>水遊び、プール遊びに抵抗があったり、水に入ることができない体調の子ども達が、暑さの中、少しでも水に触れて遊んだりできるように、おもちゃの金魚すくいやおはじき拾い、樋に水とおもちゃなどを流す遊びなどを用意しておく。</li> </ul> <p><b>自分でできるようになるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で脱ぎ着しやすい服で登園してもらうよう、保護者に知らせる。</li> <li>プールバッグや体を拭くタオルを掛ける場所など子どもが自分でしやすい動線を考えて配置する。</li> </ul>	<p><b>自分のしたいことをして楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のしたいことや、好きな玩具や物にかかわって遊び始めたとき、教師は子どもが何をイメージし、楽しんでいるのかを読み取るようにする。そして子どものもっているイメージがふくらんでいくような言葉をかけたり、場や物を用意したりして、子ども達が自分の思いで十分遊んだという満足感を得ることができるようにしていく。</li> <li>子ども同士のいざごさは、自分とは違う相手の思いに気づく大事な機会として捉え、まずは両方の気持ちを受けとめ、そうしかつた相手の気持ちを言葉にして伝えるようにする。表現の仕方がわからず、叩いたり噛んだりした場合には、涙や痛そうな表情に気づかせ、教師と一緒にさすったりしながら、かかわり方を伝える。</li> <li>ほしいと思ったら人の使っている物でも取ることがあるので、「そんな時は『貸して』って言うてみよう」などと、人とかかわるための言葉があることに気づかせる。</li> <li>大きい組のお店屋さん誘われたときは、子ども達と一緒に出かけ、買い方などのやりとりを教師がやってみせたり、一緒に「これ、ください」などと言ってみたりする。</li> </ul> <p><b>心ゆくまで水で遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水遊びの前に、準備体操も兼ねて、体操やダンスに誘い、簡単なリズムや動きを自分なりに楽しむことができるようにする。</li> <li>雨が降る様子をじっと見たり、雨上がりには水たまりに入ってみたり、雨ならではの不思議さや楽しさを教師と一緒に共感していく。</li> <li>子ども達が水の変化に心動かされ、繰り返し遊んでいるときは、様子によって教師も仲間入りして楽しさを共感したり、そっと声をかけたりし、より楽しさを感じたり、満足感を味わったりできるようにする。</li> <li>楽しく安全にプール遊びができるように約束を伝えていく。</li> </ul> <p><b>自分でできるようになるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水着の脱ぎ着は難しいので、やり方を知らせながら必要に応じて手伝うようにし、できたことが自信につながるような言葉をかける。濡れた水着やタオル、かごなどを始末することにも時間がかかるので、時間に余裕をもって、一人一人にゆっくり伝える。</li> <li>子どもが脱いだ服を教師が目の前でたたんで見せたり、たたむと気持ちのよいことを知らせたりする。</li> <li>弁当を、最後まで座って食べたり、自分で片付けたりすることが難しい子どもには、自分で進んで片付けたくなるような楽しい言葉をかけたり、やり方を知らせたりしていく。</li> <li>水分補給の大切さがまだわかっていないので、教師がタイミングを見て、水分補給の声をかけると共に、水筒の中身の減りを確認する。</li> </ul>

## 7月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>開放感を味わって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大プールは、年少組用プールよりも広く開放感があり、大プールに行くことを楽しみにしている子どもが多い。一方で大プールを怖がる子どももいる。</li> <li>・大プールで先生を追いかけたり、先生の真似をして動いたり、体を動かして遊ぶことを喜ぶ。</li> <li>・大プールでも、水の中には入らずにプールサイドで何度も水をくんだり、様々な容器に水を移し替えたりすることを繰り返して楽しんでいる子どももいる。</li> <li>・水遊びの前の体操やダンスを喜んでする。じっと見ているだけの子どももいる。</li> <li>・水遊びで遊んだ後は、ままごとや製作などでゆっくり遊ぶ姿が見られる。</li> <li>・蒸し暑い毎日、水に触れて遊ぶことは楽しみにしているが、しだいに、ふだんから楽しんでいる遊びもしたいという様子が見えてくる。</li> <li>・“すぐでなくても大丈夫”という見通しをもつことができるようになり始め、待ったり譲ったりできるようになってくる。</li> <li>・「私がやっちゃおう」「私は○○になりたい」など、子ども同士のやりとりが多くなる。お互いに自分の思いを言うだけのことが多い。</li> </ul>	<p>○先生や友達とたっぷり遊び、<b>開放感を味わう。</b></p> <p>■先生や友達と喜んで大プールなどで遊び、全身で水に親しむ。</p> <p>■楽しい曲を聞きながら、先生の動きを真似てダンスや体操をする。</p>
<p><b>夏ならではの行事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で飾りを付けたうちわを持って、夏のお楽しみ会で盆踊りをすることを楽しみにする。</li> <li>・笹飾りを作ってみたり、笹に短冊や笹飾りを飾ってもらったりすることを喜ぶ。</li> </ul>	<p>○<b>夏ならではの行事</b>に親しむ。</p> <p>■夏のお楽しみ会を楽しみにし、盆踊りに使ううちわの飾り付けをしたり、教師の真似をして盆踊りを踊ったりする。</p> <p>■七夕の雰囲気を楽しむ。</p>
<p><b>身のまわりのことを自分で</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水遊びの着替えや体操、水着の始末など、大体のやり方や流れがわかり、先生に手伝ってもらいながら、自分でしようとする。一方で、水着の始末を忘れる子どももいる。</li> <li>・汗をかいてもそのまま遊び続けたり、のどが渇いていても遊びに夢中で、自分からお茶を飲まない子どももいたりする。</li> </ul>	<p>○<b>身のまわりのことを自分で</b>しようとする。</p> <p>■先生に手伝ってもらいながら、自分で着替えたり、始末したりする。</p> <p>■先生に促されて、汗を拭いたり、水筒のお茶などを飲んだりする。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>開放感を味わうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の水とのかかわり具合を見て、大きいプールへ出かけて行くようにする。</li> <li>大プールでも、安心して水に親しんで遊ぶことができるように、ペットボトルの舟（2ℓ×3本）や様々な容器を用意し、教師も楽しいイメージを投げかけながら、一緒に遊ぶようにする。</li> <li>大プールに初めて行くときには、水位を低くし、安心してプール遊びができるようにする。</li> <li>水遊びや戶外での遊びの後に、保育室でゆったり遊ぶことができるように、ままごとやブロック、積み木など、すぐに使うことができるようにしておく。</li> </ul> <p><b>夏ならではの行事を楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏のお楽しみ会を楽しみに待つことができるように、うちわの飾り付けをしたり、うちわを持って盆踊りを踊ったりして楽しむようにする。</li> <li>七夕の雰囲気を楽しむことができるように、保育室の見えやすい場所に笹を立てる。</li> <li>蒸し暑い時期なので、窓を開けたり、扇風機やエアコンをつけたり、涼しい場所に誘ったりして、気持ちよく過ごすことができるようにする。</li> </ul>	<p><b>開放感を味わうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きいプールならではの楽しさを生かし、子ども達が開放感を味わって存分に遊ぶことができるように、水の中で追いかけてっこをしたり、動物に変身したりするなど、楽しい雰囲気をつくりながら、思いきり遊ぶようにする。</li> <li>水が散るのがいやだったり、大きいプールを怖がったりする子どもには、抱いてプールの中を歩いてみたりお風呂のようにつかってみたりして、水の気持ちよさを味わうことができるようにする。</li> <li>一人一人の興味のあるところで、少しずつ水に触れる機会をもたせながら、水とのかかわりを楽しむことができるようにする。</li> <li>水遊び前の体操やダンスをじっと見ている子どもには、無理にさせようとせずに、自然に体が動き出すようなかかわりを考える。</li> </ul> <p><b>夏ならではの行事を楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏のお楽しみ会を、楽しみに待つことができるように、どんなことをするのか、手前にわかりやすく話しておく。</li> <li>教師が糊やハサミなどを使って、七夕の歌を歌ったりしながら楽しそうに笹飾りを作って見せ、子ども達を誘っていくようにする。</li> </ul> <p><b>身のまわりのことを自分でするために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で水着を着ることができたという満足感を味わうことができるように、少しがんばればできるように手を貸していくようにする。</li> <li>汗をかいても気づかずに、そのまま遊び続けているときには、タオルやハンカチで拭くと気持ちがよいことを知らせる。</li> <li>熱中症にならないように、プール遊びの前や後など、いろいろな機会を捉えて、水筒のお茶を飲むように促す。</li> <li>蒸し暑い時期で、体調がすぐれない子どもも出てくるので、毎朝注意して視診するとともに、水遊びをしてはいけないときの連絡を必ずもらうようにする。</li> </ul>



## 9月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>園生活のリズムを取り戻して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み明けは、ほとんどの子ども達が再び幼稚園が始まることを喜び、にこにこ登園する。一方で、保護者と離れることができずに涙が出たり、遊び始めることができずに1人でじっとしていたりするなど、戸惑う姿も見られる。入園当初よりは気持ちの取りもどしが早い。</li> <li>好きな友達に再会できて、喜ぶ子どももいる。</li> <li>幼稚園での生活の仕方を思い出してくると、しだいに遊びが活発になる。緊張感もとれて、表情も豊かになり、いろいろなことを喜んでやってみようとする。</li> <li>夏休み中のできごとを、先生や友達に話したい。自分が経験したことを、言葉にすることがうれしい。</li> </ul> <p><b>友達や先生と触れ合って</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物やテレビの主人公など、みんなが知っていることで、少しずつイメージを共有しながら遊び始める。遊びの中心は自分の思いで、話がかみ合わないことも多いが、その雰囲気が楽しい。</li> <li>先生や友達との追いかっこや、ジャングルジムや鉄棒、太鼓橋、木登りなど、体を動かす遊びを、よくするようになる。体を動かすことが苦手で、あまりしようとしなかった子どももやってみようとする。</li> <li>巧技台を組み合わせて用意している場で、一本橋を渡ったり、とび移ったり、とび越えたり、ジャンプしたりすることを繰り返し楽しむ。</li> <li>先生を追いかけたり、先生から追いかけられたりして、走ることが楽しい。</li> <li>ままごとコーナーやブロック遊びは、友達と同じ衣装を身につけたり、友達と同じパーツを組み合わせて武器などを作ったりするなど、同じようなイメージの中で遊ぶことが楽しい。</li> </ul>	<p>○園生活のリズムを取り戻し、自分のペースでのびのびと遊ぶ。</p> <p>■夏休みにあったことなどを、先生に伝えようとする。</p> <p>■生活の仕方を思い出し、自分なりにやってみる。</p> <p>■1学期にしていた遊びを、先生や友達と一緒に楽しむ。</p> <p>○友達や先生と触れ合って遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>■好きなものになって、友達と遊ぶ。</p> <p>■いろいろな運動を、先生や友達と一緒に楽しむ。</p> <p>■気の合う友達と同じ物を作ったり、身につけたりする。</p> <p>■友達のしていることを真似たり、同じことを言ったりする。</p>



環境構成	援助のポイント
<p><b>生活のリズムを取り戻すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活のリズムを取り戻すことができるように、粘土やままごと、ブロックなど、1学期中に親しんだ遊びができるような遊具や遊びの場を用意する。</li> </ul> <p><b>友達や先生と触れ合って</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごっこ遊びなど、同じ場にいることで遊びのイメージがふくらむように、ままごとコーナーをついたてで囲んだり、敷き物を敷いたりする。また、ごっこ遊びの道具になる物は、使いやすい場に置いておく。</li> <li>走る楽しさや、みんなで遊ぶ楽しさを味わうことができるようにイメージをふくらませながら、楽しく体を動かすことができるような遊びを提案していく。</li> <li>いろいろな体の動きを楽しむことができるように、保育室から見える場所に巧技台などを組み合わせて置いておく。また、何かになりきって体を動かすことを楽しむこともできるように、お面などを用意する。</li> <li>3歳児は今まで自分のクラスの前庭だけで、遊んでいたが、運動会は運動場で行うので、運動会が近づいてきた頃に、運動場や総合遊具で遊ぶようにする。子ども達だけで遊ぶと危ないので、安全面に配慮する。</li> </ul>	<p><b>生活のリズムを取り戻すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が夏休みの経験を教師に話したいときは、一人一人にゆっくり耳を傾け、温かく受けとめて、生活のリズムを取り戻すきっかけとしたり、自分の思いを伝えることがうれしい経験になるようにしたりする。</li> <li>夏休みの間にそれまでの生活の仕方などを忘れていけることもあるので、思い出すことができるように声をかけたり、手伝ったりし、身のまわりのことを自分でできるようにする。</li> <li>夏休み明けで、不安定な子どもには、一緒に好きな遊びを探したり、子どもの様子に応じてスキンシップをはかったりして、安心して過ごすことができるようにしていく。</li> </ul> <p><b>友達や先生と触れ合って</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達は、いろいろな動きができたことを教師に見てもらうことで、より体を動かすことが楽しくなったり、自信につながったりする。一人一人の子どものしようとしているところをしっかりと受けとめて、認めていくようにする。</li> <li>鬼ごっこのルールを守って遊ぶことは難しいので、子ども達の様子を見ながら教師が「待て待て」と追いかけたり、子ども達から逃げたりし、子ども達が心ゆくまで走る楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>友達と同じようなイメージの中で体を動かしたり、言葉で表現したりして楽しんでいる時には、子ども主導で遊びが進んでいくことを大切にしながら、教師も遊びに加わっていくようにする。</li> <li>運動場の築山をかけ上がったたり、ブランコをこいだり、もも組の前庭では経験できない動きを楽しむことができるように、自分なりに挑戦する姿を見守ったり、教師も一緒に遊びに加わったりする。</li> </ul>

## 10月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 体を動かして遊ぶ

- ・運動会の経験のない子どもが多く、年中・年長組の運動会ごっこを見たりすることで、運動会のイメージをもつようになる。
- ・教師が誘う運動会ごっこに喜んで参加する。先生やまわりの友達と走ることが楽しく、何番でも「1番やった」と喜ぶ。
- ・仲よしの友達と一緒にスタートしたり、手をつないで走ったりしたい。
- ・好きなものや憧れているものになりきって、体を動かすことが楽しい。
- ・他のクラスの競技や踊りにも興味をもって、横でじっと見ていたり、真似て一緒に踊ったりする。
- ・運動場に行くと、思わず走り出したくなったり、好きな場所へ行ってみたくなったりする。
- ・運動会ごっこで不安なことや苦手なことがあると、「やりたくない」「ここで見ている」と教師に伝えてくる。
- ・ダンスははりきって踊る子どももいれば、恥ずかしがって踊らない子どももいる。

## 友達と一緒に自分の思いを表して

- ・友達と「○○ごっこ」など、同じイメージのもとに遊ぶことが多くなり、同じことをしたり、言ったりすることが楽しい。また、自分の思いを表現することで満足し、相手に伝わっているかどうかはあまり気にとめていない。
- ・好きな遊びが似ている子ども同士が少しずつグループになり始め、一緒に過ごす友達がだいたい決まってくる。
- ・3歳児なりに仲間意識が芽生え始め、遊びに仲間入りするときは「よせて」という言葉を進んで使うようになったり、「よせて」と言わないと仲間に入れないという姿や、“お面がないと入れない”などと仲間入りに条件をつけたりする姿も見られる。
- ・友達と遊ぶことが楽しくてたまらないが、それぞれが自分の思い通りになることを望んでいる。そのため、言い合いをしたり、どちらかが泣いたり、我慢したりといったいざこざも多くなる。
- ・友達と一緒に過ごすことが楽しくなってきたり、おしゃべりが楽しくなり、会話が増えてきて、クラスがにぎやかになってくる。

## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○好きな遊びの中で、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

■友達や先生と一緒に、走ったり投げたり、引っ張ったり、とんだりするなど、いろいろな動きを楽しむ。

■楽しそうなものに誘われたり、先生や友達の真似をしたりして、いろいろな動きを楽しむ。

■先生や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ることを楽しむ。

○友達と一緒に自分の思いを表して遊ぶ楽しさを味わう。

■ごっこ遊びなどで、友達と同じ動きをしたり、同じことを言ったりして遊ぶ。

■友達と同じイメージのなかで遊び、思ったことを表してみる。



環境構成	援助のポイント
<p><b>体を動かして遊ぶことを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・綱引きや玉入れを意図的にクラスのみなど、子ども達が興味をもって遊びに入っていくことができるようにする。</li> <li>・綱引きで引っ張る人数のバランスなどは、子どもに任せると危ないので、教師が必ず中に入り、人数の調整などをする。</li> <li>・楽しい曲に合わせて、踊ることを楽しむことができるように、子ども達が日頃から好きな曲や思わず体を動かしたくなるような曲を用意し、楽しい雰囲気をつくりながら一緒に踊る。</li> <li>・子ども達は、空想と現実の間を行き来している時期でもあるので、教師が子どもの興味が湧いてくるようなキャラクターを用具に付けたり、お面や飾りなどを作ったりして、運動会への意欲が高まっていくようにする。</li> <li>・運動会の競技の内容は、それまで楽しんできた体を動かす遊びが楽しく、無理なくできるように、物の配置や順番を工夫したりするなど、構成を考える。</li> </ul> <p><b>友達と一緒に自分の思いを表して遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇ごっこ」など、少しずつ同じイメージをもって遊ぶことが多くなる。そこで、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができるように、子ども達のもっているごっこ遊びのイメージがふくらむような場をつくったり、道具を用意したりする。</li> </ul> 	<p><b>体を動かして遊ぶことを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができるように、子ども達がゴールにいる好きな先生を目指して走るようにする。また、教師が「待て待て」などと言いながら一緒に走ったり、まわりの子ども達と一緒に、走っている子ども達を応援したりする。</li> <li>・体を動かすことに、興味が向かなかったり、自信がなくなったりする子どももいるので、その子どもの走る速さに合わせて追いかけたり、巧技台や一本橋で手を貸しながら、体を動かす楽しさを知らせていく。</li> <li>・友達や年中・年長組が頑張っている姿を応援したり、自分の番がくるまで待ったりする経験も大切にしていく。</li> </ul> <p><b>友達と一緒に自分の思いを表して遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごっこ遊びなど、子ども達だけでイメージをふくらませて遊んでいるとき、子ども達の楽しんでいるところ（なりきるのが楽しい、同じ言葉を使うのが楽しいなど）を探るようにする。それに応じて、教師がお客さんになったり、必要なものを用意したりして、子どもが友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>・いざこざが起きたときには教師が仲立ちし、どうしたらよいか子ども達と一緒に考えたり、子どもの様子によっては別の遊びに誘ったりしていく。</li> </ul>

## 11月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 自分の思いを十分出して遊ぶ

- ・はっきりと自分の思いを出して遊ぶようになってくる。笑ったり、怒ったり、泣いたり、自分の感情を十分に出す。
- ・それぞれが自分の思いがはっきりしてきて、主張がぶつかるようになり、どちらも譲らず、押し合ったり、ひっかき合ったりすることもある。
- ・年中・年長組の遊びに招待されて経験してきたことを、自分なりにやってみようとする子どももいる。
- ・年中・年長組のお店屋など、それまで先生と一緒にでないと行くことができなかった場所へ、子ども達だけで出かけるようになる。
- ・いろいろな素材に触れて、自分のイメージをもち、ゆっくり遊ぶようになってくる。
- ・牛乳パックや空き箱など身近にある素材を、自分の好きな物に見立てて遊ぶ。
- ・気の合う友達同士だと、ごっこ遊びなどで、長い時間同じイメージで遊ぶことを楽しむことができる。

## 秋の自然に触れて

- ・色づいた落ち葉や木の実、枝などを集めて、持つことを喜ぶ。
- ・寒くなり、長袖、長ズボンになると、着替えをすることに困ったり、用便の時に間に合わなかったりすることもある。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○友達と一緒に自分の思いを十分出して遊ぶ楽しさを味わう。

■砂や土をいろいろな物に見立て、自分なりのイメージを広げて遊ぶ。

■身近な材料や用具を使って、自分なりの思いで描いたり、作ったりする。

■自分の思ったことや考えたことを言って、友達と一緒に遊ぶ。

■他のクラスに誘われて、遊びに加わってみる。

○秋の自然に触れて遊ぶ楽しさを味わう。

■木の実や落ち葉を集めたり、いろいろな物に見立てたりして、遊びに使う。

環境構成	援助のポイント
<p><b>自分の思いを十分出して遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が砂や土などで自分の思いを十分出して遊ぶことができるように、いろいろな見立てができる素材や道具を、すぐ目につく所に置いておく。</li> <li>子ども達がいろいろな遊びを楽しむことができるように材料や用具を用意して、作ったり、描いたりすることを楽しむことができるようにする。</li> <li>子ども達が自分の思ったことや考えたことを友達に言って、遊ぶ楽しさを味わうことができるように、興味のあるごっこ遊びの道具や場を用意したり、必要に応じて一緒に作ったりする。</li> <li>年長組で経験してきたことをやってみようとすることもあるので、様々な素材を用意しておき、子ども達の要望によって出していく。</li> </ul>	<p><b>自分の思いを十分出して遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達がいろいろなことに自分からかかわって、自分のイメージや思いを十分出して遊ぶ楽しさを味わうことができるように、子ども達の「ああしたい、こうしてみたい」という思いを探り、思いが実現できるように助けたり、より楽しくなるようなアイデアを提案したりする。</li> <li>年長組が自分達の遊びの客に年少組を招いてくれたときは、教師も興味をもって一緒に見に行き、ときには年長児との仲立ちになったり、楽しい気持ちを受けとめたりする。</li> <li>子ども達が年長組で見てきたことをやってみようとするとき、その雰囲気や作ることそのものが楽しかったりするので、教師の一方的なイメージを押しつけず、どこを実現したがっているのかを探って、思いが満足できるようにする。</li> <li>自分の思いを、友達に伝えようとしてぶつかったときには、まずは子ども達の思いに共感する。そして、教師が仲立ちとなって伝え、どうしたらよいかを教師がモデルになって考えるようにする。</li> <li>子ども達の行動範囲が広がるので、教職員間で連絡を取り合いながら、どこでどんな遊びをしているのか把握していく。帰って来た子どもが、経験したことをはりきって話したり、見せたりするので、話す喜びを育てる意味でも、丁寧に受けとめていくようにする。</li> </ul>
<p><b>秋の自然に触れて遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋の自然に触れて遊ぶ楽しさを味わうことができるように広い園庭にも出かけ、クスノキの葉や実、ピラカンサの実を集めたり、拾ったりする機会をつくる。</li> <li>ドングリを転がしたり、音を楽しんだり、料理したりするなど、いろいろな遊びを楽しむことができるような場や道具を用意する。</li> <li>子ども用の熊手を用意し落ち葉を集めたり、集めた落ち葉で焼き芋ごっこやバーベキューをしたり、たくさん葉っぱを集めて寝転んだりなど、自然物でたっぷり遊ぶ楽しさが味わうことができるようにする。</li> <li>広い園庭に出かけ、年中・年長組が自然物を使って遊んでいる中に入れてもらったりする経験から、遊びのイメージが広がるようにする。</li> </ul>	<p><b>秋の自然に触れて遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな自然物を集めて持ったり、見立てたりして十分遊ぶことができるように、教師も好奇心をもって自然に目を向けながら、子ども達と一緒に喜んで集めたり、見立てを楽しんだり、子ども達の発見や驚きに共感したりする。</li> <li>子ども達が自然物に興味をもってかかかわっているときに、そのイメージを大事にしながら、友達と遊ぶ楽しさを味わうことができるような遊びのアイデアを提案していく。</li> <li>自然の美しさや感触、音、においを体いっぱい味わうことができるように、風が強い日に落ち葉が舞い散る様子を、子どもと一緒に驚きをもって楽しんだり、落ち葉をかけ合ったりする。</li> <li>気温の変化が激しいので、天候や遊びの種類、様子によって、衣服を調節するように声をかける。</li> </ul>

## 12月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>表現する楽しさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器を好きなように鳴らしたり、歌ったりすることが楽しい。じっと見たり、聞いたりしていた子どもも、喜んでするようになる。</li> <li>・絵本や紙芝居の繰り返しのあるやりとりを気に入って、口ずさんだり、遊びの中で友達とやりとりを楽しんだりする姿も見られる。</li> <li>・餅つきを楽しみにし、先生や友達と一緒に餅つきごっこをする。</li> </ul> <p><b>戸外で元気に遊ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもった遊びには、先生がいなくても積極的に取り組むことができるようになる。</li> <li>・登園時に「寒い」と先生に抱きついたり、手や顔をくっつけたりする。寒くてなかなか遊び出すことができない子どももいる。日が昇って暖かくなると、外へ出て走るなど、戸外で遊ぶようになる。</li> <li>・ボールを投げたり、蹴ったり、山から転がしてみたりして遊ぶことを喜ぶ。個人持ちのポックリに喜んで乗ろうとする。</li> </ul> <p><b>冬の生活の仕方を知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロンの着脱やお弁当の準備など、先生の手を借りずにできる子どもが増える。自分でできる友達の姿が刺激となって、自分でしようという意欲につながる。遊びたいことがあると、後まわしになる。</li> <li>・寒くて身につけている物が多く、始末に困ったり、落としたりする。</li> <li>・手洗い、うがいを十分にすることが難しい。</li> <li>・何でも「いや」と言ってみたり、先生の言うことより、友達の言うことの方に影響力があったりするなど、自己主張を始める子どもが増える。帰りの支度もしようとしなかったりするなど、一旦身につけていた生活習慣が乱れてくる子どももいる。</li> <li>・弁当を温める（12月～3月）保温庫のある給湯室までみんなの弁当が入ったかごを運びたい。</li> </ul>	<p>○自分なりのやり方で、<b>表現する楽しさ</b>を味わう。</p> <p>■歌を歌ったり、簡単な楽器を使ったりするなど、音にふれて遊ぶ。</p> <p>■冬のお楽しみ会を楽しみにし、みんなで歌ったり、他のクラスの出し物を見たりする。</p> <p>○寒さに負けず、<b>戸外で元気に遊ぶ</b>楽しさを味わう。</p> <p>■戸外で、先生と一緒に鬼ごっこなどを楽しむ。</p> <p>■戸外で身近な遊具にかかわって遊ぶ。</p> <p>○<b>冬の生活の仕方</b>を知り、身のまわりのことを自分でしようとする。</p> <p>■冬物の上着などの着脱や始末を自分でする。</p> <p>■エプロンの着脱や着替えを自分でする。</p> <p>■手洗い、うがいをする。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>表現する楽しさを味わうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スズやカスタネットなど、子ども達の扱いやすい楽器に自由に触れて遊ぶことができる場や時間をつくる。そして、楽しく、動きたくくなるような曲をかけて、子どものイメージに合わせて、楽しい雰囲気づくりをしたり、ステージのような場をつくりたりして、音にふれて遊ぶことを楽しむことができるようにする。</li> <li>・冬のお楽しみ会や餅つきなどを楽しみに待つことができるように、冬の行事をイメージしやすいように話す機会をもつ。</li> </ul> <p><b>戸外で元気に遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で元気に遊ぶことができるように教師も進んで戸外に出て、子ども達の好きな鬼ごっこなどに誘うようにする。</li> <li>・ボールやポックリなど、外で元気に遊びたくなるような遊具を、目につきやすく、片付けやすい場所に用意する。少しがんばればできそうなポックリの道を作るなど、やりたくなるような場をつくっておく。</li> </ul> <p><b>冬の生活の仕方を知るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で始末しにくい冬物の上着などは、一人一人がきちんと始末できるような場をつくっておく。</li> <li>・弁当を温めるために、給湯室まで運ぶかごを、登園してすぐに出すことができる場所に置いておく。</li> <li>・喉のうがいは難しいので、手洗い場にいる子どもの真上に好きなキャラクターを吊るし、自然と上を向きながらうがいをすることができる環境を整える。</li> </ul>	<p><b>表現する楽しさを味わうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器遊びや踊りなどでは、好きな音楽に合わせてそれぞれが自分なりの表現で、リズムにのって動くことを楽しむことができるように、やり方や動きを限定してしまわないようにする。</li> <li>・楽器を大事にするために「きれいな音が鳴らなくなるから、そっと置こうね」などと言いながら、教師が大事に扱う姿を見せたり、なぜ、大事にしなければならないのかを知らせたりする。</li> <li>・クラスみんなで楽器に触れて遊んだり、歌を歌ったりするときは、みんなで遊ぶ楽しさを感じることができるような声がけをしていく。</li> <li>・冬のお楽しみ会の出し物は、表面的なできばえや教師のイメージを押しつけないように、子どもが喜んで表現していることを大事にする。</li> <li>・幼稚園のみんなやおうちの人の前で、歌を歌う楽しさなどを味わうことができるように、見てもらうことが喜びとなるような声をかけたり、内容を工夫したりする。</li> <li>・子ども達が餅つきのイメージをふくらませて心ゆくまで餅つきごっこができるように、紙製の杵を作ったり、砂や土を餅に見立てたりして、一緒に遊ぶ。</li> <li>・餅つきごっこでは、教師も仲間入りして、合いの手を入れるなど、餅つきの楽しさを共感していく。</li> </ul> <p><b>戸外で元気に遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼ごっこなど、簡単なルールのある遊びを楽しむとき、思い思いのイメージをもっているため、ルールにこだわりすぎないように気をつけ、大勢で遊んでいるからこそその楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>・鬼ごっこでは、子ども達は教師に追いかけてもらいたい、教師を追いかけてほしいという気持ちがあるので、一人一人の名前を呼んだり、つかまえたりするなどして、子ども達の思いが満足できるようにする。</li> </ul> <p><b>冬の生活の仕方を知るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロンを着たり、ボタンをはめたりすることなど、少し難しいことでも自分でしてみようとする気持ちになるように、ゆっくり時間をかけて、自分でできるようなやり方を教えたり、見守ったりする。そして、自分でやろうとする姿を認め、自信につなげていく。</li> <li>・寒い朝も元気に遊び出すことができるように、手や体をさすったり、保育室を暖めたり、好きな遊びに誘ったりする。</li> <li>・朝、厚着で登園し、気温が上がってもそのままのことが多いので、暑くなったら教師も上着を脱いで見せたり、声をかけたりして、気温に合わせて衣服を調節することに気づかせる。</li> <li>・外から帰るとうがいをしたり、手を洗ったりするなど、冬の生活の仕方を知らせ、健康に過ごすことができるようにする。</li> <li>・弁当を温めるために運ぶかごを持ちたくていざこざになる時は、みんなが持つことができるように工夫する。</li> <li>・自己主張が強くなって「いや」と言うときは、否定的に捉えるのではなく、自分の思いをはっきり出すことができるようになってきていると捉えて、子どもの主張をまずは受けとめ、一緒に考えていくようにする。</li> <li>・上手に手洗いをするできるように、養護教諭に手洗いの仕方を楽しく覚えることができるような方法を、指導してもらおう。</li> </ul>

## 1月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

先生や友達と一緒に、イメージしたことを表現して

- ・ごっこ遊びで役を決めたり、大体の話をみんながわかって遊んだりすることがうれしい。また、自分のしたい役の言葉遣いやしぐさなど、自分の知っていることを出しきってなりきる。
- ・友達同士のかかわりが深くなってきて、一日のうちにメンバーが替わるものの、同じ遊びを長くするようになる。
- ・ごっこ遊びなどで、友達と同じ物を持ったり、使ったりして遊ぶことが楽しい。
- ・「よせて」「これ貸して」など、自分の意志を相手に伝える言葉を適切に使うようになる。そして、自分の心に余裕のあるときは、相手を受け入れる姿も見られるようになる。
- ・ひねりゴマや手びねりゴマを回してみようとしたり、凧揚げをやってみようとしたりするなど正月遊びを楽しむ。
- ・子ども同士の言い合いやたたき合いなど、いざこざが起きたとき、間に入って止めようとする姿が見られる。強引な面もあるが、自分なりに状況を理解し、何とか仲裁しようとする。自分が当事者になると、やはり譲ることは難しい。
- ・雪や氷などを楽しみにし、触れてみたり、割ってみたりするなど、自分なりに試してみることが多い。寒さの方が勝って、長く遊ばない子どももいる。
- ・休み明けや寒い朝、登園時に保護者と離れがたかったり、ぐずったりする子どももいる。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○先生や友達と一緒に、イメージしたことを表現して、心ゆくまで遊ぶ楽しさを味わう。

■ごっこ遊びのなかで、役割を決めたり、好きな役になったり、言葉を交わしたりして遊ぶ。

■いろいろな素材を使って、自分がイメージした物や遊びに必要な物を描いたり、作ったりする。

■友達と体を十分に動かして遊ぶ。

■冬の自然に触れる。

■コマや凧揚げ、福笑い、絵カルタなど、正月の遊びを楽しむ。



環境構成	援助のポイント
<p>先生や友達と一緒にイメージしたことを表現して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごっこ遊びの道具になりそうな素材やお面などは、あらかじめ、目につく場所に置いておいたり、いつでも出すことができるように用意したりしておく。</li> <li>・子ども達みんなが知っているお店屋さんごっこができる場や素材を用意し、先生や友達とやりとりを楽しみながら、作ったり、売ったり、買ったりするなど、自分のイメージしたことを心ゆくまで表現して遊ぶ楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>・自分の遊びに必要な物を作ったり、描いたりできるように、少し手を加えると子ども達が喜んでしている遊びの道具になるような物を提案する。また、いろいろな形の紙や空き箱など、そのものからイメージして、遊びが始まることもあるので、見えやすい場所に整理して置いておく。</li> <li>・家庭では親しむことが少なくなってきた正月の遊びに興味をもつことができるように、ひねりゴマ、手びねりゴマ、福笑い、絵カルタなどを用意する。そして、ゆっくり試しながら遊ぶことができる場もつくっておき、子ども達を誘ってやり方を知らせながら、楽しく遊ぶことができるようにする。</li> <li>・氷のできそうな場所に、いろいろな容器に水を入れて置いておく。</li> <li>・室内での遊びが心地よく、暖かい雰囲気を楽しむことができるように、子ども達が集まって遊ぶ場に敷き物を敷いておく。</li> </ul>	<p>先生や友達と一緒にイメージしたことを表現して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久しぶりの幼稚園であるので、一人一人に親しく声をかけたり、体に触れたりし、親しみや安心感をもつことができるようにする。</li> <li>・必要に応じてごっこ遊びの仲間入りをし、子ども達のイメージしたことを表現することができる楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>・興味をもったものを作ってみたいが、やり方がわからなかったり、技術が伴わなかったりするので、必要に応じて手助けし、自分の思った物を作ることができた達成感を味わうことができるようにする。</li> <li>・正月の遊びとして、風を感じながら自分なりに試して遊ぶことができるように、風がよく吹く日に凧揚げに誘う。壊れにくく簡単に作ることができる物を、いろいろな飛ばし方を試すことができるような場で楽しんで飛ばして見せる。</li> <li>・氷や霜など、冬の自然現象に触れて遊ぶことができるように、子ども達が見つけてきた霜や氷をきっかけに、子ども達を誘って、探しに出かけてみたり、教師が見つけて、子どもに驚きをもって知らせたりする。</li> <li>・友達と体を十分動かして遊ぶことができるように、寒くて室内に閉じこもっている日などは、戸外での鬼ごっこに誘ったり、三輪車やスケーターなど身近な遊具での遊びを投げかけたりする。</li> </ul> <div data-bbox="844 1417 1383 1818" data-label="Image"> </div>

## 2月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 同じようなイメージをもって遊ぶ

- ・劇遊びやオペレッタなど、みんなで同じ絵本の世界を楽しみながら、先生と言葉のやりとりを楽しんだり、好きな役になりきったりすることを喜ぶ。
- ・クラスのみんで遊んでいる劇遊びやオペレッタを、友達同士でやってみることが楽しい。
- ・積み木でベッドを作ったり、テラスにござと積み木を運んで家を作ったりするなど、同じイメージをもって遊ぶなかで、遊びに必要な場を友達と一緒に作る。
- ・前に作ったことのある物で、自分の遊びに必要な素材を先生に出してもらいたいなど、一度経験したことを思い出して自分の遊びに使うことが多くなる。
- ・リレーごっこ（バトンをもって走る真似っこ）やかくれんぼ、砂場の温泉作りなど、以前先生と遊んで楽しかったことを思い出して、子ども達だけで遊ぶ姿が見られるようになる。数人が遊び始めると、7～8名になっていることもある。
- ・先生や友達と一緒に、ボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして遊ぶことを喜ぶ。
- ・節分では鬼が来ることを怖がる子どももいれば、怖がらずに豆をぶつけに行く子ども達もいる。
- ・年長組に招待してもらえるお別れパーティーを楽しみにしている。お別れパーティー（96頁参照）当日はいつもと違う雰囲気緊張気味だが、年長組のやさしいお世話やクッキーなどのおいしさに満足している様子が見られる。
- ・けがをしたり泣いたりしている人がいると、すぐに担任に知らせに来る。そしておおよその状況を説明できる。
- ・先生と一緒に、フキノトウなど春を知らせる自然物を集めることを楽しむ。



## ねらい（○）・内容（■）

- 友達や先生と一緒に、同じようなイメージをもって遊ぶ楽しさを味わう。
- クラスのみんや先生と一緒に、好きな役になりきって、歌ったり、踊ったり、セリフを言ったりしてみる。
- 好きな役になって、まわりの友達と一緒にいることを楽しむ。
- 積み木やござなどで、ごっこ遊びの場を作ったり、遊びに必要な物を作ったりする。
- 友達や先生とリレーごっこ、鬼ごっこ、ボールの蹴り合いっこなどをする。

環境構成	援助のポイント
<p>同じイメージをもって遊ぶために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や紙芝居の気に入った言葉を表現する楽しさを味わうことができるように、子ども達の好きな、繰り返しのある絵本の言葉をやりとりして遊んでいく。また、好きな絵本にぴったりの場や道具、音楽などを用意して、お話の世界が思い浮かぶような言葉をかけたり、つなぎ役になったりして、一緒に遊ぶ。</li> <li>・劇遊びやオペレッタ、ペープサートを楽しくできるように、劇の雰囲気が出るような場や小道具をつくったり、イメージがわいて思わず動いてみたくなるような言葉をかけたりして、一緒に楽しむようにする。</li> <li>・節分の雰囲気を味わうために、ヒイラギやイワシなど、その意味を知らせながら保育室の出入り口に貼り付けたり、豆まきに誘ったりする。</li> </ul>	<p>同じイメージをもって遊ぶために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスみんなで遊ぶ劇遊びやオペレッタでは、絵本の世界を楽しみながら表現できるように、子どもから生まれる言葉や動きも大切にしていく。</li> <li>・クラスみんなで楽しんでいる劇遊びやオペレッタを友達同士で楽しんでいるときは、子ども達のもっているイメージを聞きながら、一緒に場や道具をつくったり、子ども達のイメージに応じて仲間入りしたりする。</li> <li>・ボールを投げたり、蹴ったりすることで、いろいろな動きを経験できるように、サッカーごっこ（ボールの蹴り合いっこ）やボールのあてっこに誘う。子どもだけで遊ぶことは難しいので、教師も子ども達の動きに合わせてながら、仲間になって遊びを楽しむようにする。</li> <li>・自分の思いや考えを出したり、友達の思いも聞いたりして、遊ぶ楽しさを味わうことができるように手助けする。しかし、まだまだ上手に自分の気持ちを表現できず、いざこざが起こることもあるので、互いの思いを丁寧に伝えるようにする。</li> <li>・豆まきでは、怖くて泣き出す子どもなど、不安感が強い子どもにはその思いをしっかり受けとめながら、一緒に豆まきをする。</li> <li>・豆まきは自分の心の中にいる鬼をやっつけることでもあることを知らせ、豆まきの後も、「○○鬼をやっつけたから、がんばっているね」などと声をかけるようにする。</li> <li>・友達が泣いたり、困っていることを知らせに来たりしたときは、しっかり受けとめて、子ども達が、友達のことも手助けできる自分に自信をもつことができるようにする。</li> <li>・お別れパーティーでクッキーなどを食べるときに、年長組への感謝や憧れの気持ちをもつことができるように、「年長さんの作ったクッキーおいしいね」「お世話してもらってうれしいね」などと、子ども達の気持ちを言葉にしていくようにする。</li> </ul>

## 3月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 心ゆくまで遊ぶ

- ・友達と一緒に遊ぶことが楽しくてたまらず、時間の許す限り、ぎりぎりまで遊ぼうとする。
- ・前庭の早咲きのサクランボの花が咲いていることに気づき、目を丸くして先生に知らせに来たり、花びらを拾って集めたりする。
- ・年長児の卒園の話などから、自分達が進級するということを知るようになる。「次は何組さんかな？」と進級することを楽しみにする。
- ・これまで自分の思いを十分出していなかった子ども達も、自分らしさを出すことができるようになってきて、相手に自分の思いをぶつけたり、遊びたくて片付けに気持ちが向かなかったりする姿も見られるようになる。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

- 友達と一緒に心ゆくまで遊ぶ楽しさを味わう。
- 友達と一緒に好きな遊びを楽しむ。
- 進級することを知り、期待や喜びをもつ。
- 卒園児に“ありがとう”の気持ちをもつ。
- 春を知らせる草花や木の芽に気づく。
- ひなまつりの雰囲気を楽しむ。

環境構成	援助のポイント
<p><b>心ゆくまで遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戸外が気持ちよくなってくるので、砂場などに誘い、遊びのイメージに合わせて道具や物を出して、友達同士で遊びが始められるようにする。</li> <li>・ 年長児に招かれたお別れパーティーが、とても楽しい経験で、同じようにしてみたい気持ちもあるので、テーブルクロスや券など、それらしい雰囲気がわく物を準備しておき、子ども達の遊びのイメージに合わせて提案する。</li> <li>・ ひなまつりの雰囲気を楽しむために、遊戯室に飾ってあるひな飾りを一緒に見に出かけたり、ひな飾りのイメージがわくような材料を用意したりして、家庭やいろいろな場で見たいひな人形のイメージを思い出させながら、ひな人形作りに誘う。</li> <li>・ 春を知らせる草花や木の芽に気づくように、暖かい日に子ども達と園内を散策し、暖かい陽射しを一緒に楽しんだり、園庭に咲いている春の草花を摘んでみたりする。</li> <li>・ お別れ遠足や園全体での行事では、どんなことをするのか話したりして、楽しみに待つことができるようにする。</li> <li>・ 砂場の道具を片付ける際、「次のもも組さんも使うから、きれいに洗おうね」と声をかけたりするなど、自分達が進級するんだという誇らしさが味わえるような言葉をかけたりする。</li> <li>・ 進級が楽しみになるように年中棟を見に行ったり、広い園庭で遊んだりする。</li> <li>・ ようやく自分らしさを出すことができるようになった子どもが自分の思いを相手にぶつけていざこざになっているときには、その気持ちをまずは喜びをもって受けとめ、相手との橋渡しをしたり、どうしたらよいか一緒に考えたりしていく。</li> <li>・ これまで年長児にしてもらったことを思い出すことができるようにし、今まで世話になった年長児に、感謝とお別れの気持ちを表す状況を作る。</li> </ul>	<p><b>心ゆくまで遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間がいくらあっても足りないくらい、友達と遊びたくなり、弁当や降園の準備になかなか取りかかろうとしないこともある。その気持ちをまずは大事に受けとめながら、先への見通しをもつことができるような言葉がけをする。</li> <li>・ 子ども同士で十分遊ぶことができるようになっていくが、ときには教師も一緒に遊びながら、いろいろなアイデアを子どもに提案してみるなど、遊びのイメージが広がる援助をする。</li> <li>・ 子ども達だけで他学年に出かけて行った際は、どこでどのように遊んでいるか教師間で連絡を取り合い把握し、自分の力以上のことをするなど危険なことはないか、気をつける。</li> <li>・ 自分のことやクラスのことを進んでしたり、友達を思いやったりする姿を見かけたときに、「もう年中組さんみたいだね」と声をかけるなど、進級する喜びをもつことができるような言葉がけをする。</li> <li>・ お別れ遠足、遊びの招待など、年長・年中組と交流する機会を大切に、今まで遊んでもらったり、世話をしてもらったりしたことをうれしく受けとることができるようなかわりを心がける。</li> </ul>



## 4月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>新入児の加わった新しい園生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入園や進級により、どの子どもも新しい環境に期待感をもって いる一方で、緊張している姿や不安な様子も見られる。目に入る もの全てが目新しく、次々に遊びが変わり、ひとつの遊び の持続時間が短い。先生の呼びかけで動いたり、何かを始める とき、先生に同意を求めてきたりする姿も多く見られる。</li> <li>・ 新しい環境への戸惑いや不安から片付けや降園活動など、手順 がわかりやすいことについては、先生の話をよく聞いて行動し ようとする。</li> <li>・ 同じ場所で遊んでいても、イメージしていることは違っている こともある。</li> <li>・ 何をしてもなく1人でじっとしていたり、先生と一緒にいて ほしくて、そばを離れずに一緒に行動したりする。</li> <li>・ 登園時に、緊張や不安から、おうちの人から離れがたく、部屋 に入って来ることができない姿も見られる。</li> </ul> <p><b>【進級児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生に頼まれて、自分の知っていることを手伝ったり、新入児 の手助けをしたりすることがうれしい。</li> <li>・ 先生の誘いよりも、隣の組の仲よしと遊ぶことが楽しい。</li> <li>・ 年少組のときの友達が登園していないと気にしたり、誘い合っ たりして遊ぶ。</li> <li>・ 草花を集めたり、虫を探したりすることを喜ぶ。</li> <li>・ 広い園庭でブランコや滑り台をして遊ぶことを喜ぶ。</li> </ul> <p><b>【新入児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生が遊びを始めると、そこに子ども達が集まって来て、同じ 遊びをしたり、友達が作っている物を見て同じ物を作ったりす る。日によって遊ぶ相手は違っている。</li> <li>・ 入園前から楽しんできた遊びをしたり、知っている友達と一緒 にいたりしたい。</li> <li>・ 先の見通しがなく、いろいろな場所へ出かけていくことも ある。</li> <li>・ ダンゴムシやミミズなどを探したり、身近な草花を集めたりす ることで、気持ちが和む。</li> <li>・ 自分の思い通りにならないことがあっても、それを口に出さず、 顔をしかめたり、その場からいなくなったりすることで思いを 表現することがある。</li> </ul>	<p>○自分の好きな遊びや場所を見つけ て過ごし、<b>園生活を心地よく感じる。</b></p> <p>■自分の思ったことや感じたことを 何でも先生に言うてみる。</p> <p>■先生と一緒にごっこ遊びを楽しむ。</p> <p>■固定遊具などで、いろいろな動き や感覚を繰り返し楽しむ。</p> <p>■園庭にある花や実を集めたり、砂 や土に触れたりして遊ぶ。</p> <p>○園での生活の仕方を知り、自分で やってみようとする。</p> <p>■登降園時の用意の仕方を知る。</p> <p>■弁当の用意などの仕方を知り、先 生と一緒にしてみようとする。</p> <p>■弁当をクラスの友達と楽しく食べ る。</p> <p><b>【進級児】</b></p> <p>○新しいクラスに慣れ、<b>園生活を楽 しむ。</b></p> <p>■新しい部屋にある遊具や用具を使っ て、遊んだり、試したりする。</p> <p>■新入児に幼稚園のことを教えたり、 自分のできることを手伝ったりす る。</p> <p><b>【新入児】</b></p> <p>○幼稚園に親しみをもち、<b>園生活に 慣れる。</b></p> <p>■今までに遊んだことのある友達や 先生と一緒に、好きな遊びをする。</p> <p>■園にいる小動物を見たり、触った りする。</p> <p>■先生や進級児、年長児から教えて もらって、園生活の仕方に気づく。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>園生活を心地よく感じるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達がすぐ遊び出せ、心が落ち着くように、ブロック、粘土、積み木、ままごとなどの遊具や用具をそれぞれの場所に準備や整理をしておく。</li> <li>遊具や用具を分類し、わかりやすく表示をつけ、子ども達がすぐに取り出したり片付けたりできるようにしておく。</li> <li>1人でも安定して過ごすことができるように、絵本や製作のコーナーをつくっておく。</li> <li>いろいろなものが目新しく、次々に遊びが変わるので場所はゆったりと遊ぶことができる広さにしておき、材料なども多めに準備しておく。</li> <li>総合遊具などを安心して使うことができるように、遊具のまわりを整備し、教師も共に楽しみながら、安全な遊び方を知らせる。</li> <li>砂場での遊びをじっくりと楽しむことができるように、掘り起こしておいたり、スコップなどの道具を多めに用意したりしておく。</li> </ul> <p><b>園生活の仕方を知るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が安心して過ごすことができるように、ロッカーや靴箱、座る場所に自分の場所がわかるような個人ごとのマークを付けておく。</li> <li>教師が片付け方のモデルとなり、片付けの仕方に気づかせていく。</li> <li>初めての弁当（手作り弁当と弁当給食）が楽しく食べられるように、テーブルの位置や数を工夫し、準備したり、食べたりする時間などを保障したりする。</li> <li>食物アレルギーの子どもがいる場合は、座席を指定しておくとともに、アレルギー除去食の確認をする。</li> </ul> <p><b>園生活を楽しむために【進級児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほっとして過ごしたり好きな遊びをしたりできるように、年少のときから親しんできた遊びができる場をつくっておく。</li> </ul> <p><b>園生活に慣れるために【新入児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミニカーやブロックなど家庭にあるようなおもちゃをすぐに遊び始めることができるように用意しておく。</li> <li>春の草花や虫を見つけたり、触ったり、集めたりして、自分なりのかかわり方ができるように、保育室周辺の自然環境を整え、草花のありかや小動物のいる場所を把握しておく。</li> <li>弁当の準備の仕方がわかるように、一つ一つ確認していく。</li> </ul>	<p><b>園生活を心地よく感じるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が自分の好きな遊びを見つけていくことができるように、教師自身が遊びを楽しみながら誘っていく。</li> <li>一人一人の子どもの気持ちをありのままに受けとめ、一緒に好きな遊びを見つけたり、気持ちが落ち着くことを探したりして、心がほぐれるように援助する。</li> <li>子ども達が楽しそうに言葉をかけ合ったり、一緒に遊んでいたりする場面を捉えて、教師も楽しさを共感していく。</li> <li>ふだん家庭で呼ばれている名前でも呼ぶことを心がけ、教師や園に親しみをもつことができるようにする。</li> <li>登園時に泣いたり、保護者と離れることをいやがったりする子どもには、その気持ちを受けとめながら、心が和むことを探していく。</li> <li>なかなか遊び出すことができない子どもや不安定な子どもの気持ちが和むように、一緒にタンポポやクローバーを摘んだり、オオバコの茎ですもうをしたりしていく。</li> </ul> <p><b>園生活の仕方を知るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初めての弁当が楽しく食べられるように、それぞれの子どもの進み具合を受けとめていき、必要に応じて望ましい食べ方や座り方を知らせていく。</li> <li>弁当給食に苦手な物が入っている時には、他の子ども達がおいしそうに食べていることに気づかせ、少しでも食べてみようとする気持ちになるようにする。</li> </ul> <p><b>園生活を楽しむために【進級児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進級児へのかかわりがおろそかになりがちなので、進級児の思いを捉え、声をかけたり、遊びの様子を見に行ったりしてその楽しさを共感し、信頼関係をつくっていくことができるように心がける。</li> <li>進級児が新入児に自分の知っていることを教えたり、手伝ったりしたくなるような働きかけをして、新しい園生活への自信につながるようにする。一方でそれが負担にならないように心がける。</li> <li>意欲的に弁当の準備ができるよう、去年の仕方を思い出すことができる声がけをする。</li> </ul> <p><b>園生活に慣れるために【新入児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先の見通しがなく、いろいろな場所に出かけていく子どももいるので、全職員で協力して、子ども達の動きや様子を把握し、安全を確保する。</li> <li>子ども達が、草花や虫を見つけた時のうれしさに共感し、他の子ども達にも知らせていく。</li> <li>自分の持ち物を安心して置くことができるように、その場所へ一緒に行ったり、マークを確かめ合ったりして、一人一人に始末の仕方を知らせていく。</li> <li>遊びや生活の区切りを捉えて、トイレに行くように声をかける。また、トイレの気持ちのよい使い方がわかるように知らせていく。</li> </ul>

## 5月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>友達や先生と一緒に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月は緊張からか表情が硬かった子どもも、徐々に自分の思いを出すようになる。</li> <li>・ 園生活にも慣れてきて、好きな遊具や用具、また得意なことなどを見つけて繰り返し遊ぶようになる。遊ぶ範囲も広がってきて、クラスの雰囲気がにぎやかになる。</li> <li>・ 草花を使って、色水を色々なやり方で作ることが楽しい。</li> <li>・ 砂や土に水を加えたり、掘ったりした時の変化に驚いたり、川や食べ物などに見立てたりして遊ぶことを楽しむ。また、裸足になって砂、水の感触を体いっぱいを感じ、開放感を味わう。</li> <li>・ 身近にいる小動物を自分なりのやり方で捕まえたり、世話をしたりする。捕まえた小動物を持って帰りたくて、自分でビニール袋や箱などに入れたり、必要な物(花、葉、草、土など)を足したりする。</li> <li>・ 友達や先生がしていることや環境として置いている物に興味を示し、進んで試す子どももいれば、まわりから見ている子どももいる。また、大勢が集まって遊ぶ際には、そのにぎやかな雰囲気に楽しさを感じる子どももいれば、逆にそのにぎやかさに抵抗感を示す子どももいる。</li> <li>・ 同じ遊びをしていたり、同じ場所で遊んだりしたこと、親しみを感じるようになり、一緒にいたい友達ができ始める。</li> <li>・ 友達の持っている物や、楽しそうにしていることがあると、今していることをやめて、自分もやってみようとする。</li> <li>・ 友達とのかかわりが増え、自分の思いを通したい、言うことを聞いてもらいたいという気持ちも出てきて、いざこざになることがある。</li> <li>・ 先生に自分の思いを聞いてほしかったり、体全体でかかわってもらいたかったりする気持ちが強くなる。</li> <li>・ 気の合う友達と、好きなものや懂れているものになりきって遊ぶのが楽しい。</li> </ul> <p><b>園での生活の仕方を知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服の脱ぎ着や始末など、個人差が大きい。</li> <li>・ 机出しや台拭きなどを先生と一緒にしてみようとする。</li> <li>・ 片付けや弁当の用意など、自分のできることを先生に見てもらいたい。それらの時間になるともっと遊びたくて、なかなか保育室に帰って来なかったり、保育室の中でも隅で遊びを続けようとしたりする子どもの姿が見られる。</li> <li>・ 弁当給食では、好き嫌いや食べ慣れていない物があり、食べ終わるまでにかなりの時間を要したり「食べられない」と言いに来たりする姿が見られる。</li> <li>・ 身体測定や健康診断、避難訓練など、今までにあまり経験したことのない行事では、不安になったりどんなことをするか、何度も教師に尋ねたりする子どももいる。</li> </ul>	<p>○友達や先生と一緒に、自分のしたい遊びを見つけて、試したり繰り返したりして遊ぶことを楽しむ。</p> <p>■砂、土、水などの感触を味わいながら自分なりに試したり、発見したりして遊ぶ。</p> <p>■いろいろな花で自分なりに色水を作る。</p> <p>■ブランコやスケーターなどでいろいろな動きや感覚を楽しむ。</p> <p>■身近にいる小動物に触れたり、草花を摘んだりする。</p> <p>■身近にある素材を使い、試したり、作ったり、作ったもので遊んだりする。</p> <p>■自分の好きな遊びを楽しみながら、まわりで遊んでいる友達に気づく。</p> <p>■自分の思いを、どのように伝えたらよいかを、先生と一緒に考えてみる。</p> <p>■好きなものになりきって遊ぶ。</p> <p>○園での生活の仕方を知り、自分でやってみようとする。</p> <p>■先生に手伝ってもらって、着替えたり、脱いだ物の始末をしたりする。</p> <p>■机出しや台拭きなどを先生や友達と一緒にしてみようとする。</p> <p>■弁当を、クラスの友達と楽しく食べる。</p> <p>■できないところは先生に手伝ってもらいながら、弁当の準備や片付けをしてみようとする。</p>



環境構成	援助のポイント
<p><b>友達や先生と一緒に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級、入園して緊張している心がほぐれたり、GW後の不安な気持ちを取り除いたりすることができるよう、何度も繰り返し楽しむことができるような遊び（砂の型抜きや色水など）を取り入れる。</li> <li>・自分の好きな遊びを見つけて、楽しむことができるように、遊びに必要な遊具や用具をそれぞれの遊びの場所に準備しておく。また、子ども達の遊びの状況に応じて、必要な物を足していくようにする。</li> <li>・子ども達のイメージが広がったり、遊びの意欲が高まったりしていくように、砂場のまわりをきれいにしたり、テーブルを出しておいたりして料理やごっこ遊びがしやすいようにしておく。</li> <li>・砂場や赤土山などで、水を入れたり、運んだりすることのできる大きめのバケツや容器を、子どもの要求に応じられるように用意しておく。</li> <li>・いろいろな感触を味わうことができるように、泥遊びをダイナミックにできる環境をつくっておく。</li> <li>・教師が率先して裸足で遊びに行き、砂や泥遊びに参加しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>・砂のごちそう作りや草花を使った色水遊びなどをじっくりと楽しむことができるように、木陰にテーブルなどを置いておく。</li> <li>・様々なやり方で色水を作ることができるように、ビニール袋、ボウル、泡立て器などを用意する。</li> <li>・ブランコやスケーター、段ボール滑りを通していろいろな動きや感覚を味わうことができるようにしたり、ごっこ遊びの雰囲気をつくったりして、子ども達の気持ちが開放されるようにする。</li> <li>・身近にいる小動物を子ども達がゆっくり見たり、かかわったりすることができるように、観察ケースなどを準備しておく。</li> <li>・タンポポや柿の花など、春の草花がたくさんあるところに、子ども達を誘って行き、それを使った遊びを、実際に教師がやって見せたりして、安心感や心のよりどころが見つかるようにする。</li> <li>・形や大きさ、色や質の違う紙や空き箱などを用意しておき、子ども達が自由に使うことができるようにしておく。また、手触りや形に興味をもつことができるようにする。</li> <li>・セロハンテープなど使いすぎてしまいがちになるものを例に出しながら、物には限りがあることやちょうどよい量を知らせていくようにする。</li> <li>・スカートや冠、マントなどの衣装を準備、整理しておき、自分の好きなものになりきって遊ぶことができるようにしておく。</li> </ul> <p><b>園生活の仕方を知るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まわりの子ども達に声をかけたり、楽しい雰囲気をつくったりしていきながら、教師が進んで片付けをしていく。</li> <li>・手洗い指導で習ったことを思い出しながら自分でできるよう、手洗いの順序を掲示しておく。</li> </ul>	<p><b>友達や先生と一緒に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をきっかけとして、安心して遊びに取り組んでいくのかをよく捉え、一方的な思い込みで遊びや物を押しつけないようにし、その子どもなりに模索しながら遊びを進めている様子を大切に受けとめていく。</li> <li>・教師も砂場や赤土山と一緒に遊びながら、土や水の感触のよさや遊具や用具の使い方を知らせていく。</li> <li>・水を使う遊びの中で、子ども達がまわりの友達におかまいなしに水を散らすなど、自分だけの思いで遊びを進めているときには、どんなことを楽しんでいるのかを把握し、友達の遊びも大事にしていく方法を子ども達と一緒に考えていく。</li> <li>・草花を使って色水ができた驚きや発見の喜びを共感し、子ども達と一緒に色水を作ったり、他の子ども達にも知らせていったりする。</li> <li>・摘んでよい花や葉を考えて摘むことができるように、見わけ方のポイントを知らせる。</li> <li>・小動物とのかかわりで、子ども達の思いがけない発見に教師も一緒に驚いたり、興味をもって聞いたりする。</li> <li>・でき上がりや形にこだわらず、子ども達が自分なりに試したり、自分の思いでのびのびと描いたり作ったりすることができるように、教師はその子どもなりの表現を認めていく。</li> <li>・子ども達が、イメージしたものを作る楽しさを味わうことができるように、思いついたことをやってみる楽しさなどを共感していく。作りたいものがうまくできないときは、子どもの思いを聞きながら手を貸していく。</li> <li>・子ども達が、安心して遊びを楽しんでいくことができるように、教師も遊びの仲間になって、一人一人の子ども達の喜びや、それぞれの遊びの楽しさを共有していく。</li> <li>・たたいたり、物を投げたりすることで自分の思いを表現しようとする子どもには、気持ちを受けとめながら、お互いのしたかったことなどを、ゆっくりとわかるように伝えていく。子ども達はその姿を見て、言葉で伝えていくと気持ちが伝わることに気づくようにしていく。</li> <li>・大勢がいる中で遊ぶことが苦手な子どもには、人数が少なくなってから誘ったり、ゆったりと同じ遊びを楽しむことができるような場を別のところに用意したり、次の日に誘ったりしていく。</li> <li>・空き箱で水を汲むなど、性質に合わない使い方をしていても、教師の方から適切な使い方を知らせるのではなく、子どもが自分でよりよい方法に気づくことができるように、待ったり、一緒に考えたりする。</li> </ul> <p><b>園生活の仕方を知るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服が濡れたり汚れたりしても、そのままの子どももいるので、必要に応じて着替えを手伝い、着替えると気持ちがいいことに気づいていくことができるようにする。</li> <li>・弁当の準備や、食べる速さ、片付けについては個人差が大きいのので、必要に応じて手を貸しながら、自分でできたという達成感を味わうことができるようにしていく。</li> <li>・身体測定や避難訓練は、どんなふうにするかを前もって話し、子ども達が安心することができるように援助する。緊張が強い子どもには、具体的に様子を見せたり、話したりして、怖がらずに行うことができるように援助していく。また、自分の体に関心をもったり、健康に気をつけたりできるきっかけとなるようにする。</li> </ul>

## 6月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい(○)・内容(■)
<p><b>自分が興味をもった遊びを楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のまわりにいる小動物を捕まえようとしたり、追いかけたりする。</li> <li>・ひとつの遊びが長く続くようになり、自分なりに工夫したり繰り返し試したりする。</li> <li>・ほしい物が見あたらない時は、先生にどうしたらよいか聞いてくる。</li> <li>・自分の気に入っているCDをかけて友達と一緒に踊ることが楽しい。</li> <li>・友達がイメージを出して作った物や興味をもって集めたり探したりしている物、またそれらを使って楽しんでいることなどに、強く関心を示し、自分も持ったり、試したりする。</li> <li>・一緒に遊びたい友達ができてきて、登園してくるのを待ったり、誘い合って遊びを始めたりする。</li> <li>・遊び方や、何をして遊ぶかなどについて、気の合う友達の中で、自分の思いを出して遊ぶようになる。</li> <li>・遊具や遊びの場、座る場所をめぐって自己主張がはっきりし、お互いの思いがぶつかり合い、いざこざが多くなる。</li> <li>・昼食時やみんなが集まる時など、気の合う友達同士で座りたい様子が見られるようになり、もめることもある。</li> <li>・園生活にも慣れてきて、友達と同じことを言ったり、したりすることが楽しくなり、歌を歌う時に大声やふざけて歌ってみたり、弁当の時に汚いことを言ってみたりなど、その場にふさわしくない言葉でも真似して一緒に言う姿が見られる。</li> <li>・砂場、赤土山などで、全身水や砂、土だらけになって開放的に遊びを楽しむ。一方で水がかかったり、汚れたりすることをいやがる子どももいる。</li> <li>・赤土山に徐々に水を足していき、だんだんに柔らかく滑らかになっていく土の感触を味わったり、砂場でトイをつなぎ合わせてバケツやホースで一気に水を流したりして、水の流れる様子などを繰り返し試す。</li> <li>・年長組のお店屋さんに誘ってもらった楽しさから、自分なりのお店屋さんをしようとする。店構えや商品ができていなくても、友達や先生をお客さんに呼びたい。</li> </ul> <p><b>水遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プールでの遊びは、それまでの経験から遊び方に個人差が見られるが、友達や先生が楽しそうに遊んでいたり、イメージがふくらむような道具があったりすると、遊びを楽しんでいこうとする姿が増えてくる。</li> </ul> <p><b>必要に応じて自分でやってみようとする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とのかかわりが楽しくなって、弁当や降園のときなど、みんなが集まる場はとてにぎやかになる。一方で、子どもが大切だと思ったことはよく聞く姿が見られることもある。</li> <li>・進んで水着に着替える子どももいれば、先生に促されながらトイレに行ったり着替えをしたりする子どももいる。</li> <li>・遊びに意欲的に取り組むようになる一方で、片付けなど生活面がおろそかになる場合もある。</li> <li>・弁当給食に入っている苦手なものでも少しだけでも食べようとする。</li> </ul>	<p>○友達や先生と一緒に、自分が興味をもった遊びを楽しむ。</p> <p>■体全体で砂や土、水の感触や形を楽しんだり、草花や絵の具の色の変化に気づいて、繰り返し試したりする。</p> <p>■好きな曲に合わせて何度も踊ったり、体を動かしたりする。</p> <p>■いろいろな用具(糊・クレパス・セロハンテープ・ハサミ)を使って遊ぶことを楽しむ。</p> <p>■小動物を友達と一緒に捕まえたり追いかけたりする。</p> <p>■自分の思いを、言葉で友達に伝え、相手の思いにも耳を傾けようとする。</p> <p>○水遊びを通して、水ならではの感覚を味わうとともに、水の性質の様々な気づきや発見を楽しむ。</p> <p>■水遊びの様々な道具を使って、自分なりに繰り返し試して遊ぶ。</p> <p>■プールで道具を使って遊んだり、自分なりのイメージを広げてごっこ遊びを楽しんだりする。</p> <p>■プール遊びのきまりを知り、安全に気をつけて遊ぶ。</p> <p>■先生と水のかけ合いっこや追いかけてっこをしたりして、開放感や水の中ならではの感覚を味わいながら遊ぶ。</p> <p>■ペットボトルで作った舟(2ℓ×3本)につかまって進んだり、先生の背中に乗ったり、先生の引っ張るフラフープにつかまったりして遊ぶ。</p> <p>○園生活の仕方がわかり、必要に応じて自分でやってみようとする。</p> <p>■自分で水着や服の脱ぎ着や片付けをする。</p> <p>■遊んだ後の片付けなどを自分でやってみたり、わからないことは友達や先生に聞いたりする。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>自分が興味をもった遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがよく遊ぶ場所にパラソルや遮光ネットを設置して、過ごしやすくゆったりと遊びやすい空間づくりを心がける。</li> <li>砂、土、水などで、いろいろな試し活動ができるように、教師も遊びの仲間に入っていく、汚れることに抵抗のある子ども達にも、感触のよさや楽しさを知らせていく。</li> <li>天気の良い日などは、絵の具のコーナーを用意し、思いきり描く楽しみを味わうことができるようにしておく。そうすることで、汚れることや濡れることを気にせずに、のびのびと遊ぶ経験になったり、そのつながりで水を使った遊びも開放的にできるようにする。</li> <li>いろいろな動きや踊りを楽しんでいくことができるように、遊びの中やプール前の準備運動で、繰り返しのあるリズムなど、子ども達が親しむことができる曲のCDを用意しておく。</li> <li>大きさや形の違う紙や、空き箱などを製作コーナーに置いておき、一人一人の子どもが、自分なりのイメージをふくらませて試すことができるようにしておく。また、子どもが必要とする物を出したり、一緒に作ったりして遊びをより楽しむことができるようにする。</li> <li>糊やクレパスなどを使って遊ぶ楽しさに気づくような製作遊びを取り入れる。</li> <li>小動物を捕まえたという気持ちが強いので、持ち出しやすい場所に網やかごを準備しておく。</li> <li>雨などで、遊ぶ場所が限られてしまうときは、それぞれの遊びがゆったりとできるような環境を心がける。</li> <li>雨の日が続いて、戸外で遊ぶことができないときは、遊戯室で鬼ごっこや表現遊びや運動遊びなどをして、思いきり体を動かすことができるようにする。</li> <li>雨の降る音を聞いたり、雨上がりには水たまりに入ったりし、感触、感覚、音を一緒に楽しむようにする。</li> <li>天気の良い日には、思いきり体を動かして遊ぶことができるように、スケーターなどを出しておいたり、鬼ごっこやかかけっこなど、体を動かす遊びに誘っていったりする。</li> <li>お店屋さんなどで、遊びをより楽しむことができるような場所やアイデアを提案し、一緒に遊びをつくっていく。</li> </ul> <p><b>水遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プールが始まる前に、水に徐々に慣れていくことができるように、前庭や足洗い場に水遊びの道具を出し、水に親しむことができる機会をつくっていくようにする。</li> <li>大きいプールに抵抗のある子どももいるので、プールサイドにビニールプールを置いたり、プラスチックの容器や、柄杓などの用具を用意したりし、それぞれの子どもが、自分なりの楽しみ方で、水とかかわることができるようにする。</li> </ul>	<p><b>自分が興味をもった遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のイメージしたものができると、遊びがより楽しくなるように、子どもの思いを聞きながら、うまくできないときは手を貸したり、教師も仲間の一員になって同じ遊びを楽しんだりしていく。</li> <li>子ども達が踊ったり、体を動かしたりすることを楽しむことができるように、教師も遊びの一員になって、子ども達と一緒に遊びを楽しむ。</li> <li>空き箱を使って製作する際に、物を大切に使うことができるよう気づかせる。</li> <li>子ども達が捕まえてきた小動物などの世話を一緒にしながら、興味をもったことや気がついたことに耳を傾け、共感したり一緒に調べたりする。</li> <li>子ども達同士がつながったり、互いのよさを感じたりできるように、子どもが教師に手助けを求めてきたときなどには、作り方ややり方を知っている子どもに、その子どもなりの手助けを頼む。</li> <li>子ども達の間でうまくいかないことが起こったときは、お互いの気持ちを受けとめながら相手の思いを知らせていき、どうしたいのかを子ども達と一緒に考えていく。</li> <li>子ども達の様々な言葉遣いに対しては、自分を出すことができるようになったこととして認めつつ、言われてうれしい言葉といやな言葉があることに子どもが自分で気づくことができるように促していく。</li> </ul> <p><b>水遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水とのかかわり方には個人差があるので、教師も一緒に動いて、それぞれの子どものに合った適切なかかわり方をしていく。</li> <li>プールで水遊びをした子どものプール遊び後の体調や疲れをよく見ていくようにする。</li> </ul> <p><b>必要に応じて自分でやってみようとするために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>もっと遊びたい、作った物や場を置いておきたいという子ども達の気持ちを受けとめ、それを明日への期待につなげながら、気持ちを切り替えて、片付けや降園時の用意ができるようにする。</li> <li>プールに入る前にトイレに行くことやお茶を飲むこと、安全面で気をつけるべききまりなどを、子ども自身が気づくことができるようにしていく。</li> <li>プールの際の衣服の着脱では、自分でできたことが自信につながるように、必要に応じて部分的に手助けする。</li> <li>これまで教師が手伝っていたことで、子どもが自分でしようとする姿が見られたときには、その姿を認め、自分に自信をもつことができるようにする。</li> <li>教師も一緒に片付けながら、子ども達が力を発揮している姿を認めたり、片付けた後がきれいになったことを知らせたりして、片付けが楽しくなるようにする。</li> </ul>



## 7月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 遊びを十分に楽しむ

- ・プール遊びを楽しみにしている子どもがいる一方で、水に抵抗がある子どもや、友達と今している遊びを続けたくて、プールに行きたくない子どももいる。
- ・服や水着の着替えは、大体自分でできるようになり、できないところは先生や友達に頼む。
- ・プールの中で思いきり遊んだり、プールサイドでごっこ遊びをしたり、自分なりに水とのかかわりを楽しむ。
- ・友達の遊びが刺激になり、真似てみたり自分の遊びに取り入れたりするようになる。
- ・年長児がしていることに憧れて、年長児にかかわってもらいながら遊ぶこともある。
- ・七夕飾り用に色紙を思い思いの形にしていけることを楽しんだり、友達のしていることを真似てみたりする。
- ・夏のお楽しみ会の盆踊りで使ううちわの飾りつけを楽しむ。できあがったうちわを使って踊ることも楽しい。

## 気の合う友達とかかわりながら

- ・好きな友達と一緒にいたい、一緒に遊びがしたいという気持ちが強くなってきて、誘い合って遊びを始める姿が多くなる。
- ・今の遊びの状態を続けたくて、新たに別の友達が入って来ることをいやがることもある。
- ・先生に、いろんなことができるすごい自分を認めてもらいたい。
- ・気の合う友達とバッタやセミを探したり、餌を与えたりすることを楽しむ。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

- 自分の好きな遊びを十分に楽しむ。
- いろいろな水遊びを存分に楽しみ、水の気持ちよさを味わう。
- プールの中で先生と一緒に好きな動きをして遊ぶ。
- 七夕飾りなどを作る。
- 夏のお楽しみ会を楽しみにして盆踊りに使ううちわに飾り付けをしたり、盆踊りを踊ったりする。



- 気の合う友達とかかわりながら遊びを楽しむ。
- 自分の思いを、言葉で相手に伝えようとする。
- 友達の思いに気づいたり、考えを聞いたりする。

環境構成	援助のポイント
<p><b>遊びを十分楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに水と親しんだり、水遊びを楽しんだりすることができるように、ビニールプールや大きさや形の異なるプラスチック容器、ままごと道具などをプールサイドに用意する。</li> <li>・顔に水がかかると、抵抗のある子どもには、それぞれのペースでゆっくり水とかかわることのできる場をつくる。教師がゆっくりかかわっていき、その子どもなりの遊びを大事にしていく。</li> <li>・体調がすぐれずプールに入ることができない子ども達には、体に水がかからない場所で、水とかかわりを楽しむことができるような場所をつくる。</li> <li>・水遊び中心の生活が続くが、1日の中で、ゆったりとした気持ちで遊んだり、自分の興味のあることに取り組んだりすることができる時間や場を必要に応じて用意する。</li> <li>・七夕に親しむことができるように、七夕の紙芝居や歌を楽しむ。また、七夕飾り用のために輪っか用紙や色紙をいろいろな形に切って分類しておく。</li> </ul>	<p><b>遊びを十分楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プールの着替えのとき、服の畳み方が丁寧だったり、濡れた水着を脱ぐことができたりするなど、子ども達ができているところを認めていく。また、背中や髪をふき方や片付けが不十分だったりする場合は個々に知らせていく。</li> <li>・自分なりにプール遊びを楽しむことができるように、教師も仲間になって水の中をはったり、水のかけ合いや追いかけ合い、ごっこ遊びなどを一緒に楽しんだりする。</li> <li>・水とかかわることは好きであるが、プールに抵抗がある子どももいるので、遊びの様子からその原因を探り、それぞれの子どもが自分なりにプール遊びを楽しむことができるように援助していく。</li> <li>・自分なりに、思う存分水とかかわり遊ぶなかで、水がかかったらいやな友達がいることや、他の友達の遊びも大切にしていこうと気づかせていく。</li> <li>・子ども達が七夕飾りを作ることができるように、子ども達の様子に応じて手を貸していく。</li> <li>・夏のお楽しみ会は、どんな楽しみがあるかなど前もって話をしたり、うちわの飾り付けをしたりして、子ども達がいつもとは違う気持ちで、期待感をもって、夏ならではの催しに参加していくことができるようにする。</li> <li>・年長児がしている遊びがしたくて、教師にどのようにしたらよいか相談してきたときは、必要に応じて年長児とのやりとりのかけ橋になり、したい遊びができるようにしていく。</li> </ul>
<p><b>気の合う友達とかかわりながら</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が「～しよう」と自分の思いを出して遊びを始めることができるよう、前日のごっこ遊びで使った物を目につきやすい場所に整理して置いておく。</li> <li>・それぞれが思いを出して同じ遊び場を共有している時には、自分の思いを出して遊んでいるか気をつけながら、友達と一緒に遊びのなかで、楽しく遊んでいる様子に共感したり、遊びに必要な物を一緒に考えたり、遊びの場をつくっていったりする。</li> <li>・暑さや水遊びの疲れが出てくるので、気持ちよく過ごすことができるように、窓を開けて風通しをよくしたり、扇風機やエアコンをつけたりして、気持ちよく過ごすことができるようにする。</li> </ul>	<p><b>気の合う友達とかかわりながら</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びに入れてもらえないときなどは、お互いの思いを受けとめ、子ども達がそれぞれに思いがあることに気づき、どのようにしたら自分の思いがわかってもらえるのかを一緒に探っていくことができるようにする。</li> <li>・一人一人の様子を把握して、なぜ水分補給や休息が必要なのかを話し、自分でできるように促す。</li> </ul>

## 9月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>園生活のリズムを取り戻す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み明けは、園での生活の仕方を忘れている子どももいるが、声をかけると自分でできるようになる。</li> <li>・夏休み前に楽しんでいたままごと、ごっこ遊びなどを気の合う友達と誘い合って遊び始める。</li> </ul> <p><b>気の合う友達との遊び</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に遊んでいた遊具や場所など、明日も遊びを続けたくて、そのまま残しておきたい。しかし、次の日には忘れ、他の遊びに夢中になるなど、必ずしも次の日につながるわけではない。</li> <li>・園庭にトンボやバッタなどが見られるようになり、友達と連れ立って探しに行く。なかなか捕まえることができないと、網をそのままにして他の遊びを始めることもある。自分が捕まえた虫を飼うために、図鑑で調べたり、年長児に教えてもらったりする。</li> <li>・鬼ごっこやかけっこなど友達の楽しそうな姿に誘われて、遊びに参加する子ども達が増えてくる。</li> <li>・鬼ごっこで捕まると、泣いたりやめたりする子どももいる。また、かけっこでは、負けるのがいやで参加しようとしないう子どももいる。</li> <li>・もめたり困ったりしたとき、自分達でなんとかしようとする子どももいれば、自分の思いを押し通そうとする子どももいる。中には自分の思いを言葉にせず、ただひたすら泣く子どももいる。</li> <li>・クラスで飼っている小動物に対して、自分の知っていることを生かしてかかわろうとする。</li> <li>・鬼ごっこやかけっこで走りまわったり、音楽に合わせてダンスを楽しんだりして、体を動かして遊ぶことが楽しい。</li> </ul>	<p>○自分の好きな遊びに取り組み、<b>園生活のリズムを取り戻す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■1学期に楽しんでできたことや、夏休みに経験したことで遊ぶ。</li> <li>■思いきり走ったり、スケーターに乗ったりして、十分に体を動かして遊ぶ。</li> <li>■大好きなおじいちゃん、おばあちゃんを思い浮かべたり、自分の好きなことや物を思い浮かべたりして、手紙を作る。</li> </ul> <p>○<b>気の合う友達</b>に、自分の思いを出して遊ぶことを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■気の合う友達に自分の思ったことや考えたことを伝えながら遊ぶ。</li> <li>■いざこざを経験したりするなかで、相手の気持ちもわかろうとする。</li> <li>■園内にいる小動物を見つけて、友達と一緒に捕まえる。</li> <li>■アサガオやオシロイバナなどで色水を作ったり、種や実を集めたりする。</li> <li>■鬼ごっこやダンスなどを通して、体全体を動かす楽しさを味わう。</li> <li>■年長児に刺激を受けて、先生や友達と一緒にかけっこやリレーなどをやってみる。</li> </ul>

環境構成	援助のポイント
<p><b>園生活のリズムを取り戻すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に親しんできた遊具で、すぐに遊ぶことができるようにしておく。</li> <li>・自分なりの動き方や、表現の仕方に満足できるように、踊る場所を広くしたり、ステージをつくったり、CDプレーヤーや子ども達が扱いやすいようにCDを用意したりしておく。</li> <li>・夏休み中に開催される高知のよさこい祭りは、見た子どもが多く、中には参加した子どももいるので、園でも友達と一緒に楽しむことができるように、鳴子や踊りの曲を用意しておく、教師も子ども達と一緒に楽しむ。</li> <li>・かけっこやリレーなどがいつでもできるようにラインを引いたり、バトンなどをすぐ出すことができるように用意したりしておく。</li> <li>・祖父母への手紙を描くことができるように、イラスト入りの紙を多めに用意しておいたり、切手を貼る経験ができるようにあえて糊式切手を用意したりしておく。</li> </ul>	<p><b>園生活のリズムを取り戻すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長い休み明けで、不安定になりがちな子どもの様子をしっかりと受けとめ、その子どもの思いに添って、ゆっくり遊ぶことを心がけ、園生活のリズムを取り戻すことができるようにする。</li> <li>・手作り弁当や弁当給食などの準備や片付けの仕方を、子ども達が自分のペースで思い出すことができるように、援助していく。</li> <li>・子ども達が、思いきり水とかかわりたいという思いを受けとめ、教師も子ども達と一緒に、砂場でダイナミックな動きを楽しむ。</li> <li>・ダンスなどで、その子どもらしい表現の仕方を認めたり、取り入れたりしていく。</li> <li>・かけっこをやりたくない子どもには、一緒に手をつないで走ったり、後ろから今にも追いつくかのように走ったりして、かけっこの楽しさや走る気持ちよさなどを味わうことができるようにする。</li> <li>・年中児は鬼ごっこのルールを理解していても気持ちが伴わないこともある。なるべくたくさん子どもが鬼ごっこの楽しさを味わうことができるように、ルールを守ることができない子どもの気持ちも受けとめ、仲立ちをする。</li> <li>・年長児に刺激を受けて、かけっこやリレーをやりたくなったときには、教師も仲間入りしたり、ほかの子どもを誘ったりして一緒に楽しむようにする。</li> <li>・祖父母への絵を描く際には、祖父母のことを思いながら描くことができるように声をかける。</li> <li>・祖父母への手紙をポストに投函しに行く前には、祖父母や郵便に関する絵本を読んだり、郵便の仕組みを知らせたりする。</li> </ul>
<p><b>気の合う友達との遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自身が一人一人の話をよく聞き、子ども達が伝える喜びや、お互いに聞く楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>・子ども達が、自分なりにイメージをふくらませている遊びを繰り返し楽しむことができるように、いろいろな素材を分類、整理しておく。数が少ない場合には、足したり、保護者に呼びかけて持って来てもらったりする。</li> <li>・走る、とぶ、投げる、引っ張るなど、いろいろな動きを楽しむことができるように、子ども達の様子を見ながら、お手玉やかご、綱、三角コーンなどを準備し、子ども達と場所をつくったり、一緒に遊びを楽しんだりする。</li> <li>・秋の小動物に、子ども達が心ゆくまでかかわることができるように、秋の虫が集まりそうな草を残したり、網やかごの用意をしたりしておく。</li> <li>・子ども達が、小動物に対して興味をもったことや、不思議に感じたことを調べていくことができるように、小動物の図鑑や絵本を手近なところに置いておく。</li> </ul>	<p><b>気の合う友達との遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを、言葉で伝えることができるように、それぞれの思いを引き出したり、仲立ちをしたりする。そして、気の合う友達との遊びがより楽しくなっていくように援助する。</li> <li>・友達のいざこざに、自分なりの思いでかかわり、原因を聞いてみたり、自分なりの意見を言ってみたりする姿を大事にしていく。</li> <li>・気の合う友達と一緒に、好きな遊びをする楽しさを味わうことができるように、教師も子ども達と一緒に楽しさを共感し、いろいろな考え方があることに気づいたり、遊び方が広がったりする機会となるようにする。</li> <li>・秋の虫を捕まえる楽しみや期待がふくらんでいくように、教師も一緒に捕まえたり、探したり、すみかを考えたりする。</li> <li>・夏から秋にかけての身近な昆虫に関心をもったり、興味をもってかかわったりできるようにする。</li> <li>・園庭の草花や種に気づき、採ったり遊びに使ったりできるようにする。子どもの発見に共感し、遊びながら色や形や数などに興味をもつことができるような声がけをする。</li> </ul>

## 10月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 体を十分に動かして自分の力を発揮する

- ・自分の力を発揮して遊びに取り組む様子が多くなり、綱引きやリレーなどでは加勢を頼まれたり、頼りにされたりすることで、新しい遊びの仲間入りもしていき、運動会への興味や関心がふくらむ。
- ・自分のまわりで楽しそうな声や音楽が聞こえると、興味をもって近寄って行き、自分もやってみようとする。
- ・思いきり体を動かした後は、ゆっくりできる場所や遊びを見つけて、自分なりのリズムで過ごす。
- ・いろいろなことで1番になりたいという気持ちが強くなり、かけっこではラインの内側を走ることもある。

## 自分の思いを出して

- ・気の合う友達とのかかわりが深くなり、自分の思いや考えをわかってもらえるようになることがうれしい。
- ・運動会後から、今までによく遊んでいた友達以外にも目が向くようになり、友達関係が広がってくる。
- ・ダンボールや紙や空き箱など、身近な物を使って遊びに必要な物を作る。
- ・身近な秋の自然物を集めたり、ままごとの材料にしたりして、遊びに使う。
- ・戸外が心地よいこともあり、砂場や赤土山でじっくりと遊ぶ姿が見られる。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○気の合う友達と一緒に、体を十分に動かして自分の力を発揮する楽しさを味わう。

■友達や先生と一緒に思いきり走る、とぶ、投げる、引っ張るなど、いろいろな動きをする。

■音楽に合わせてたり、先生の動きを真似たりしてリズムカルに踊ることを楽しむ。

○気の合う友達に、自分の思いをはっきり出して遊ぶことを楽しむ。

■自分なりの力を発揮して、好きな遊びに取り組む。

■自分が感じたり、思ったりしたことを、友達にわかるように伝えようとする。

■友達とごっここのイメージをもって、遊びに必要な物を作る。

■木の実や花、落ち葉など、たくさん集めたり、使って遊んだりする。

■心地よい風を感じながら、土だんごやごちそうを作る。



環境構成	援助のポイント
<p><b>体を十分に動かして遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に、思いきり体を動かす楽しさを味わうことができるように、事前にかけてっこや鬼ごっこ、リレーなどができるラインを引いたり教師も遊びの一員になったりする。</li> <li>・子ども達が、運動会の種目に意欲的に取り組むことができるように、子ども達の興味や関心や好きな動きを取り入れた内容にしていく。その際、走る、とぶ、投げる、引っ張るなどの基本的な動きを取り入れるように配慮する。</li> <li>・それぞれの子どもの様子を見ながら、ゆったりとした時間もつくるようにして、1日の生活のリズムを組み立てていく。</li> <li>・教師も音楽に合わせて、表情豊かに楽しく踊ったり、動きにメリハリをつけたりして、子ども達が踊ってみたいくなるような雰囲気づくりを心がける。</li> </ul> <p><b>自分の思いを出すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とごっこのイメージをもってひとつの物を作ったり、遊んだりするために、必要な材料、用具を準備しておき、子ども達の要求に応じて出す。</li> <li>・ドングリ、ピラカンサやケヤキの実など、秋の自然物を子ども達と一緒に探したり、子ども達の目につきやすい場所に準備したりし、遊びに取り入れていくことができるようにしておく。</li> <li>・運動の経験を広げるものとして個人持ちの縄跳びを運動会のお土産とし、運動会後しばらく家庭で楽しんだ後、園に持ってきてもらう。</li> </ul>	<p><b>体を十分に動かして遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会が楽しみになるように、運動会ごっこに誘ったり、体を動かす遊びに教師も積極的に参加したり、子ども達と一緒に年長組の仲間に入れてもらったりする。そして、それぞれの子どもが、思いきり楽しんでいるところや、自分の力を発揮している姿を大切に認めていく。</li> <li>・友達と一緒に、体を動かす楽しさを味わうことができるように、自分がやりたいと思ったことに気の合う友達を誘ったり、クラスの友達に声をかけたりする姿を認め、受けとめていく。</li> <li>・勝ち負けを意識するようになり、かけっこや綱引きなどで負けて悔しいと思っているときには、教師もその気持ちに十分に共感するとともに、子どもが自分の頑張りに気づく言葉がけをする。場合によっては、子ども達と一緒に勝つことができる方法を考えるなどして、次への意欲につなげていく。</li> <li>・かけっこで1番になれなくて泣き出したり、いざこざが起きたりしたときは、その気持ちを受けとめながら、少しずつ気持ちを取り戻していくことができるように援助する。</li> <li>・ルール違反や友達にいやな思いをさせてまで何とか1番になろうとしたときには、1番になりたかった気持ちは認めていきながら、ルールや相手の思いに気づかせ、他の方法がないかを一緒に考えていく。</li> <li>・ダンスなどの表現活動で、子ども達が音楽に合わせて表現できるよう、これまでに見られなかった動きや生き生きとした表情、やってみようとする姿などが見られたときには、その様子を大切に、自信につながっていくように声をかけたり、認めたりしていく。</li> <li>・他のクラスと積極的に交流し、刺激をもらい合うことができるようにする。</li> <li>・運動会後の余韻を味わうなかで、年長児のリレーや競技を取り入れた遊びに参加し、刺激を受けたり、優しくしてもらったりするなど、異年齢のかかわりを大切にする。</li> </ul> <p><b>自分の思いを出すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの場づくりで、こうしたいという思いを実現していくことができるように、子ども達が行き詰まっている場面を捉えて、一緒に考えたり、アイデアを出したりしていく。</li> <li>・自分の思いを言葉で表現しづらい子ども達が、相手に気持ちを伝える心地よさを味わうことができるように、教師も一緒に言葉を探していく。</li> <li>・自然とのかかわりで感じたことを、自分なりに表現していくことができるように、季節の変わり目で子ども達が発見したことや、自然物を使ったアイデアなどを、大事に受けとめていく。</li> <li>・子ども達の知っていることや、工夫していることを引き出しながら、一緒に土だんご作りを楽しむ。</li> </ul>

## 11月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>気の合う友達と興味のあることに存分に取り組む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでに繰り返し遊んできたことの楽しさがわかり、友達が始めた遊びに自分も意欲をもって取り組もうとする姿が見られる。</li> <li>・ 自分の興味をもった遊びに、連日取り組む。折り紙など、自分で作ることができるようになった子どもは、たくさん作ったり、気の合う友達や先生に教えたりすることを楽しみにする。</li> <li>・ 何かをするためにその準備から取りかかったり、一度作った物を作り変えたりなど、遊びの手順がわかり始める。</li> <li>・ 高下駄、縄跳び、鉄棒など、少し難しそうなことでも、友達や先生の真似をしたり、教えてもらったりして自分もやってみようとする。</li> <li>・ スケートで築山の上から滑り降りるときに、滑り始める場所を変えたり、立ったり座ったりして、自分の力を試しながら遊ぶ。</li> <li>・ 遊びのイメージが次の日まで続くようになってきて、一旦場所や道具を片付けても、次の日、また同じように遊びを始めたり、前日一緒に遊んでいた友達を誘ったりする。</li> <li>・ 意見を出し合ってルールを決めていきながら、鬼ごっこなどの遊びを楽しむ姿が見られ始める。</li> <li>・ サッカーごっこでは、一生懸命ボールを追いかけたり、蹴ったりすることを楽しむ。ルールの理解は難しく、自分が蹴ろうとしているボールを相手に取られると、怒り出すこともある。</li> <li>・ 前庭で縄跳びをへびのようにくねらせてみたり、ピンと張ってジャンプしたりして、縄に触れることを楽しむ。</li> <li>・ 前跳びができる子どもはそれがうれしくて、先生に「見て」と言ったり友達と数を数えながら跳んだりする姿が見られる。一方で跳ぶタイミングや縄の扱いが難しい子どもは、先生の援助がないと遊びが続かない。</li> </ul>	<p>○気の合う友達と興味のあることに存分に取り組んで、遊ぶことを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■遊びに必要な物や場、簡単なルールなどを、友達とアイデアを出し合ってつくる。</li> <li>■スケーターや高下駄、フラフープなどでバランスを取りながら、いろいろな動きを楽しむ。</li> <li>■何度も繰り返しやってみたことで、気づいたことや自信がついたことを友達や先生に伝える。</li> <li>■気の合う友達や先生と一緒に、鬼ごっこなどで自分の力を出しきって遊ぶ楽しさを味わう。</li> </ul>
<p><b>秋の自然にかかわって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋の自然物に自分からかかわり、色や形、においや手触り、音などを楽しんだり、遊びに生かしていったりする。</li> <li>・ 身近にいる小動物を見つけたとき、自分の知っていることなどを話したり、伝え合ったりする。</li> </ul>	<p>○秋の自然にかかわって、遊ぶことを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■木の実や花、落ち葉など秋の自然物にかかわり、工夫しながら遊ぶ。</li> <li>■空の美しさや周囲の変化に気づく。</li> </ul>

環境構成	援助のポイント
<p>気の合う友達と興味のあることに存分に取り組むために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな遊びで、バランス感覚を楽しんでいくことができるように、高下駄やフラフープなどの遊具を保育室の近くに用意しておく。ときには、教師が遊んで見せたり、手伝ったりなどしていく。</li> <li>・スケーターなどで、自分なりの乗り方でいろいろ試すことができるように、走るコースをつくったり、他の遊びの妨げにならないように、状況に応じて場をつくり変えたりしていく。</li> <li>・鬼ごっこなど、大勢が参加する遊びでは、お互いが把握できる広さなどを、教師も一緒に遊びながら子ども達と考えていく。</li> <li>・個人持ちの縄跳びは、子ども達が使いたい時にいつでも使うことができるよう、テラス前にかけて置いておく。</li> <li>・興味をもった製作遊びに繰り返し取り組んだり、得意になったことを友達に教えたりすることを楽しむことができるように、何度も試すことができる時間や、繰り返し遊ぶことができるだけの材料を用意しておく。</li> </ul> 	<p>気の合う友達と興味のあることに存分に取り組むために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と遊びを楽しんでいくために、それぞれの子どもの思いを生かし、教師も仲間になって、遊びに必要な物や場、簡単なルールを一緒に考えていく。</li> <li>・いろいろな考えをうまく遊びに取り入れているところなど、その子どもなりのよさに気づいていくことができるように、子ども達のアイデアを認めたり、受けとめたりしていく。</li> <li>・次の日への遊びの期待がふくらむように、片付け方を子ども達と一緒に考え、その日の遊びの区切りをつけていくことができる援助を心がける。</li> <li>・スケーターなどで、子ども達が自分の力を十分発揮して遊ぶ様子は認めていくが、危険な遊び方をしているときは、子ども達と一緒に、安全な使い方を考えていく。築山から滑り降りるときはまわりの安全を自分で確かめてから滑るように、声をかけていく。</li> <li>・子ども達が、いろいろな遊びに意欲をもって取り組んだり、自信をもったりしていくことができるように、その子どもなりにやろうとしている姿を認め、その子どもの動き方や工夫していることなどを、他の子ども達にも伝えていく。</li> <li>・友達とかかわり合って遊ぶ楽しさを味わったり、一人一人の子どもが、存分に遊びを進めたりしていくことができるように、教師も仲間になって一緒に遊び、楽しさを共感していく。</li> <li>・子ども達が繰り返し取り組む中でわかったり、発見したりしたことや物の性質や特徴などを、まず教師が興味をもって受けとめ、共感したり、教えてもらったりすることで、まわりの友達に伝えたいという気持ちをもつことができるようにする。</li> <li>・個人持ちの縄跳びをつなげて電車にするなど、ごっこ遊びの道具の1つにする姿も受けとめ、安全面に気をつける。</li> <li>・縄跳びで大波小波や郵便屋さんなどの遊びや、一人縄跳びに誘い、縄を跳ぶ楽しさを味わうことができるようにしていく。</li> </ul>
<p>秋の自然にかかわるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち葉や木の実などが、ままごとやごっこ遊び、製作などの遊びのイメージを広げていくことのできる素材となるように、秋の自然物を分類して準備しておく。</li> <li>・季節の変化に気づくことができるように、子ども達と一緒に、教師も落ち葉、木の実、空、雲、風など、秋の自然に目を向けていくようにする。</li> <li>・子ども用の熊手を用意し、イチョウの落ち葉を集めたり、寝転んだり、ごっこ遊びの材料に使ったりして、自然物でたっぷり遊ぶ楽しさを味わうことができるようにする。</li> </ul>	<p>秋の自然にかかわるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の自然物を遊びのなかに生かしていくことができるように、子ども達が、木の実や落ち葉などを使って遊んでいる姿を認めたり、教師もアイデアを出したりして、一緒に自然とのかかわりを楽しむ。</li> <li>・自然の美しさや感触、音、においを体いっぱい味わうことができるように、風が強い日にイチョウの落ち葉が舞い散る様子を、子どもと一緒に驚きをもって楽しんだり、イチョウの落ち葉をかけ合ったりする。</li> </ul>

## 12月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

**気の合う友達と興味のあることに存分に取り組む**

- ・いろいろなアイデアを遊びに取り入れるなど、遊びの内容が豊かになり、工夫して遊びを楽しむようになる。
- ・自分が作りたいと思うものを実現したくて、いろいろな道具を使ってみたいという要求が出てくる。
- ・それぞれが自分の遊びを楽しみ、自分の気持ちを言葉などではっきりと表現したり、友達の思いを聞いたりして遊ぶことが楽しくなる。
- ・遊びのグループの人数が増えてきて、7、8人のグループで遊ぶことが多くなる。
- ・友達同士の思いのぶつかり合いで、いざこざになっていることを、まわりの子ども達が先生に言いにくる姿が多く見られる。
- ・クラスや学年で一緒に歌うことを楽しむ。みんなの前でそれを聞いてもらいたい姿も見られる。
- ・〇〇ごっこという共通のイメージはあるが、どのようにしたいかということには違いがあるので、遊びの準備や進め方は、それぞれの子ども達によって異なる。

**冬の自然や生活に関心をもつ**

- ・“サンタクロースに会える”など、いつもとは違った雰囲気のお楽しみ会を楽しみにする。
- ・息の白さに気づき、息を出しながら何度も確かめたり、窓や手に息を吹きかけたり、友達同士で見せ合ったりする。
- ・戸外で遊んだり気温が高くなったりして暑く感じるときには、自分で衣服を脱いで調節したり、汗を拭いたりする。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○気の合う友達と興味のあることに存分に取り組んで、遊ぶことを楽しむ。

■自分を発揮して遊びながら、友達の思いや考えも取り入れる。

■音楽に合わせて、いろいろな音を楽しんだり、みんなで心を合わせて歌ったりする。

■自分のイメージを出したり、友達の思いを聞いたりしながら、お店屋さんなどのごっこ遊びをする。

○冬の自然や生活に関心をもつ。

■戸外で体を十分に動かして遊ぶ。

■秋から冬の変化で気づいたことを言うてみる。

■自分で衣服の調節をしようとする。

■餅つきの雰囲気を楽しむ。

■餅つきを通して、いろいろな人とかかわる。

環境構成	援助のポイント
<p>気の合う友達と興味のあることに存分に取り組んで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が好んでいる曲や、リズムが楽しい曲などを1曲ずつCDに入れておき、自分達でいつでもかけて遊ぶことができるよう、CDプレーヤーや楽器などを、扱いやすい場所に用意しておく。</li> </ul> 	<p>気の合う友達と興味のあることに存分に取り組んで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな友達とのかかわりで、自分の思いや考えをしっかりとったり、思いを共有できたりするように、それぞれの子どもの思いを大事に生かしていく。</li> <li>みんなで一緒に心を合わせて歌う心地よさを味わうことができるように、友達の声やピアノの音に心を傾けていくことができる言葉がけなどをしていく。</li> <li>子ども達が自分なりに表現したいお店屋さんなどのごっこ遊びでは、教師も遊びの一員となり、それぞれのよさやアイデアを認め、楽しさを共感したり、他の子どもに知らせたりして、遊びのつなぎ役をしていく。</li> <li>子ども達から出てきたアイデアを受けとめていきながら、教師も子ども達と一緒に楽しみ、友達と心を合わせて、みんなの前で表現する楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>子ども達が何をしたいと思っているのかをしっかりと捉え、アイデアを出したり、遊びの仲間になったりして、連日続いている遊びが新鮮で楽しい遊びになるようにする。</li> <li>友達ができるようになったことに刺激を受けて、自分も繰り返し楽しんだり、自分なりの目的に合わせて工夫したりしようとする姿を認めて、意欲や自信をもつことができるようにする。</li> <li>他の学年とのかかわりが多くなってきているので、遊びの様子など、教師間でよく連絡を取り合い、いろいろな視点から、その子どもの育ちを捉えていくことができるようにする。</li> </ul>
<p>冬の自然や生活に関心をもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肌寒い日も、元気いっぱい楽しく遊ぶことができるように、教師も積極的に戸外に出て、鬼ごっこやかけっこなど体を動かして遊ぶ。</li> <li>登園時は寒くて、子ども達がじっとしがちになるので、保育室に暖房を入れ、遊びが始めやすい環境をつくっておく。そして、気温の具合を見計らって暖房の調節を行う。</li> <li>寒くなると、上着を着て登園する子どもが多くなるので、上着掛けを準備しておく。また、自分で片付けることができるように、上着を掛けるためのひもを保護者につけてもらう。</li> </ul>	<p>冬の自然や生活に関心をもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝寒いと、日中暖かくなってきても、たくさん着たまま遊んでいる子どももいるので、気温に合わせて教師も衣服の調節をしながら、子ども達に声をかける。</li> <li>風邪などで体調を崩す子どもが多いので、この時期は特に、登園時に健康状態を確かめる。</li> <li>手洗いやうがいなどの大切さを伝えていく。</li> <li>餅つきを手伝ってくれる保護者や特別支援学校の生徒などいろいろな人との出会いの中で、教師が積極的にあいさつをしたり言葉を交わしたりして、人とかかわりを学ぶことができるような場となるようにする。</li> <li>餅つきでは、子ども達と一緒に楽しさを共感したり、興味や驚きをもって見たりすることができるように、教師自身が気づいたことを子ども達に伝えていく。</li> </ul>

## 1月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 気の合う友達と工夫して

- ・友達とイメージがつながってきて、お互いに自分のしたいことを出し合い、ひとつの遊びを自分達なりに工夫して進めていこうとする。
- ・年長児や先生から聞いたことを自分なりに取り入れて、遊びのなかで、お互いにルールを出し合う姿が見られる。
- ・寒くても、気の合う友達と一緒に、思いきりボールを追いかけてサッカーをしたり、鬼ごっこで逃げまわったりして、外で元気に遊ぶ。
- ・友達と一緒にカルタやすごろく、トランプなどの正月遊びをじっくりと楽しむ。経験に個人差があるので、遊び方やルールの違いでいざこざになることもある。
- ・いろいろなこまを回して、色の変化を楽しんだり、友達や先生とどちらが長く回るか競ったり、糸引きゴマを逆さにして回してみたりして遊ぶ。

## 冬の自然現象を楽しむ

- ・寒い朝は、体がこわばってなかなか遊び出すことができないことがある。
- ・外に置いてあった容器やタイヤの中で氷を見つけて、たくさん集めたり、割ったりすることを楽しむ。
- ・自分でも氷を作りたくなって、容器などに水を入れてみる。そして、すぐにできたかどうかを見に行く。
- ・戸外のいろいろな所に霜がついているのを見つけてかき集めたり、袋にとっておいたりしたい。
- ・集めた氷や霜をどこに置いておくとよいかまでは考えが及ばない。



タイヤの中の氷集め

## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○気の合う友達と工夫しながら遊ぶ楽しさを味わう。

■友達との間で自分のしたいことを出し合って遊ぶ。

■ルールをつくって遊ぶ。

■戸外で元気に遊ぶ。

■正月遊びをする。

○冬の自然現象を楽しむ。

■氷や霜、霜柱を見たり触ったり集めたりして楽しむ。

■友達や先生と一緒に氷を作ってみる。

環境構成	援助のポイント
<p><b>気の合う友達と工夫するために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正月遊びやゲームなど、家庭でも経験が少なくなってきたので、園でも準備しておき、子ども達が自由に遊ぶことができるようにしておく。</li> <li>・気の合う友達同士で、遊びが充実できるように、素材や用具は、決まった所に置いておき、自分達で選ぶことができるようにしておく。</li> <li>・自分達のイメージで遊びをつくっていく姿を認め、子ども達の思いを聞き出し、一緒に遊びの場を整えたり、変えたりして、自分達で遊びを進めていくことができるようにする。</li> <li>・寒さに負けず、戸外で元気に遊ぶことができるように、ボールや凧揚げ、助け鬼の白線などを用意し、遊びに誘ったり、年長組の仲間に入れてもらったりする。</li> <li>・劇遊びやオペレッタなど子ども達が何度も繰り返し楽しむことができるように、オペレッタのCDやお面、そのお話の絵本などを取り出しやすい場所にしておく。</li> </ul>	<p><b>気の合う友達と工夫するために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休みの生活の様子を、ゆったりとかかわりながら聞いたり、話し合ったりして、子ども達の興味や関心の所在を探っていく。</li> <li>・自分なりに工夫したり、繰り返し試したりする姿を認めたり、共感したりして、その子どもならではの楽しみがより深まるようにする。</li> <li>・カルタやすごろくなど、それぞれの遊び方で困ったり、思いが食い違ったりしている場合には、ヒントやアイデアを投げかけたり、状況に応じて、子ども達と一緒に相談しながら、遊びをつくっていく。</li> <li>・子ども達の体を動かしたい姿を捉えて、積極的に戸外に出て、サッカーや鬼ごっこなどに誘う。</li> <li>・体が温まったり、体をコントロールしたりする助け鬼や、転がしドッジ、マラソンごっこなどの戸外の遊びに積極的に誘っていく。その際、準備運動も取り入れるようにする。</li> <li>・友達とルールを考えたり、遊びをつくり変えたりする楽しさに共感し、一人一人が自分の力を出しきって遊ぶことができるように、その子どもなりのアイデアや思いを認め受けとめていく。</li> <li>・劇遊びやオペレッタをクラスのみinnで楽しむために、繰り返しのある絵本をいくつか読み聞かせ、みんなで何のお話にするか相談する。</li> <li>・劇遊びやオペレッタでは、教師が劇の登場人物になって仲間入りするなどし、楽しい雰囲気をつくっていく。子どものセリフやポーズを取り入れたり、お客さんから感想をもらったりして楽しい雰囲気づくりを大切にしていく。</li> </ul>
<p><b>冬の自然現象を楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・氷や霜、霜柱などができている場所は、できるだけ大事に残しておき、子ども達と一緒に探しに出かける。タイヤなどに水を入れて氷ができてやすいようにしておく。</li> <li>・氷作りを通して、不思議さを感じたり、いろいろ試すことができたりするように、様々な大きさや形、素材の容器を用意しておく。</li> <li>・寒くて登園がなくなるが、保育室を暖かくしておくことで、ほっとできるようにしておく。</li> </ul>	<p><b>冬の自然現象を楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が、氷や霜、霜柱を見つけた時の喜びや感動に共感し、自然の不思議さ、楽しさなどを味わうことができるようにする。</li> <li>・氷はどこに置いておくことができるかを、子ども達と一緒に考えたり、いろいろな葉や実、花を入れたりして氷遊びを楽しんでいく。</li> <li>・冬の自然現象や変化に、教師が積極的に目を向けていくようにし、その子どもなりの感じ方を大切に受けとめていく。</li> </ul>

## 2月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 自分の思いを出し合う

- ・園生活に慣れ、クラスの友達とも気心が知れ、クラスの雰囲気  
が楽しくなったり、友達それぞれの得意なことやよさに気づき、  
頼ったり手伝ってもらったりする。
- ・友達と相談したり意見を聞いたりして、自分達なりに解決しよ  
うとする姿が見られ始める。
- ・友達同士でイメージがつながってくるので、ルールが明確であ  
る遊びなどでは、クラスの友達だけではなく、いろいろな友達  
とも遊ぶようになる。
- ・助け鬼では、友達同士でより遊びが楽しくなるようなルールを  
考え出す姿も見られる。
- ・助け鬼などの遊びを通して大勢の遊びのなかでお互いのよさを  
感じとったり、話題が一致したりして、新しい仲間関係ができ  
てくる。
- ・いろいろな友達とのぶつかりのなかで、お互いに理解しようと  
する姿が見られる。

## 気持ちがひとつになる喜びを味わって

- ・先生と一緒に繰り返しのあるような絵本や紙芝居の登場人物に  
なりきって、気の合う友達と何度も劇遊びやオペレッタを楽し  
む。
- ・劇遊びやオペレッタなど、ひとつの遊びをみんなでしようとす  
る姿が見られる。
- ・年長組に招待してもらえるお別れパーティーを楽しみにしてい  
る。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○自分の思いを出し合いながら、友  
達と一緒にイメージをふくらませて  
遊ぶ楽しさを味わう。

■自分なりのイメージを出しながら、  
試したり、遊びを楽しくするため  
の工夫をしたりする。

■友達の思いに耳を傾け、自分達な  
りに考えていこうとする。

○クラスみんなや先生と一緒に表  
現を楽しむなかで、**気持ちがひとつ  
になる喜びを味わう。**

■劇遊びやオペレッタを十分に楽し  
む。

■クラスみんなや先生と一緒に、  
歌ったり、踊ったり、セリフを言っ  
たりすることを楽しむ。

■友達と表現しながら、やりとりす  
ることを楽しむ。



環境構成	援助のポイント
<p>お互いに自分の思いを出し合うために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師自身も集団遊びに参加したり、子ども達を誘ったりして、思いきり遊びを楽しみ、力いっぱい遊ぶ楽しさや、いろいろな友達と遊ぶ楽しさを味わうことができるようにする。</li> </ul> 	<p>お互いに自分の思いを出し合うために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達がサッカーや鬼ごっこなどに喜んで参加しているところを捉え、それぞれの子どもが自分なりの力を発揮しているところや、よさを認め、自信につなげていくことができるようにする。</li> <li>大勢の子ども達で遊ぶようになると、遊び始めや終わりが子ども達によって異なり、使った用具がそのままになりがちになるので、片付け方を子ども達と一緒に考え、次もまた、遊びが始めやすくなるような、やり方や場所を工夫していく。</li> <li>友達それぞれの得意なことやよさに気づき、仲間関係を広げていくことができるよう、子どもがしてほしいことを教師がするのではなく「〇ちゃんが上手にできるよ」などと知らせたり、一緒に頼みに行ったりする。</li> <li>自分達でいざこざを解決しようとしているときには、なりゆきを見守りながら、お互いにどんな思いがあるのかを探り、必要に応じてそれをわかりやすく伝えたり、よく考えていることを認めたりして、相手の思いを大事にしようとする気持ちが育つように援助していく。</li> </ul>
<p>気持ちがひとつになる喜びを味わうために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>劇遊びやオペレッタの題材は、繰り返しのあるものを選び、どの子どもも安心して参加できるようにする。</li> <li>劇遊びやオペレッタでは、子ども達が何人でも同じ役をしたり、いろいろな役を楽しむことができたりするように、お面などを多めに用意しておく。なお、参観日当日のお面は、自分で考えて作ることができるようにする。</li> <li>子ども達が劇遊びやオペレッタを進めていくことができるように、用途に合わせたいろいろなテープや紙・段ボール箱など道具や素材を分類して出しておく、自分で取り出すことができるようにしておく。</li> <li>子ども達から出たアイデアを認め、それを実現できるよう、相談しながら背景や小道具を作っていく。</li> <li>ヒイラギやイワシを保育室の戸口につけて、節分の雰囲気を感じることができるようにする。</li> <li>インフルエンザなどが流行する時期なので、手洗い、うがいについてこまめに声をかけるとともに、保育室の換気にも気をつけるなど、健康面に配慮していく。</li> </ul>	<p>気持ちがひとつになる喜びを味わうために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>劇遊びやオペレッタ、助け鬼など、集団で遊ぶ経験を通して、これまであまりかかわりのなかった友達と、心を合わせて楽しく遊んでいる場面を大事に捉え、子ども達がお互いに自分の考えを出したり、聞いたりすることができるようにかかわる。また、必要に応じて教師も仲間に入り、楽しさを共感する。</li> <li>劇ごっこやオペレッタでは、CDデッキを操作したり、お客さんになったりするなど、それぞれの楽しみ方を大事にしていく。</li> <li>伝統的な行事である節分を通して、自分の弱さを追い払う意味などがあることに気づかせる。</li> <li>園内にできている氷や霜柱を、子ども達と一緒に探しに行く。</li> <li>ウメの花やフキノトウなど、春の訪れが感じられるものを、子ども達と一緒に探してみる。</li> </ul>

## 3月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>クラスの中で自分なりの力を発揮して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスみんながしていることに関心が強くなり、今まで取りかかりにくかったことも、自分からやってみようとする。</li> <li>・自分のことだけでなく、まわりがよく見えるようになり、泣いている友達の思いを察して気遣ったり、友達を手伝ったりする姿がよく見られる。相手の思いをわかろうとし、自分達で友達の話の聞いたり、解決策を考えたりする姿が見られる。</li> <li>・友達がしていることや、自分が興味をもったことに進んで取り組んだり、友達と競い合ったりする姿がよく見られるようになる。</li> <li>・クラスみんなの前で、自分の思いや考えを言ったり、自分がしたいことを見てもらったり、聞いてもらったりしたいという気持ちが強くなる。</li> <li>・いざこざが多かった子どもも、相手の思いに合わせて遊びを進めていくことができることが多くなり、思いがけない子ども同士のかかわりが見られ、遊びを楽しむようになる。</li> <li>・ごっこ遊びをするときに準備ができていないうちから、早く他のクラスの友達を呼びに行きたい、見てもらいたいという気持ちが強く、お客さんを待たせることや、お客さんが楽しんでいのかどうかはおかまいなしである。</li> <li>・いろいろな場を自分達のイメージに合うように作って遊ぶ。</li> </ul> <p><b>年長組への進級に期待をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の会話の中に“〇〇組になる”という年長組への期待の様子が見られる。</li> <li>・お別れ遠足で年少組と手をつないで歩くことで、年下の子ども達をいたわり、優しく声をかける姿が見られる。</li> </ul> <p><b>春の訪れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草花や木の芽吹き、陽射しの暖かさ、チョウが飛び始めたことなどから春の訪れを感じる。</li> </ul>	<p>○クラスの中で自分なりの力を発揮して遊ぶ。</p> <p>■いろいろな友達のなかで、自分なりの力を出しきって遊ぶ。</p> <p>■友達と一緒に遊びが楽しくなりそうな物や場を準備して遊ぶ。</p> <p>■遊びが広がっていくうれしさや楽しさ、思いきり体を動かす心地よさなど、友達と思いを共感しながら遊ぶ。</p> <p>■クラスみんなの前で、思ったこと、考えたことなどを表現する。</p> <p>○年長組への進級に期待をもつ。</p> <p>■卒園児に感謝やお別れの気持ちを表す。</p> <p>■幼稚園で1番大きな学年になるということを、先生の話の聞いたり、年長組の生活を見たりして知る。</p> <p>○春の訪れを感じる。</p> <p>■陽射しの暖かさや草花の芽吹きを通して、春を感じる。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>自分なりの力を発揮して遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一緒に遊んでいる友達の刺激を受けやすく、一人が作り出すと、自分も作りたいという要求が次々と出てくるので、子ども達のイメージを確認しながら、それに見合った材料を提示したり、一緒に探したりしていく。</li> <li>自分の話を、みんなに聞いてもらえることが楽しくなっていくように、その雰囲気合った場をつくっていく。</li> <li>自分達で友達と相談しながら遊びを作っていくことができるように、場をあらかじめ準備しすぎない配慮をする。</li> </ul>	<p><b>自分なりの力を発揮して遊ぶために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごっこ遊びや砂、土遊びなどで、子ども達同士の遊びの目的をはっきりさせるために、子ども達が思い描いている遊びのイメージを確認していく。子ども達から要求があれば、遊びの一員に加わって、楽しさを共有する。</li> <li>自分の思いで行動することが多かった子どものなかに、これまでには見られなかった、いざこざの解決方法や、友達とのかかわり方が見られたときは、その子どもの育ちとしてしっかりと捉え、認め、励ましていく。</li> <li>みんなの前で、自分らしく表現することの楽しさを味わうことができるように、その子どもが友達に伝えたいと思っていることに共感したり、ときには手助けをしたりしながら、興味をもって聞く。</li> <li>それぞれの場面で、自分の力を発揮している姿を他の子ども達に知らせたり、相手の気持ちになって考えようとしている姿を、大事に受けとめたりして、子ども達のよさをつないでいく。</li> </ul>
<p><b>年長組への進級に期待をもつために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで年長児と一緒に遊んだことや、してもらったことを思い出すことができるようにし、今まで世話になった年長児に、感謝とお別れの気持ちを表す状況を作る。</li> <li>クラスの全員が5歳の誕生日を迎えることや、シール帳が最後のページになっていることなど、子ども達が気づいたことに共感し、年長組になることへの自覚につながるようにする。</li> </ul>	<p><b>年長組への進級に期待をもつために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が見つめてきた、様々な春の出会いを大切に受けとめ、他の子どもにも知らせていく。</li> <li>卒園式の練習の様子を見たり、年長棟に遊びに行ったり年長児の遊びに入れてもらったりして、年長児への憧れの思いが自然と湧き、年長組へ進級することへの期待がふくらむようにする。</li> <li>1年間自分達が使ってきた保育室やその周辺などを掃除し、新しい年中児を迎えることができるようにする。</li> <li>お別れ遠足で、年下の子どもや年長児と手をつなぐことで、年長児になることへの期待をもったり、年長児への憧れの気持ちをもったりする機会となるようにする。</li> </ul>
<p><b>春の訪れを感じるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が見つめてきた春の自然物は、保育室の目につきやすい場所に置いたり、飾ったりして、いつでも自由に見たり、触れたりすることができるようにしておく。</li> </ul>	<p><b>春の訪れを感じるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寒い間いなかった虫や、木の芽吹き、つぼみのふくらみなどを見つけたり、陽射しの暖かさを感じたりなど、春を感じる気持ちを子ども達と共感していきながら、教師も気づいたことを知らせていく。</li> <li>前庭の花壇のレンガやシートの下にいるダンゴムシやナメクジを見つける楽しさに共感しつつ、見つけた後、レンガやシートを戻すことで生き物の住み家を大切にすることになることに気づかせる。</li> <li>ひな飾りを見たり、ひなまつりの歌を歌ったり、ひな飾りを作ったりして、ひなまつりに親しむようにする。</li> </ul>

## 4月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>自分達で生活をつくっていく</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長組になったことを自覚し、はりきっている子どもが多い。</li> <li>・年少、年中組のときにしてもらったことを思い出し、小さい組の子ども達を世話（片付け、弁当の用意など）したり、お客さんに呼んだりしたい。</li> <li>・積極的に世話をする子ども達もいれば、声をかけることができないなど、どう接していいかわからない子ども達もいる。</li> <li>・部屋の引き出しや棚の中を自分達で調べてみて、新しい遊具や用具の試し活動を繰り返し行う。年長組になって初めて使うことができる物などを見つけると、うれしくて使ってみたい。</li> <li>・気の合う友達と園内のあちらこちらを探索したり、年中組の時の部屋をのぞきに行ったりする。お気に入りの場所に行き、他の人の遊びを眺めたりする子どももいる。</li> <li>・担任が替わった場合は、興味をもってどんだんかかわってくる子どももいるが、中には少し距離をおいて、様子を見ている子どももいる。</li> </ul>	<p>○年長組になった喜びや自覚をもち、<b>自分達で生活をつくっていかうとする。</b></p> <p>■自分達の遊びや生活に必要な道具や場所を考える。</p> <p>■自分のロッカーや靴箱に自分の印をつける。</p> <p>■思いやりの気持ちをもって、小さい組の子ども達の世話をする。</p>
<p><b>好きな遊びを楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合う友達と誘い合って一緒に年中組のときから親しんでいる遊びを始める。</li> <li>・昨年度の年長児がしていた遊びを真似て遊ぶ。</li> </ul>	<p>○気の合う友達や先生とかかわりながら、<b>好きな遊びを楽しむ。</b></p> <p>■先生や友達と一緒に今まで親しんできた遊びをする。</p> <p>■自分達で楽しい遊びを見つける。</p> <p>■憧れの年長組にしかない遊具や用具で試して遊ぶ。</p>
<p><b>身近な春の自然に親しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭にいるダンゴムシやチョウなどを、自分なりに工夫して捕まえる。</li> <li>・パンジーやクローバーなど、園庭の植物を集めて遊びに使ったり、色水を作ったりする。</li> <li>・野菜の苗やアサガオなどに、はりきって水やりをする。</li> <li>・捕まえた生き物を図鑑と見比べて、名前や飼い方を知る。</li> </ul>	<p>○<b>身近な春の自然に親しみ、興味や関心をもつ。</b></p> <p>■春の小動物をじっくり見たり、工夫して捕まえたり、飼ったりする。</p> <p>■植物の成長を楽しみにしながら、苗植えや種まき、水やりなどをする。</p> <p>■身近な春の草花を遊びに取り入れる。</p> <p>■春の小動物や草花を図鑑で調べる。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>自分達で生活をつくるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の手で片付けができるように、ラベルを貼ったり、出し入れがしやすい配置にしたりしておく。また、扱いやすい大きさのほうきを用意したり、片付けの時間を長めに確保したりする。</li> <li>かばんや靴の置き場所を自分達で決めたり、自分なりに工夫しながら印を作って貼ったりできるように材料を用意しておく。また、過ごしやすい環境になるように、遊具や用具の置き場所などを子ども達と相談しながら決めていく。</li> <li>みんなが集まる時には、クラスみんなで気持ちを合わせて楽しむことができるような雰囲気づくりをする。</li> </ul> <p><b>好きな遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製作の経験を豊かにするために、紙だけでなく、ビニールやプラスチックなどにも描くことができる油性のマーカーを用意しておく。</li> <li>気の合う友達と十分に遊ぶことができる時間や場を保障する。</li> <li>素材や紙類は子ども達の要望に応えることができるように準備しておくが、子どもが自分達で片付けやすいように量を調節したり、まだ使うことのできる物を置く場所を設けたりする。</li> </ul> <p><b>身近な春の自然に親しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春の自然物に興味に向くような絵本や、植物、小動物などを子ども達の目が届きやすいような場所に置いておく。</li> <li>生き物を捕まえた、という意欲があるので、捕まえる楽しさを味わうことができるように、網やかごを用意しておく。</li> <li>個人持ちの紐付きポケット図鑑を配付し、いつでも調べることができるようにする。また戸外に出るときに目に触れるように帽子掛けに掛けておく。</li> <li>捕まえた小動物を飼育できる用具を準備しておく。</li> <li>野菜やアサガオなどを育てる際には、成長を楽しむように一人一人のプレートを用意する。</li> <li>自分達で水やりなどの世話がしやすいように、鉢の近くにジョウロを数個用意しておく。</li> <li>園庭の様々な草花に関心をもって、遊びに生かすことができるように、花を飾る花瓶やカップなどを用意しておく。また、花壇に植えているパンジーなどで色水を作ることができるようにビニール袋や容器などを用意しておく。</li> </ul>	<p><b>自分達で生活をつくるために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>片付けの仕方がわかるように、何をどこへ片付けたらよいかなどの片付けのポイントを子ども達と考えながら進めていく。また、自分達で片付けができたことを実感できるように、一人一人のがんばった姿を認めたり、その行為の大切さを言葉にして伝えたりする。</li> <li>小さい組の子ども達の世話をする機会をもち、思いやりの気持ちをもったり、年長としての喜びや自覚を味わったりできるようにする。その際、年少、年中組の担任と連絡を取り合う。</li> <li>一緒に遊ぶなかでいたわりや思いやりの心が育つように、小さい組の子ども達の自然なかかわりを大切にする。</li> <li>小さい組の世話や手伝いなどの場でその子ども達のかかわり方が見られたときは、そのよさを認め、自信につながることができるように心がける。</li> </ul> <p><b>好きな遊びを楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>信頼関係を築くために、子ども達の様子を見ながら、一緒に遊ぶ機会を意識的にもつ。</li> <li>年長組ならではの遊具（スカリーノ、ストアハウス、大型積み木など）の楽しさに共感したり、子どものイメージに応じてアイデアを出したりする。また、危険が伴うものについては安全な使い方を知らせる。</li> </ul> <p><b>身近な春の自然に親しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思いやりをもって生き物とかかわることができるように、どのようにかかるとよいか一緒に考えるようにする。また、捕まえた小動物は保育室でも一緒に飼い、育て方などを考えていく。</li> <li>子ども達が見つけた自然物（自分達の蒔いた種の発芽など）や図鑑で調べたことについての発見や驚きを、共感的に受けとめ、他の子どもにも知らせていく。</li> <li>小動物や植物の世話などが継続的に行えるように、教師がモデルとなり、水やりや水替え、エサやりなどを率先して行ったり、声かけをしたりする。</li> <li>教師からも春の自然物を使った遊びを提案する。春の図鑑や虫めがねなどの活用の仕方も、教師がモデルとなって、使い方を子ども達に示していく。その際、花壇に咲いている花は、どのような状態になったら遊びに使うことができるかを思い出すことができるようにする。</li> </ul>

## 5月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>思いや考えを出し合いながら</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のしたいことを相手に伝えながら、遊びを進めている。小さい組の子どもをお客さんに呼ぶこともあるが、自分達のペースで遊ぶことが多い。</li> <li>・鬼ごっこなどのルールのある遊びを好んで楽しむ。一人一人のルールへの思いや、楽しいと思う要素が違うので、長く続かないことがある。</li> <li>・砂場では、友達と声をかけ合って大きな山を作ったり、勢いよく水を流して川を作ったりするなど、遊びがダイナミックになる。大きなバケツや長い板などを友達と協力して運ぶ。</li> </ul>	<p>○気の合う友達と<b>思いや考えを出し合いながら</b>、遊びを進めていく楽しさを味わう。</p> <p>■友達と<b>アイデアを出し合いながら</b>、遊びの場や必要な道具を作ったり、ルールを決めたりして遊ぶ。</p> <p>■自分の<b>思いや考えを言葉や文字で表現する</b>。</p>
<p><b>自分が興味をもったことに</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケーターやブランコなどで、自分の力を試しながら遊ぶ姿が見られる。</li> <li>・土だんごを作るのにちょうどよい硬さの泥やさら粉がある場所、園庭に咲く植物（オオバコやカラスノエンドウなど）の場所をよく知っていて、遊びにぴったりのものを使って遊ぶ。</li> <li>・チョウや幼虫などの小動物を工夫して捕まえる。小さい組の子どもに捕まえてあげる。</li> <li>・アサガオや夏野菜などの育てている植物、アオムシなど飼っている小動物の成長や変化に気づいて喜んだり、友達や先生に知らせたりする。</li> </ul>	<p>○自分が<b>興味をもったことに積極的に取り組もうとする</b>。</p> <p>■自分達が見つけた<b>楽しい遊びにじっくり取り組む</b>。</p> <p>■<b>わからないことも、自分で調べたり、友達や先生に聞いたりして、自分なりにやってみる</b>。</p> <p>■<b>友達がしていることを真似して、自分もしようとする</b>。</p> <p>■<b>春の小動物をじっくり見たり、工夫して捕まえたり、飼ったりする</b>。</p>
<p><b>健康で安全な生活の仕方を知って</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長組であるという意識から、自分達の片付けと一緒に、園全体の遊具を進んで片付ける様子も見られる。</li> <li>・様々な健診や避難訓練など、教師の説明でその意図を理解し、真剣に取り組む。</li> </ul>	<p>○<b>健康で安全な生活の仕方を知ろうとする</b>。</p> <p>■<b>健診などを通して、自分の体に関心をもつ</b>。</p> <p>■<b>健康や安全、食育に関する絵本や紙芝居を、興味をもって見る</b>。</p> <p>■<b>避難訓練が自分の命を守るためのものであることを理解して行動する</b>。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>思いや考えを出し合いながら</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室は、教師が遊びのコーナーをすっかり準備しておくのではなく、いろいろに使うことのできる空間や道具を用意しておき、子ども達がアイデアを出し合い、楽しんで遊びの場をつくることのできるようにする。</li> <li>・砂場で使う大きいバケツや長い板など、子ども達が1人では持ち運ぶことができない道具を準備しておき、友達と力を合わせる喜びを味わうことのできるようにする。</li> </ul> <p><b>自分が興味をもったことに</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を思いきり動かして遊びたい子どもの気持ちが満たされるように、教師も積極的に戸外で遊ぶ。</li> <li>・土を深く掘ったり、幼虫探しをしたりすることのできるように、子ども用の鉄のスcoopを用意しておき、幼虫探しを存分に楽しむことができるようにする。教師も大人用のスcoopを用意しておき、掘りにくそうなところを手伝ったり、固い所をほぐしたりして、幼虫を見つける達成感などを味わうことのできるように援助する。</li> <li>・ブランコやスケーターなどでの遊びがダイナミックになってくるので、安全な遊び方を子ども達と確認したり、遊具の不具合などが無いかを事前に点検したりしておく。</li> <li>・友達がしていることが見えるような机の配置にしたり、向き合って活動する場、他の遊びが見えるような場の工夫をしたりする。</li> <li>・小動物を捕まえたり飼育したりする楽しさを十分に味わうことができるように、網や飼育ケースを用意しておく。その際、いろいろな角度から観察ができるように、タライや透明のケースを準備するなど、飼育ケースの形状に配慮する。</li> <li>・子ども達が生き物の名前や飼育方法などをすぐ調べることができるように、飼育方法などが詳しく載っている図鑑を用意しておく。</li> </ul> <p><b>健康で安全な生活の仕方を知るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康や食育に関する絵本などを目につきやすい場所に置いておく。</li> </ul>	<p><b>思いや考えを出し合いながら</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールのある遊びは、自分達なりのルールをつくりながら、繰り返し楽しむことができるように、子ども達の意見を取り入れて遊びに生かしたり、遊びを進めやすいヒントを提供したりする。</li> <li>・子どもが思いや考えを出し合って、遊びを進める楽しさにつながるように、遊びに必要なものに気づかせたり、アイデアを引き出したりする。</li> <li>・子ども達の遊びや生活の様子を、降園の時間などにみんなに知らせ、自分の遊びに取り入れることができるようにしたり、友達のよさに気づくことができるようにしたりする。</li> <li>・遊びのなかでいざこざが生じたときには、それぞれの思いを伝え合う機会をつくっていき、どうすればよいのか、子ども達と一緒に考えたり、必要に応じてアドバイスをしたりする。</li> <li>・文字に親しんだり、便利さに気づいたりできるように、必要に応じて看板やメニューなどがあるとよいことに気づかせたりする。</li> </ul> <p><b>自分が興味をもったことに</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物とかかわる際に、子どもなりの気づきや発見を大切に、好奇心や探究心を育む。一方で、生き物の生態に合っていない関わり方をしているときは正しい関わり方に気づかせ、命あるものとして大切にできるようにする。</li> <li>・興味のある小動物や植物を、絵に描いたり、動きを真似したりする遊びを取り入れることで、より詳しく観察したり、絵や動きで表現する楽しさを味わうことができるようにする。</li> </ul>  <p><b>健康で安全な生活の仕方を知るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな健診を通して、健康に興味をもつことができるように、事前に話をしたり、健康に関する本や紙芝居を読み聞かせたりする。</li> <li>・避難訓練では避難の仕方を理解し、すばやく行動できるように、わかりやすく説明する。</li> </ul>

## 6月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい(○)・内容(■)
<p><b>自分達で遊びを進めていく楽しさを味わう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びのイメージが明確になると、遊ぶ場所や遊びに必要な道具を友達と相談して決めたり、役割分担をしながらごっこ遊びを進めたりしようとする。</li> <li>・遊びのなかで、自分なりの主張やイメージの違いから、いざこざが起きる。自分の気持ちをお互いに言い合えるような場面も出てきているが、自分中心な言い方になってしまったり、自分の気持ちを言葉でうまく表現できなかつたりする子どももいる。</li> <li>・友達と声をかけ合って、ドミノを長く並べたり、スカリーノや大型積み木を組み合わせたたりして、協力して遊ぶ姿が見られる。</li> <li>・お店屋さんごっこやダンスショーなどに、小さい組の子ども達を招待することを喜ぶ。準備ができていなくても呼びに行くなど、小さい組の子ども達の気持ちよりも自分達の気持ちの方を優先する。</li> </ul>	<p>○気の合う友達と思いや考えを出し合いながら、自分達で遊びを進めていく楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自分の思いや考えを言葉で表現したり、相手の話も聞こうとしたりする。</li> <li>■友達とアイデアを出し合いながら、遊びの場や必要な道具を作って遊ぶ。</li> <li>■音楽にのって友達と一緒に心を合わせて歌ったり踊ったりする。</li> <li>■小さい組の子ども達が喜ぶことを自分達なりに考えて、お店屋さんやダンスショーをしたりする。</li> <li>■砂場遊びで水の流れる方向をいろいろと試したり、水鉄砲を使った遊びで飛ばし方を工夫したりなど、水の様々な性質を楽しみながら友達と一緒に遊ぶ。</li> </ul>
<p><b>自分(達)なりのめあてをもって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水鉄砲で遊ぶことが楽しい。2種類の噴射口を使って試しながら遊んだり、いろいろな物に水をかけたり、何かをねらったりして遊ぶことが楽しい様子が見られる。的になるような物があると、友達と息を合わせてねらったりして遊んだり、友達とかけ合いっこをしたりすることも楽しい。</li> <li>・プールで泳ぎを見てほしい子どももいれば、水に抵抗がある子どももいる。</li> <li>・プール掃除の際に捕まえたヤゴなどを保育室で飼い、図鑑などで調べてみる。</li> </ul>	<p>○自分(達)なりのめあてをもって、遊びに取り組もうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■必要な材料を選びながら、自分なりのイメージで、描いたり作ったりする。</li> <li>■冷たい水の感触を楽しんだり、水の中での体の動き方を試したりしながら、水遊びをする。</li> <li>■初夏の小動物をじっくり見たり、工夫して捕まえたり、飼ったりする。</li> <li>■水鉄砲で、的を倒すために噴射口を変えたり、友達とタイミングを合わせて的をねらったりするなど試したり工夫したりする。</li> </ul>
<p><b>自分達で生活に取り組もうとする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨天のため外で遊ぶことができない日が多くなると、室内に自分達の遊びの拠点をつくる姿も見られる。また、体を動かしたい気持ちも強く、室内では落ち着かない様子の子も達もいる。</li> </ul>	<p>○年長組の生活に慣れ、自分達で生活に取り組もうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■雨の日やプールでの安全な遊び方を考える。</li> <li>■自分の健康に興味をもつ。</li> <li>■水着の着替えや濡れた後の始末を自分で行う。</li> </ul>



環境構成	援助のポイント
<p><b>自分達で遊びを進めていく楽しさを味わうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・晴れた日には、戸外で思い切り遊ぶことができるように教師が積極的に戸外へ誘う。雨の日にも遊戯室などを利用して、体を思い切り動かすことのできる場所を用意する。また、その時々の子どもの体を動かしたい気持ちに合うような遊具（巧技台やマットなど）を用意する。</li> <li>・自分達でダンスを楽しむことができるように楽器やCDデッキを用意する。その際、子ども達にも操作できるように、シールで目印をつけたり、CDを編集したりしておく。</li> <li>・お店屋さんごっこで使いそうな材料や道具を使いやすい所に置き、必要な物を子ども達で選んで使うことができるように準備しておく。また、子ども達が家庭からも持ち寄り、自分達で必要なものを準備する経験につなげる。</li> <li>・お店屋さんのイメージを具体的にしていくと、ふだん使わない素材を使うことがある。品物をたくさん作るために素材の量がふえることもあり、製作スペースが物で散乱することがあるので、子ども達に気づかせたり、必要に応じて教師が環境を整えたりする。</li> </ul>	<p><b>自分達で遊びを進めていく楽しさを味わうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達同士で認め合ったり、教え合ったりする姿を大切に捉え、その様子をみんなに伝えていく。その際、人前で発言することは子どもの自信につながることもあるので、子ども自身がみんなの前で話す機会も増やしていく。</li> <li>・子ども達が自分の気持ちや思いを言葉で伝え合えるように、わかりやすい話し方をしている子どもの様子を知らせたり、教師がわかりやすい言葉をそえて伝えたりする。</li> <li>・遊びのなかでいざこざが生じたときには、その原因を順序よく考えていくことができるように手助けする。また、個々の問題に対して、自分なりの考えをもつ機会とするために、当人だけの問題にせず、多くの子どもの意見も聞いていく。</li> <li>・歌や踊りなどを思いきり楽しむことができるように、教師もみんなと一緒に踊ったり、覚えやすい踊り方を考えたりする。</li> <li>・お店屋さんやダンスショーなどで小さい組を呼んだ時に、どうしたら小さい組の子ども達が喜ぶか考えることができるようにする。</li> </ul>
<p><b>自分(達)なりのめあてをもって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びのなかで、子ども達がどんな材料を必要としているのかを把握し、いつでも出すことができるように準備しておく。どのような材料が必要なのか、子ども達がアイデアを出しやすいように、一緒に考えてみる。</li> <li>・スカリーノやカプラ、ドミノなど友達と一緒に取り組むことができる遊びを室内に用意しておく。</li> <li>・子ども達が色水を作ることを楽しんだり、それを使ってごっこ遊びを楽しんだりできるように、テラスにテーブルやボウル、すりこ木などを準備しておく。</li> <li>・水の感触を楽しんだり、水を使った試し活動ができたりするように、水鉄砲を個人持ちで用意し、安全に楽しむことができる遊び方も一緒に考えていく。また、カップやペットボトルなど、的になる物も用意しておく。</li> <li>・水鉄砲を使った的当て遊びなどを通して、水の量などに意図的に気づくことができるような道具（ペットボトル、じょうごなど）や場を準備する。</li> <li>・プール遊びの前に、楽しみながら体の各部を動かす体操ができるように、子どもの好きなダンスや体操のCDを用意する。</li> </ul>	<p><b>自分(達)なりのめあてをもって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プールの中で安全に遊びを楽しむことができるようにするにはどうしたらよいか子ども達と話し合っておく。また、水は楽しいだけでなく、恐ろしいものだという認識をもつことができるような話もする。</li> <li>・プールでの水への親しみ方は子どもによって様々なので、一人一人の水へのかかわり方を把握し、個人差に応じた援助をする。</li> <li>・飼っている小動物をじっくり観察する機会が増えるので、それらの生態に合った飼い方についてアドバイスしたり、調べることを促したりする。</li> <li>・栽培しているもの（アサガオやキュウリなど）の変化や成長も一緒に楽しんでいく。</li> <li>・子どもの生活に身近なものや好きなものを通して、数量や言葉などに興味をもつことができるようにする。</li> <li>・クラス全体で集まった際に、言葉に関する絵本を取り入れたり、さかさ言葉遊び、しりとり遊びをしたりして言葉に対する感覚を豊かにする。</li> </ul>
<p><b>自分達で生活に取り組もうとするために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨や水遊びのため、廊下やテラスが濡れることが多い。そのため、子どもが使いやすい大きさの雑巾や大きめの足拭きマットなどを用意しておく。</li> <li>・梅雨時なので、雨がおよぼす環境の変化の様子、小動物や植物などを見ることができるよう、小雨の日には子どもを誘って一緒に園庭に行く。</li> </ul>	<p><b>自分達で生活に取り組もうとするために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お泊まり幼稚園を楽しみにすることができるように、また、見通しをもって取り組むことができるように、どこで、どんなことをするのか、おおまかな流れを事前に話しておく。</li> <li>・遊びに夢中になると、脱水症状になりやすいので、水分や休息をとるよう声がけをする。</li> <li>・6歳臼歯が生えだす時期でもあるので、歯磨き教室などの機会に歯磨きの大切さを知らせていく。</li> </ul>

## 7月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>気の合う友達とイメージを共有しながら</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中でしぜんと役割分担をするようになる。</li> <li>・自分ができるようになったことや得意なことを、友達や先生に見てほしい、認めてほしいという行動がよく見られる。</li> <li>・どちらかという他の子どもの言うことに引っ張られがちだった子どもが、自分の意見を言ったり、自分のしたい行動をとったりするようになる。</li> <li>・気の合う友達と遊んでいても、他のグループの遊びが楽しそうだと一緒に遊び始めるなど、友達関係や力の関係に変化が見られ始める。</li> <li>・次にすることは何かを少しずつ意識しながら、自分から動くことができるようになってくる。</li> <li>・プールの中で浮かんだり、くるくる回ったり、イルカのように体をくねらせたり等、いろいろな泳ぎ方をしてみる。また、泳ぐことよりも、水の中でのごっこ遊びを楽しんでいる子どももいる。</li> <li>・プールでは友達の刺激を受けて、いろいろなことなど（フラフープを使ってイルカのジャンプをする、潜るなど）に挑戦してみる。</li> <li>・お泊まり幼稚園で、いつもとは違った園のリズムが新鮮に感じられて楽しく、また、家族と離れて過ごしたことが誇らしくもある。</li> </ul>	<p>○気の合う友達とイメージを共有しながら、遊びや生活に取り組もうとする。</p> <p>■友達の意見を聞いたり、自分の意見を言ったりすることを通して、イメージを共有して遊ぶ。</p> <p>■学年みんなでプールの中を走って渦巻きを作ったり、水鉄砲で風船落としをしたりする。</p> <p>■プールで友達からの刺激を受けながら、勢いよく潜ったり、フラフープを使ったイルカジャンプをするなど、ダイナミックな水とのかかわり方をする。</p> <p>■昨年の経験や先生の話から、夏の行事をある程度予測し、楽しみにしたり、準備をしたりする。</p> <p>■お泊まり幼稚園で、いつもと違った生活を楽しむ。</p> <p>■七夕の由来を知ったり、作ったりする。</p> <p>■夏のお楽しみ会で踊る盆踊りを楽しみにし、当日に使ううちわの飾りつけをしたり、みんなで踊ることを楽しんだり、小さい組に踊りを教えに行ったりする。</p>
<p><b>夏の自然に親しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミやトンボなどの小動物を捕まえることが楽しい。</li> <li>・自分達が育てているアサガオの花が咲いたり、キュウリ・トマト・ナスなどが大きくなったりしていくのを楽しみにする。</li> <li>・自分の植えた野菜の成長ぶりや、葉や茎、収穫した野菜の手触り、大きさ、形に驚く。</li> <li>・暑いにもかかわらずプールでダイナミックに遊んだり、戸外で遊ぼうとしたりする。そのために体調を崩す子どももいる。</li> </ul>	<p>○夏の自然に親しみ、身近な動植物への興味や関心を広げる。</p> <p>■園内にいる小動物を、その習性などを考えて、工夫して捕まえたり、飼育したりする。</p> <p>■自分達で植えた野菜の収穫を通して、大きさ、重さ、手触り、においなどを体感する。</p> <p>■収穫物などの数を数えてみる。</p>

環境構成	援助のポイント
<p>気の合う友達とイメージを共有しながら取り組むために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水の中でダイナミックな体の動きに挑戦できるように、フラフープくぐりに誘い、子どもの希望する高さにフラフープを持ったり、潜りっこに挑戦したくなるように水に沈むおもちゃを用意したりする。また、分類して片付けができるように、コンテナやかごを用意しておく。</li> <li>・プールの前後に、友達とゆっくりできる遊びを用意しておく。</li> <li>・七夕の飾りをいろいろ作ることができるように、数種類の色や素材の紙や、短冊、こより、笹を用意する。また、ちょうちんや天の川の切り紙など少し難しい製作にもみんなで挑戦する機会ももつ。その際、七夕にまつわる絵本を用意するなどし、七夕の由来がわかるようにする。</li> <li>・自分で見ながら作ることができるように、七夕飾りの作り方の説明図や本も用意しておく。</li> <li>・お泊まり幼稚園で、自分達で生活しやすいように、自分の持ち物の置き場所や、食べる場所、寝る場所などをみんなで力を合わせて用意したり自分達で表示を貼ったりする。</li> <li>・夏のお楽しみ会の楽しい様子などを思い浮かべながら、盆踊り用のうちわの飾りつけができるように、色紙で折る花火やセミなど夏らしい題材を提案する。</li> <li>・2学期に気持ちよく遊び始めることができるように、砂場の道具や、保育室の遊具などを一緒にきれいにする。</li> </ul>	<p>気の合う友達とイメージを共有しながら取り組むために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プールで鬼遊びなどのゲームをしたり、みんなで協力して水鉄砲で風船を落としたり、水の中を一緒に走って渦巻きを作ったりして集団ならではの楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>・泳ぐことができるようになりたい気持ちが強い子どもも多いので、その気持ちに添うような手助けもする。また、その子どもなりの“泳ぐことができた”という満足感を大切に、プールでの遊びがより楽しくなるようにする。</li> <li>・友達のしていることが刺激になって、いろいろなことを自分なりにやってみることがよくあるので、友達同士で教え合う姿を大切にする。運動面では無理なことをしようとして危険なことがないように気をつける。</li> <li>・お泊まり幼稚園が自分達のものになるように、場の用意や片付けも自分達でできる範囲で援助をする。</li> <li>・お泊まり幼稚園では、一人一人の子どもの生活に広がりができたり、自信につながっていったりする経験となるような言葉がけやかかわりを考えていく。他の教職員とも連絡を取り合って、子どもの安全や健康に留意する。また、他の教職員と接することで、子どもの今まで気づかなかった姿などが見られることもあるので、情報を交換し合うようにする。</li> <li>・年長児としての自信につながるように、小さい組の子ども達に盆踊りを教えたり見せたりする機会をつくる。</li> </ul>
<p>夏の自然に親しむために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜や実を集める際に、一緒に数を数えたりしてしぜんと数に興味に向くようにする。</li> <li>・セミ採りがおもしろい時期なので、楽しむことができるように、網を多めに用意しておく。また、高い木の上にいるセミを採ることができるためにはどのようにすればよいか子ども達と一緒に考える。</li> <li>・暑い中で動きまわることが多いので、降園時には、ゆっくり絵本や紙芝居を見たり、ゆったりと話したり手遊びをしたりして、休息もとることができるようにする。</li> <li>・子ども達が涼しく快適に遊ぶことができるように、窓を開けて風通しをよくしたり、扇風機やエアコンをつけたりする。</li> </ul>	<p>夏の自然に親しむために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育てていた植物の花が咲いたり、実がなったりし始めるので、今までの世話により植物が成長したことを子ども達に気づかせ、成長を共に喜ぶ。</li> <li>・自分達で植えた野菜のにおい、手触りなどを体感することができるように、畑に積極的に誘ったり、そのときの子どもの驚きやつぶやきを丁寧に受けとめ、共感したりする。</li> <li>・友達のしている色水作りを知らせていき、きれいな色の出し方や花の色の違いを試したりなど、いろいろな試し活動ができるようにする。また、咲いた後の花を使うとよいことを思い出させ、花が咲く前と後との花の形の違いも意識できるようにする。</li> <li>・捕まえた後の小動物の扱いは、種類によってどうしたらよいか、一緒に考えたり調べたりする。</li> </ul>

## 9月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 気の合う友達と一緒に、知恵や力を出し合って

- ・空き箱や空き容器を組み合わせ、特徴を生かして遊びに必要な物を作る。友達と一緒に、本物らしくなるようにアイデアを出し合ったり作ったりする。また、大型積み木や段ボールなどを使って、ひとつの物を作りあげることができるようになってくる。
- ・クラスで一緒に歌ったり、踊ったりすることが、楽しくなってくる。
- ・チーム対抗など、大勢のグループで競い合うことを楽しむ。勝敗が気になり、勝つために一生懸命取り組む子どももいるが、勝敗を気にせず、自分のペースで楽しむ子どももいる。
- ・オシロイバナの種をつぶして白い粉を遊びに使ったり、アサガオの種を友達と一緒に集めて数えたりする。
- ・実習生の行う保育から、担任とは違った刺激を受け、生活や遊びが広がることもある。

## 自分なりのめあてをもって

- ・涼しくなってくると、思いきり体を動かして遊ぶようになる。運動場に引いてあるラインを見て、去年の運動会を思い出し、かけっこやリレーを自分達でしようとする。
- ・園庭にいるトンボやバッタ、コオロギなどを工夫して捕まえる。捕まえた虫が心地よく過ごすことができるように、観察ケースに葉や枝などを入れたりもする。
- ・自分のやりたいことだけでなく、友達のしていることへの関心も大きくなり、手伝いや協力などが自然に行うことができるようになってくる。
- ・祖父母参観日で、祖父母が来てくれることを楽しみにし、祖父母のことを話題にする。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○気の合う友達と一緒に、力や知恵を出し合って遊ぶ楽しさを味わう。

■友達と一緒に、心や力を合わせて思いきり体を動かして遊ぶ。

■友達と相談して遊びに合う場をつくったり、場に合わせた格好や動きをしたりして、ごっこ遊びを進める。

■クラスのみんなどで心を合わせて踊ることを楽しむ。

■自然物の種を遊びに使ったり、数を数えたりする。

○自分なりのめあてをもって、取り組もうとする。

■友達から刺激を受けて、真似をしたり教えてもらったりして取り組む。

■友達と誘い合って、工夫しながら虫捕りをする。

■祖父母参観日に来てほしいという思いを、手紙や絵などで表現する。

■祖父母を喜ばせるために、歌を歌ったり、おもてなしをしたりする。

環境構成	援助のポイント
<p><b>気の合う友達と一緒に、知恵や力を出し合っ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み明けは、安心してゆったりと遊ぶことができる場と時間を保障し、その子どもなりに生活のリズムを取り戻すことができるようにしていく。</li> <li>・リレーのバトンや綱引き用の綱なども用意し、友達と心を合わせて運動に取り組むことができるような場もつくる。</li> <li>・自分達で工夫して、基地となる場所を作りたい様子が見られるので、大型積み木や大型の段ボールなどで実現できるようにする。大がかりになる分、危険なこともあるので、補強するためのガムテープを用意したり、安定しているかどうかを確かめさせたりして、安全に気をつけて遊ぶことができるようにする。</li> <li>・クラスみんなで心を合わせて踊る楽しさを味わうことができるように、子ども達が興味をもっているよさこい踊りなどを提案する。</li> <li>・オシロイバナやアサガオは、子どもが満足いくまで種を採り、集めることを楽しむことができるように、種ができるまで育てる。種ができたら、数に興味をもち利用しようとする気持ちを育てるために、一緒に数を数えるようにする。</li> <li>・水に触るのが気持ちよく、身につけている衣服も少ないこの季節に、水を生かした製作ができるように、マーブルリングや紙染めなどの用具を準備しておく。</li> </ul>	<p><b>気の合う友達と一緒に知恵や力を出し合っ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リレーでは、バトンを渡したり、思いきり走ったりすることを楽しんでいるので、ルールなどにこだわらず、子どもなりの遊び方を見守り、個々に応じて援助する。</li> <li>・おとなしい子どもに対して、自分の意見を通そうとする仲間関係が見られることもあるので、様子をよく見るようにする。いやなことをされた時に、自分で「やめて」と言えるように援助するとともに、お互いが相手の気持ちに気づいていくことができるようにする。</li> </ul>
<p><b>自分なりのめあてをもって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹馬、高下駄、鉄棒、フラフープ、一輪車、縄跳びなど、自分なりのねらいをもって繰り返し取り組むことができるような環境（目標となる印を立てる、高さを変える、坂を作るなど）を用意する。</li> <li>・製作的な遊びに興味が高まり、本物らしく作りたくなるので、子どものイメージに合うような本を用意したり、イメージのわきやすい空き箱や容器、材料を整理して置いたり、自分で扱うことのできる用具（段ボールカッター、リサイクルバサミなど）を用意する。</li> <li>・祖父母参観日の前には、子どもがその子どもなりの思いで案内状を作ることができるように、祖父母のことを思い出すことができるような言葉をかける。できた案内状に糊式切手を貼り、自分でポストに投函できるような機会をつくる。また、参観日当日には、自然な交流や祖父母から教えてもらう経験ができるように、伝承遊び（カルタ・お手玉・竹トンボなど）を保育室に用意しておく。</li> <li>・祖父母参観日で経験する三つ編みで作る縄跳びが、自分なりのめあてにつながるように、また、祖父母参観日を楽しみにできるように、三つ編みにチャレンジできる環境をつくっておく。</li> </ul>	<p><b>自分なりのめあてをもって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が難しいことに取り組み、できた達成感を味わったり、自信をもったり、もっとやってみたいという意欲につながったりするようにしたい。そこで、教師は子どもを応援したり、必要に応じて力を貸したり、励ましたりする。</li> <li>・祖父母の話をしたり、祖父母に関する絵本や歌を歌ったりするなど、いろいろな提案やきっかけを作って、祖父母が来てくれることが楽しみになるようにしていく。</li> <li>・祖父母への手紙を投函する際に、どのようにして手紙が届くかについて話すなどし、郵便の仕組みについて興味をもつことができるようにする。</li> </ul>

## 10月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>自分の力を精いっぱい出して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サッカー、鬼ごっこ、縄跳び、竹馬、一輪車など、思いきり体を動かしたり、バランスを取りながら遊んだりして、自分の力を精いっぱい出すことが楽しい。</li> <li>・ ひとつのことができるようになると、それが自信や意欲になって、別のことにも挑戦してみる。今まであまり運動的な遊びに参加しなかった子どもも、やってみようという気持ちをもつようになる。初めてのことにも挑戦してみる子どもも多いが、やりたいがしばらく様子を見ている子どももいる。</li> <li>・ かけっこやリレー、綱引き、玉入れなど、運動会ごっこを楽しむ。楽しんでいううちに、勝ちたい気持ちがだんだん強くなり、勝つためにはどうしたらよいか考える姿がある。</li> </ul>	<p>○自分の力を精いっぱい出して遊ぶことを楽しむ。</p> <p>■思いきり走ったり、跳んだり、投げたりするなかで、自分の力を精いっぱい発揮する楽しさや充実感を味わう。</p> <p>■自分の体をうまくコントロールして遊ぶことを楽しむ。</p>
<p><b>共通の目的に向かって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リレーでは、だんだんとチーム意識が高まり、自分のグループが負けると悔しがったり、泣いたりする子どももいる。</li> <li>・ 運動会のダンスでは、クラスや学年で息を合わせてかけ声をかけたり、ポーズを決めたり、鳴子を鳴らしたりすることが楽しくなる。</li> <li>・ 仲間関係が広がって、今まで自分の意見が通ることが多かった子どもが、他の子に反発されたり、たしなめられたりすることもある。</li> <li>・ これまで控えめだった子ども達が、教師を介して自分の思いを友達に伝えようとする姿が見られる。</li> <li>・ 友達の意見に耳を傾けたり、友達と考えを出し合ったりしながら遊ぶ楽しさがより大きくなり、積極的に友達と協力しようとする姿が多く見られる。</li> </ul>	<p>○友達と考えを出し合い、共通の目的に向かって、心を合わせて遊ぶことを楽しむ。</p> <p>■チームの意識をもって、友達と声をかけ合ったり、応援したりする。</p> <p>■ダンスでリズムや曲のイメージに合わせて表現したり、みんなで心を合わせてかけ声をかけたり、鳴子を鳴らしたりする。</p> <p>■「～をしよう」というめあてに向かって友達やクラスのみんなで考えを出し合い、工夫したり試したりする。</p>
<p><b>自分達で園生活をつくっていかうとするために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当番活動をはりきってする。園内の掃除や、落し物を他のクラスに届けに行くなど、園全体のことに意欲的になる。</li> <li>・ ほうきやちりとりを使い方がうまくなり、掃除は自分達でできるようになる。</li> <li>・ 「このことが終わったら、次はこのことがある」「今日はここまで、この続きは明日にしよう」というように、時間や時刻の感覚がしっかりしてきて、遊びや生活に見通しをもつことができるようになる。</li> <li>・ 異年齢の子ども達とのかかわりや当番活動、運動会の競技の手伝いなどを通して、誰かのために自分の力を発揮することに誇りや喜びを感じる。</li> </ul>	<p>○自分達で園生活をつくっていかうとする。</p> <p>■運動会の競技の手伝いや当番活動などを進んで行う。</p> <p>■人の話をよく聞き、相手の思いを知ろうとする。</p> <p>■自分がやりたいことに対して時間的な見通しをもつ。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>自分の力を精いっぱい出すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋になって心地よい気候になるので、積極的に戸外に誘い、戸外の気持ちよさを味わうことができるようにする。</li> <li>・今まであまり運動的な遊びを好まなかった子どもも、いろいろなことに挑戦したり、力を試したりしたい気持ちが見られるので、目につきやすい場所に、やってみたくなるような環境（一輪車、高下駄、竹馬、鉄棒、縄跳びなど）を整えておく。また、子どもの様子を見ながら、少し難しいそうだけれどもやってみたくなるような環境につくりかえていく。</li> <li>・いろいろな種類の運動ができるように、運動場を広くあけておく。また、年長棟の前庭に巧技台などを使って障害物競争のようなコースを作っておき、子ども達がいつでも自分の力を試したり、挑戦したりして遊ぶことができる環境をつくっておく。</li> <li>・競技を見る他の学年の子ども達や、大勢のお客さんも、見て楽しむことができるような工夫や配置、時間配分を考える。</li> <li>・運動的な遊びと静的な遊びの両方ができるように、製作遊びなどができる材料や場も用意しておく。</li> </ul> <p><b>共通の目的に向かうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の雰囲気を楽しみながら、体を思いきり動かすことができるように、玉入れや綱引き、リレーなどができる用意をする。そして、クラス対抗でしてみたり、小さい組の子ども達も誘ったりしていくことで、園全体の運動会の雰囲気づくりにもつなげていく。</li> <li>・運動会が終わった後も、運動会で行った競技やダンスを友達同士再現して楽しむことができるように、用具などをすぐに取り出すことができるようにしておく。</li> </ul> <p><b>自分達で園生活をつくっていかうとするために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番活動では、どのグループにどのような仕事が任されているのか、グループに誰がいるのかなどがわかる表示を作り、保育室に掲示しておく。</li> </ul>	<p><b>自分の力を精いっぱい出すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで運動的な遊びをあまり好まなかった子どもを、高下駄、一輪車や竹馬などに積極的に誘い、教師も一緒になってやってみる。難しいところは少し手を貸すなどして、達成感を味わうことができるようにし、自分なりのめあてをもちながら取り組むことができるようにする。</li> <li>・運動会を通してどのようなことを育てたいのか、そのためにはどのような競技やダンスが好ましいのかを、子ども達の興味や好きな動き、運動の経験などから考えていく。</li> <li>・“勝ちたい”“できるようにしたい”と思うあまり、プレッシャーを感じる子どももいる。子どものできた場面だけを捉えるのではなく、挑戦しようとする姿や、実際に取り組んでいることを認めていくようにする。</li> <li>・勝ちたい気持ちが強いので、勝つために意欲的になったり、工夫や協力をしたりする気持ちも大事にしなが、行為そのものの楽しさも味わうことができるようにする。</li> <li>・保護者にも、運動会の目的などを知らせ、勝つことだけを期待せず、やり遂げる態度や、友達関係の育ちなど、さまざまな育ちがあることを伝える。</li> <li>・運動的な遊びでは、技能や能力の差がはっきり現れやすく、友達同士でも誰が速い、遅いなど、評価するようになるので、友達のがんばる姿など、よいところを見つけられるように、教師も進んでよいところを伝えていく。</li> </ul> <p><b>共通の目的に向かうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リレーなどを仲間と一緒に、繰り返し行うなかで、仲間と力を合わせる快さ、仲間を応援する楽しさなどを味わうことができるように教師も精いっぱい応援したりチームを応援する姿を認めたりしていく。</li> <li>・リレーなど学年の中でチームに分かれ、互いに競い合う種目では、勝敗にこだわり、負けると悔しくなり、意欲を失うこともある。教師はその悔しさを受けとめ、次への意欲につながるように、どのようにすると勝つことができるかチームやクラスのみんなで考えていくことができるように投げかける。</li> <li>・仲間関係が変化し、今まで自分の思いが通っていた子どもでも思い通りにならない状況が見られることもある。その子どもなりに自分を振り返ったり、相手の思いを受けとめたとうえで自分の意見を言ってみたりするようになる機会だと捉え、友達関係や遊びの状況を把握し、援助していく。</li> </ul> <p><b>自分達で園生活をつくっていかうとするために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の競技の手伝いや当番活動などをはりきって行う姿を受けとめたり認めたりして、他の人の役に立つ喜びを味わったり、子ども達の自信や意欲につなげたりする。</li> <li>・相手が何を言おうとしているのか、相手の立場になって聞くことができるように仲立ちをし、お互いの思いが通じることで遊びがより楽しくなったり、友達とより親しくなったりする経験を重ねることができるようにする。</li> <li>・行事などで、遊びが途切れがちなきは、次に遊ぶ時間を楽しみに待つことができるように声をかけ、続きのできる片付け方を一緒に考える。</li> <li>・当番活動では、当番の仕方に慣れるまでは気の合った友達でグループを作るようにする。いろいろな友達よさに気づくことができるように、当番に慣れた頃に意図的にグループをつくり、友達のよいところを発見したり、自分のよいところを発揮したりできるようにする。</li> <li>・当番活動を通して、友達と声をかけ合ったり、息を合わせたりする経験ができるように、教師も必要に応じて声をかけていく。また、布巾の洗い方、しぼり方など適切な用具の扱い方などに気づくことができるようにする。</li> <li>・当番活動では、クラスのことだけでなく、園全体にかかわることも活動内容に取り入れていき、年長児としての自信につながっていくようにする。</li> </ul>

## 11月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>友達と共通の目的に向かって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ遊びに興味をもつことで仲間が集まったり、たくさんの友達を誘い合って遊びを始めたたりするなど、友達関係が広がったり、変化したりする。また、他のクラスとの交流が多くなる。</li> <li>・今までの遊びの経験をもとに、必要に応じて自分達でルールを決めたり変えたりして、遊びを楽しくしようとする。一方で、自己主張の強い子どもの思いで、ルールが決まっていることもある。</li> <li>・お客さんを呼ぶときは、楽しんでもらうために、事前に準備や工夫をするようになる。</li> <li>・お店屋さんの品物に合いそうな材料を家から持って来て、自分達のお店の材料にしたり、ほしがっている友達に届けたりする子どもの姿も見られる。</li> <li>・ちょっとしたことでいざこざになることもあるが、友達の立場に立って考えようとする姿も見られる。</li> <li>・友達同士で誘い合って、戸外で体を力いっぱい動かして遊ぶ。チーム対抗の遊びにも意欲を示し、人数や力加減を比べてみようとするところがある。</li> <li>・当番活動では、先生が声をかけなくても、自分達で、役割分担をしながらするようになってくる。</li> </ul>	<p>○友達と考えを出し合い、共通の目的に向かって、心を合わせて遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>■自分の考えを言ったり、友達の思いを聞いたりして、遊び方やルール、役割などを考えて遊ぶ。</p> <p>■友達と考えを出し合い、協力しながら遊びにふさわしい場や必要な物を作るなど、遊びをおもしろくする工夫をする。</p> <p>■相手の気持ちを考えて行動する。</p>
<p><b>自分なりのめあてや見通しをもって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作りたい物に合う材料を探し、工夫しながら作る。手先も器用になり、細かいところにまでこだわって、本物らしく作ろうとする。</li> <li>・ごっこ遊びなどで、必要なことを数字や図形、文字、図などを使って表すことを好む。</li> <li>・気持ちのよい戸外で、気に入った土を見つけたたり、友達と教え合ったりしながら、自分の作りたい土だんごを作る。できた土だんごをうれしそうに見せ合ったり、友達の土だんごを見て同じように作ろうとしたりする。</li> </ul>	<p>○自分なりのめあてや見通しをもって取り組もうとする。</p> <p>■自分が作りたいと思うものにぴったりの素材を選んで、より本物らしく作る。</p> <p>■遊びのなかで、今までの経験や、知っている文字や数字などを生かして遊ぶ。</p> <p>■少し難しいことでも、友達に教えてもらうなどして、繰り返し取り組む。</p>
<p><b>秋の身近な自然に親しみ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色づいた木の実や葉を、いろいろな所から集めてきて、興味をもってかかわり、それらの特徴を生かして、製作や遊びに取り入れる。</li> </ul>	<p>○秋の身近な自然に親しみ、遊びに生かす。</p> <p>■落ち葉や実など身近な秋の自然物の特徴を生かし、遊びに取り入れる。</p> <p>■紅葉や澄み切った青空の美しさなどを感じる。</p>



環境構成	援助のポイント
<p><b>友達と共通の目的に向かうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達のなかで、何が共通の目的になっているのかを把握し、必要に応じて遊びの方向が見つけられるような言葉がけや場の構成をしていく。</li> <li>友達を誘い合ってサッカーなどができるように、遊びに合う大きさや硬さのボールを用意し、必要に応じてラインを引いたりする。</li> <li>いろいろな遊びで、友達の刺激を受けて、やりたくなることも多いので、他の子ども達の目に触れやすい所で遊びが始められるようにしたり、みんなの集まるときに、遊びの様子などを紹介したりして、遊びが広がるようにする。</li> </ul>	<p><b>友達と共通の目的に向かうために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまであまり自分の考えを出すことがなかった子ども達の意見が出たときなどは、それを受けとめ、表現できるように援助する。</li> <li>子ども達の話し合いや相談を大切にし、力を合わせる楽しさや、仲間と一緒にやり遂げた喜びを味わうことができるような援助を心がける。</li> <li>教師もサッカーなどに仲間入りして一緒に遊びながら、それぞれが楽しんでいるところを認めたり、教師がパスをして友達とつながる楽しさを味わったりすることができるようにしていく。</li> <li>自分達でルールを工夫しながら遊ぶ姿がよく見られるが、1人の子どもにだけ都合のよいルールになっているときは、友達の気持ちも考えられるような言葉をかける。</li> </ul>
<p><b>自分なりのめあてや見通しをもつために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お店屋さんなどで、お客さんを呼ぶときなどに、子ども達が、お金や、券、看板などを用意することがある。そのような際に、必要に応じて、自分の描いた文字や記号、絵によって相手に伝わる楽しさを味わうことができるように、適当な材料を用意しておく。</li> <li>細かい絵や迷路などを描きたい子どもが多くなるので、細かい線を描くことができる鉛筆やペンを用意する。また、横に長く続けて描いたり、広く描いたりなどイメージに合う描き方のできる紙を用意し、続きを置いておくために描きかけの紙を入れる棚の場所を知らせる。</li> <li>数や文字などが理解できるようになり、トランプやカルタ、すごろくなどを楽しむことができるようになるので、興味のあるような題材のカルタなどを用意する。</li> <li>いろいろな場所の土で、特徴を生かして土だんご作りをしているので、その場の安全を確かめ、使いたい土を意識的に残しておく。</li> </ul>	<p><b>自分なりのめあてや見通しをもつために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが作った土だんごのなかで工夫しているところを認め、次にどんなだんごを作りたいのか、自分なりのめあてをもつことができるようにする。</li> <li>使った物や道具の片付けは、自分達で責任をもってできるように、子ども達と話し合いながら意識を高めていくことができるようにする。</li> </ul>
<p><b>秋の身近な自然に親しみ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木の実や落ち葉なども、遊びの中に取り入れ、生かしていくことができるように、集めることを心がけるとともに、園内にない自然物（大きさや種類の異なるドングリなど）は、家庭に呼びかけて持ってきてもらう。</li> <li>秋の自然物を使った遊び（ごちそう作り、葉を使った絵、葉脈のこすり出し、葉の形のブラッシングなど）を提案していき、それらの美しさ、不思議さに気づかせる。できた物を、みんなの見やすい場所に置いておくなどして、子どもの興味や関心がより広がるように援助する。</li> </ul>	<p><b>秋の身近な自然に親しみ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紅葉や落葉の様子などに関心をもった子どもに寄り添い、教師もその変化に心を寄せて、季節の移り変わりが感じられるようにする。</li> <li>自然物をどのように遊びに生かしているのかを捉え、そのよさやおもしろさに共感し、充実感や満足感を味わうことができるようにする。</li> </ul>

## 12月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 友達とクラスで共通のめあてをもって

- ・幼稚園という場をすっかり把握できるようになり、したい遊びによって、ぴったりの場所や物を見つけて遊ぶようになる。
- ・自分が今日しようとする遊びのイメージや思いを、はっきりとをもって登園するようになる。
- ・寒くて部屋の中にいたい子どももいるが、戸外に出て、サッカーや鬼ごっこ、スケーター等で元気に遊ぶ子どももいる。
- ・いろいろな友達と誘い合ってサッカー、中当て、ドッジボールなどをする。仲間関係も広がり、今まであまり仲間入りしなかった子どもも参加するようになる。
- ・冬のお楽しみ会などで、クラスや学年で気持ちをひとつにして意欲的に取り組もうとする。
- ・音楽に合わせて、友達と一緒に、楽器を鳴らしたり、歌ったりすることが楽しい。
- ・絵の少ない長い物語も好んで聞くようになる。
- ・遊びのなかで文字を書いたり、絵本やカルタの札を読むことができるようになったりする。

## 冬の自然や生活に関心をもつ

- ・餅つきで、はりきって餅つきの準備をしたり、自分の力を精いっぱい出して餅をついたりすることを楽しむ。
- ・バッタやコオロギなどの虫をあまり見かけなくなったり、たくさんの葉っぱが落ちてくるようになったり、息が白く見えるようになったりして、季節の移り変わりを感じる。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○友達やクラスで共通のめあてをもって、遊びや生活を進めていく。

■冬のお楽しみ会で披露する歌や合奏などを通して、クラスや学年で共通のめあてに向かって、心を合わせる楽しさを味わう。

■人の話をよく聞き、今どうすればよいか考えて行動しようとする。

■自分の思いを相手にわかるように表現したり、友達の考えを受け入れたりしながら、遊びを進めていく。

■友達とルールを考え合いながら、サッカーやドッジボールなどをして、戸外で体を十分に動かして遊ぶ。

■自分達の遊びや生活に必要な文字や記号を進んで使ってみる。

○冬の自然や生活に関心をもつ。

■冬の健康的な過ごし方を知る。

■秋から冬への自然の変化に関心をもつ。

■気温に応じて自分で衣服の調節をしようとする。

■園外保育（街路市、交通公園など）を通して、交通ルールや社会生活におけるルール、かかわり方を知る。

■餅つきや大掃除など、年末の行事に意欲的に取り組む。

環境構成	援助のポイント
<p><b>みんなで共通のめあてをもって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の様子を見たり思いを聞いたりして、遊びが充実しているかどうかを把握し、必要に応じて教師も一緒に考えたり、環境をつくったりする。自分達で遊びを進める充実感を味わうことができるように、環境や素材を教師が準備しすぎないように気をつける。</li> <li>行事に向けての活動が増えるので、子ども達が、1日の園生活を自分達なりに見通しをもって過ごすことができるように、予定を知らせるなどしておく。</li> <li>クラス全体で話し合う場を落ち着いた雰囲気にしたり、互いの顔が見合えるような配置で座らせたり、人の話をよく聞くことができるようにする。</li> <li>合奏では交互奏、分担奏を提案し、クラスや学年で挑戦することができるようにするとともに、自分達で扱いやすい楽器を用意したりする。</li> <li>文字への関心が高まり、読んだり書いたりする姿が増えてくるので、文字に親しむことのできる遊びとしてカルタや文字積み木などを置いておく。</li> </ul>	<p><b>みんなで共通のめあてをもって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラスや学年全体で集まることが多いので、共通のイメージやめあてをはっきりもつことができるようにし、自分が何をすればよいのか考えて、意欲的に取り組むことができるようにする。</li> <li>弁当や降園前など、みんなが集まるときにも、子ども同士が考えや思いを言い合える機会をつくるように心がける。また、みんなに考えが伝わるように、必要に応じてわかりやすい言葉をそえたりし、自分の思いをわかってもらい喜びを味わうことができるようにする。</li> <li>相手のことを考えている場面やつぶやきを見逃さず、集団の中でも生きるように援助していく。</li> <li>それぞれの子どもが自分の思いを十分に出すことができるような仲立ちを心がけたり、相手の考えを受け入れることの大切さも知らせたりして、お互いに心を寄せ合う心地よさを味わうことができる経験につなげていく。</li> <li>気持ちよく新年を迎えることができるように、園内の大掃除も、子ども達でできることを一緒に考えて行う。そして、家庭でも自分でできることを手伝えるような自信や意欲をもつことができるようにする。</li> <li>それぞれの楽器の音色を豊かに感じることができるように、楽器の扱い方や、鳴らし方などを丁寧に伝えていく。</li> <li>冬のお楽しみ会でステージに立った時に、どのようにすると見る人が喜んだり楽しんだりするのかを子ども達と一緒に考え、子どもから出たアイデアを生かしていくようにする。</li> </ul>
<p><b>冬の自然や生活に関心をもつために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その日の気候などをチェックして、室内を暖かく保ったり、窓を開けて換気をしたりする。</li> <li>体調を崩している子どもも、室内で好きな遊びができるように、道具や素材を用意しておく。</li> <li>園のみんなの役に立つ経験になるように、またいろいろな手伝いができるようになったことが自信につながるように、餅つきの用意では、杵やもろぶた、釜など、子ども達で運ぶことができる物は、友達と力を合わせて運ぶよう声をかける。</li> <li>餅つきなどの行事では、保護者や特別支援学校の人達との交流の場となるようにする。</li> </ul>	<p><b>冬の自然や生活に関心をもつために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風邪などで体調を崩す子どもが多いので、登園時に、健康状態を確かめておく。また、手洗いやうがいを積極的に呼びかける。</li> <li>息が白くなるなど、秋から冬の自然の変化に気づいた時には、共感し自然現象に興味をもつことができるようにする。</li> <li>園外保育で街路市や交通公園に出かける際は、あらかじめ交通ルールを確認し、自分で判断して横断したり、状況に応じて道路を歩いたりすることができるように指導していく。また、園外保育で出会う様々な人とのかわり方も考えていく。</li> <li>園外保育では、道路を歩く際には必要に応じて標識を意識させるようにする。</li> <li>餅つきでは、いろいろな人とのかわり方を知るために、事前に特別支援学校の生徒との適切なかわり方を話したりしておく。</li> </ul>

## 1月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>自信をもって園生活を楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じメンバーが同じ場所で遊ぶ姿が見られるが、グループ同士の交流も見られる。</li> <li>・ 今まであまり遊ばなかった子ども同士が遊ぶようになると、お互いのイメージがかみ合わずに言い合いをしたり、遊びが途中で切れたりしてしまうことがある。</li> <li>・ 冷たい風の吹く中でも、みんなで誘い合って、戸外で元気よく遊ぶ。繰り返し遊んできた遊びでは、ほとんどの子どもがルールを理解して遊んでいる。</li> <li>・ 小さい組の子ども達をお客さんに呼ぶときは、小さい組の子ども達からの要望に応じて遊ぼうとする。</li> <li>・ 最近では正月に家庭で経験することの少なくなった遊び（カルタ、トランプ、すごろく、凧揚げ、コマなど）をし、ルールややり方を教え合ったりして遊ぶ。</li> <li>・ ルールの生かし方や数の理解が確かになってきて、友達同士ですごろくやトランプを楽しむ。</li> <li>・ 卒園が近づいていることや、1年生になることがよく話題になる。</li> </ul>	<p>○友達と協力したり、相談したりしながら、<b>自信をもって園生活を楽しむ</b>。</p> <p>■自分の力を精いっぱい使って、友達と力を合わせたり作戦を考えたりしながら遊ぶ。</p> <p>■自分が知っているルールややり方を教え合ったり、競い合ったり楽しさを共有したりしながら正月ならではの遊びをする。</p> <p>■今まで遊ぶことの少なかった友達とも、遊びの場で互いにかかわったり意見を出し合ったりする。</p> <p>■1日の予定や行事に向けての流れなどの掲示物を見ることを通して、自分のすべきことを考えて行動する。</p>
<p><b>自分(達)なりのめあてに向かって力を発揮する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前まわりや逆上がり、一輪車や竹馬、フラフープや縄跳びなど、最後の参観日におうちの人に見せたい“チャレンジ”を決め、こんなふうにできるようになりたいといった目標をもって何度も練習したり、友達と一緒に教え合いながら取り組んだりする。</li> <li>・ これまであまり文字に関心のなかった子どもも興味をもち始め、自分で字を書いたり、遊びや生活の場で生かしたりするようになる。</li> <li>・ 木琴やピアノやキーボードなどで、きらきらぼしやドレミの歌などの曲に挑戦する。</li> <li>・ 最後の参観日に行く劇遊びに向けて友達と役割を決めたり、必要な物を考えたりしながら楽しんで取り組む。</li> <li>・ 凧揚げの製作では、凧の軸には竹ひごがよいのか、ストローがよいのかなどいろいろと考え、何度も試しているうちに、凧の向きに気づいたり、軸の素材が軽いとよく揚がることに気づいたりする子どももいる。</li> </ul>	<p>○自分(達)なりのめあてに向かって<b>力を発揮し</b>、やり遂げる満足感を味わう。</p> <p>■興味をもったことや、できるようになりたいと思ったことに、継続して取り組み、遊び方を工夫する。</p> <p>■今までしていた遊びに、新しい課題を見つけて取り組む。</p> <p>■音階のある楽器（木琴、ハンドベル、キーボードなど）に触れ、自分の知っているメロディーを弾いたり、友達と教え合ったりする。</p> <p>■共通の目的に向かって、友達同士で意見を出し合ったり役割分担をしたりしながら取り組む。</p>
<p><b>冬の自然現象に興味をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 氷が張り始めると、これまでの経験をもとに、氷がありそうな場所に探しに行く。</li> <li>・ これまでの経験を思い出して、自分でも氷を作りたくなり、友達と相談して、容器や置き場所などを考える。</li> <li>・ 雪や氷を集めると、どこにどのように置いておくとよいか考えるようになる。</li> </ul>	<p>○冬の自然現象に興味をもつ。</p> <p>■氷や霜、霜柱に興味をもち、友達と考えたり、工夫したりしてかわる。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>自信をもって園生活を楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まであまり遊ばなかった子どもとかかわりをもつきっかけとして、新しい遊びを提案したり、当番のグループをいつも遊ぶ友達以外の子どもとも一緒にできるように教師が意図的に決めたりする。</li> <li>・寒い季節で、どうしても保育室に閉じこもりがちになる子どもには、体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができるような遊びに誘ったり、場をつくったりする。</li> <li>・冬休みに経験したことなどの話を聞いたりして、興味や関心をもったことを探り、友達と一緒に園でも遊ぶことができるように、必要な素材や道具を準備したり、環境を整えたりする。</li> <li>・子どもが考えたり、発見したりしたことを、他のみんなにも伝え、話し合いができる場を、弁当の前や、降園時などに設ける。その際、できるだけその子どもから話すことができるように援助したり、伝わりにくい部分は言葉をそえたりする。</li> <li>・自分のことを自分でできるようになるために、子ども達へのお知らせや、明日の準備物などをホワイトボードや画用紙に書いておき、目で見て確認することもできるようにする。</li> <li>・正月独特の遊び（カルタ、トランプ、すごろく、凧揚げ、コマ、羽根つきなど）を保育室に置いておき、正月の雰囲気を楽しむことができるように、必要な用具や材料を用意する。</li> </ul> <p><b>自分(達)なりのめあてに向かって力を発揮するために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども自身が課題をもちやすい遊び（コマ、縄跳び、フラフープ、羽根つき、あやとり、一輪車、竹馬など）のコーナーを設ける。その際、片付ける場所や置き方がわかりやすいようにしておく。</li> <li>・劇遊びの絵本やCDを用意しておき、子ども達に見せたり聞かせたりすることで、登場人物や場面のイメージを共有しやすいようにする。</li> <li>・音階のある楽器に親しむことができるように、木琴、ハンドベル、キーボードなどを子どもが取り扱いやすいように、楽器のコーナーを決めて、整理して置いておく。また、きらきらぼしなど子ども達になじみがあり、弾きやすく楽しさや達成感を味わうことができるような楽譜も一緒に用意しておく。その際、文字の下に木琴の鍵盤の色と同じ色で○を描いておき、子どもが鍵盤と楽譜の色を対応させて演奏できるようにする。</li> </ul> <p><b>冬の自然現象に興味をもつために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・氷や霜、霜柱などができている場所は、できるだけ大事に残しておき、子ども達と一緒に探しに出かける。タイヤなどに水を入れて氷ができやすいようにしておく。また、それらの事象に関する本をすぐに見ることができるように置いておく。</li> <li>・なぜ、この場所や容器だと氷が張るのか、考えながら氷づくりをし、確かめることができるように、いろいろと試すことができる様々な大きさや形、素材の容器を用意しておく。</li> </ul>	<p><b>自信をもって園生活を楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分からは友達のなかに入っていくことができない子どもがまだいるので、その子どもと丁寧にかかわり、仲間入りのきっかけをつくったり、入るのを見守ったりする。</li> <li>・今まであまり言い合わなかった子ども同士が言い合う場面が見られたときは、子ども同士でイメージを共有しようとしていると捉え、見守っていく。遊びが中断してしまったときには、子どもの話を聞きながら、どのあたりがうまくいかなかったのかを探り、双方の遊びのイメージを伝え合えるように仲立ちをしていく。</li> <li>・友達と相談したり、教え合ったりして、何かを作ったり、ごっこ遊びの場をつくったりする姿を大事にし、それぞれの考えが生きるように必要に応じて声をかける。</li> <li>・小さい組の子どもの気持ちになって考えることができるように、小さい組の子どもの声を伝えたり、どうしたらより楽しんでもらえるか一緒に考えたりする。</li> </ul> <p><b>自分(達)なりのめあてに向かって力を発揮するために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の子どもが、その子どもなりの次の課題を具体的にもつことができるように、その子どもがどういこうことをしたいのか聞き、どうすればそれが実現するか一緒に考える。</li> <li>・子どもの「自分の力で成し遂げたい」という思いを大切に受けとめていく。自分のこれまでの経験や、友達から得たものをもとに、いろいろ試そうとする姿勢を尊重していく。</li> <li>・一人一人の挑戦する姿を認めながら、もう少しでできそう、もっと頑張ろうと、意欲がわくようにする。</li> <li>・子ども達と劇遊びをつくっていく際、物語の内容や伝えたいことがより子ども達のものになっていくように、何度も読むことを楽しんでいくようにする。そのうえで、物語の長さや台詞の言いまわしなど、子ども達にとって難しいことは、相談しながらつくり変えていくようにする。</li> </ul> <p><b>冬の自然現象に興味をもつために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・氷や霜を見つけたときの喜びに共感するとともに、自分達で氷を作るにはどんな場所がよいかなどについて、一緒に考えてみる。冬の自然現象に興味をもち、友達同士で知恵を出し合って試したり工夫したりできるように、子ども達の思いがけない工夫や発見をまわりに投げかけたり、アイデアを出したりする。</li> </ul>

## 2月指導計画

この月によく見られる子どもの姿	ねらい (○) ・ 内容 (■)
<p><b>共通の目的に向かって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最後の参観日やお別れパーティー（小さい組や先生達に自分達で作ったクッキーなどをふるまう行事）など、クラス全体や学年で取り組んでいく行事では、共通の目的のために、見通しをもって話し合ったりするなど意欲的に活動に取り組む。</li> <li>最後の参観日に向けて必要な物を作るためのアイデアを出したり、友達と協力して作ったりする。</li> <li>見る人のことを考えて、立つ位置や体の向き、声の大きさなど、自分で調整しようとする。</li> <li>劇遊びやお別れパーティーでは、お客さんや見る人のことを考えて準備したり、友達や小さい組の子ども達の気持ちに合わせようとしたりする。</li> <li>自分達のグループの遊びも楽しみながら、他のグループの遊びにも関心をよせ、お互いにかかわりをもち、さらに遊びを充実させていくようになる。</li> <li>クラスのみんで取り組むことや当番活動などを通して、ふだんあまり遊ばない人とも力を合わせることができるようになる。</li> <li>園生活の中で、次のことを見通し、時間の流れや自分のすべきことを意識しながら生活できるようになってくる。</li> <li>お別れパーティーでは、憧れていた年長組ならではの活動を通して、小さい組の世話を進んで行うことから、自分達が大きくなったという誇りや喜びが見られる。</li> <li>今までの経験を思い出し、自分達でできること（ポスター、招待状、おみやげ作りなど）を相談しながら、お別れパーティーを進めていく。</li> </ul> <p>・難しいことにチャレンジして、できるようになった喜びを感じたり、友達の刺激を受けて新たな技などに挑戦したりする。</p> <p>・子ども同士の会話の中で小学校の話が多くなる。楽しみな話が多いが、不安に思っている子どももいる。</p> <p><b>冬から春にかけての自然に親しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>氷ができやすそうな場所を探して、いろいろな氷作りをしようとする。</li> <li>ウメの花が咲き始めると、それに気づいて春の訪れを感じる姿が見られる。</li> </ul>	<p>○共通の目的に向かって、お互いに刺激し合ったり、話し合ったり、役割分担をしたりしながら、やり遂げる喜びを味わう。</p> <p>■劇遊びやお別れパーティーなどに積極的に取り組み、最後までやり遂げる。</p> <p>■劇遊びで、見る人がわかるように工夫して演じる。</p> <p>■自分なりの表現をしたり、友達と動きを考えたりしながら演じたり、歌ったり、踊ったりする。</p> <p>■友達のよさを認めながら、教え合ったり、助け合ったりすることの大切さに気づく。</p> <p>■幼稚園生活がもうすぐ終わることを意識しながら、いろいろな行事に取り組む。</p> <p>■行事で歌う歌を、自分の声だけではなく、全員の声を意識し、歌詞や曲調によって表情をつけて歌ってみる。</p> <p>○冬から春にかけての自然に親しみ、興味、関心を広げる。</p> <p>■氷や霜、霜柱など冬の自然現象に興味をもち、友達と考えたり、工夫したりしてかかわる。</p> <p>■今までの経験を思い出しながら、春探しをしたり、季節の変化を感じとったりする。</p>

環境構成	援助のポイント
<p><b>共通の目的に向かって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合うグループ同士でお互いの遊びが目に入るような場の配置を考える。</li> <li>・劇遊びの小道具や衣装など、子ども達から出るアイデアを最大限に生かすことができるように、必要と思われる素材を前もって集めるなどしておく。</li> <li>・劇遊びや踊りなど、繰り返しやってみたい気持ちがあるので、何度でも自由にできるように、部屋や通路に簡単な舞台を作っておく。劇が楽しくなってきた頃に、遊戯室に実際の舞台を子ども達と作り、お客さんに見に来てもらうことを提案して、自分達の成果を披露したくなる状況づくりをしていく。</li> <li>・子ども達の“チャレンジ”が、お互いに刺激し合い、さらに難しい技や新しい種目に取り組もうという意欲につながっていくように、道具や場を構えたり、技やレベルを図にして掲示したりする。</li> </ul> <p><b>冬から春にかけての自然に親しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節分の雰囲気を感じることができるように、ヒイラギの葉やイワシの頭を保育室の前に飾る。</li> <li>・芽吹いている木の芽や小鳥のさえずりなど、園庭の春の気配に気づくことができるようにする。</li> <li>・お別れパーティーの際に、パンジーやウメの花をテーブルに飾り、春の訪れを感じることができるようにする。</li> </ul>	<p><b>共通の目的に向かって</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスで共通の目的をもとうとするとき、一人一人のしたいことを尊重するとともに、子ども達がお互いに意見を出し合う場を保障する。また、教師は、個々の意見がクラスの共通の目的になるようなきっかけや課題を探り、クラス全体に投げかけていく。</li> <li>・子ども達が自ら考え、工夫している姿を認め、アイデアを全体の場に生かしたり、投げかけたりすることで、遊びが広がり、より発展、充実するように配慮する。</li> <li>・友達同士のつながりが深まってくる時期なので、教え合っている姿を見守っていくようにする。教えようとする子どものよさ、がんばって取り組もうとしている子どものよさをお互いに認め合うことができるように、それぞれのよさをしっかりと認めていく。</li> <li>・行事の見通しをもつことができるように、参観日やお別れパーティーはどのようなものかを説明する。また、どのようにするか、具体的に話し合う場を設ける。</li> <li>・劇遊びでは、どの子どもも自分の役に意欲的に取り組むことができるように、本人の希望を丁寧に聞くようにする。1つの役にたくさんの子どもの希望が集中したときには、子どもと教師が知恵を出し合い、話を変化させたり、別の役にまわったりして解決していく。</li> <li>・お別れパーティーでは、子ども達が主体的に取り組むことができるように、去年までにしてもらったことを思い出して、どのような準備をすればよいのか、どのように世話するかを、子ども達と話し合っ決めていく。</li> <li>・お別れパーティーの取り組みにおいては、いろいろな子どものよさを感じることでできるグループを教師が意図的につくるようにする。グループの中で相談し、自分達でできることを考えたり、役割分担をしたりして、子ども達の発想が生きるようにする。</li> <li>・小さい組に喜んでもらう経験を通して、大きくなった喜びや自信を感じることができるように、自分(達)で考えて行動しようとする姿を認めたりする。</li> <li>・幼稚園生活を締めくくりにあたって、力いっぱい自分を発揮する経験が自信につながるように、一人一人が主役になることができる瞬間を、教師は見逃さずに認めていくようにする。</li> <li>・子ども達が繰り返し取り組んで、できるようになったことをともに喜び、他の子ども達に知らせたり、みんなの前で披露する機会をもったりして、その子どもの自信になっていくようにする。そのうえで、友達にやり方を教えたり、手を貸してあげたりなど、よりよい刺激が生まれていくようにする。</li> <li>・卒園までのことや小学校のことを友達同士の会話で楽しむようになる。その際、どのようなことを楽しみにしているのか、不安に思っているのかを会話の内容から把握していくようにする。</li> </ul> <p><b>冬から春にかけての自然に親しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豆まきでは、伝統的な行事への興味をもたせるとともに、自分の心の弱さを追い払う意味合いがあることを伝え、すすんで豆まきに参加できるようにする。</li> </ul>

## 3月指導計画

## この月によく見られる子どもの姿

## 残り少ない園生活を楽しむために

- ・サッカーや土だんご作り、砂遊び、鬼ごっこなど今まで楽しんできた遊びを、短い時間でも楽しんでいる。
- ・卒園式に向けて取り組むことに意欲はあるが、遊ぶ時間が短かったり、途切れがちになってしまったりするために、遊びの場所から帰ってくるのが遅くなってしまう子どもの姿もある。
- ・園内の道具や環境をよくわかっていて、それらを生かして上手に遊ぶことができるようになり、幼稚園生活がすっかり自分達のものになっている。
- ・大勢の前で1人で話すときなど、自分なりにがんばろうとする姿がよく見られる。
- ・ドッジボールや鬼ごっこなど、友達同士誘い合って大人数で遊ぶことが、子ども達で自然にできるようになってくる。

## 卒園への喜びや誇り、感謝の気持ちをもって

- ・卒園式の練習に意欲的に取り組む姿が見られる。友達と一緒に卒園式で歌う歌を歌ったり、思い出の言葉を繰り返し言ったりする。
- ・修了証書のもらい方や歌の歌い方など、友達のよいところを見て、積極的に真似をしようとする。
- ・次の年長組になる子ども達のことを思って、掃除をしたり、遊具を片付けたりする。
- ・小さい組の子ども達が年長組に遊びに来ることが増える。遊びに来た子ども達にやさしく声をかけたり、積極的に世話をしようとする姿が見られたりする。
- ・自分達が以前過ごしてきた年少・年中棟に出かけていき、小さかった頃を懐かしく感じる。



## ねらい (○) ・ 内容 (■)

○友達と協力したり、相談したりしながら、自信をもって、残り少ない幼稚園生活を楽しむ。

■幼稚園での生活の流れに見通しをもち、自分達なりに考えながら生活を進めていく。

■これまでに親しんできた遊びを、存分に楽しむ。

○卒園式の取り組みを通して、卒園を迎える喜びや誇り、感謝の気持ちをもつ。

■卒園への喜び、誇りを味わいながら、式の練習に取り組む。

■園生活を振り返りながら、卒園式で言う思い出の言葉を考える。

■感謝の気持ちを込めて、保護者にプレゼントを作る。



環境構成	援助のポイント
<p><b>残り少ない園生活を楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事への取り組みだけにとらわれず、限られた時間を有効に使って、自発的な遊びを十分楽しむことができるように、行事までの予定や1日の流れをカレンダーやホワイトボードを使って知らせていく。</li> <li>・これまでに楽しんできた遊びで使ったものを出しておき、友達と誘い合っってなつかしみながら遊ぶ楽しさを味わうことができるようにする。</li> <li>・友達と今まで経験してきた遊び（大型積み木・ドッジボール・大縄など）や製作活動などを繰り返し楽しむことができるように、場を確保したり、遊びたいときに必要な用具や物が取り出しやすい環境を整えたりしていく。</li> </ul> <p><b>卒園への喜びや誇りをもって、式に臨むことができるように</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思い出の言葉を決める際は、1年間の行事や遊びを振り返ることができるよう、写真や前年度までの卒園アルバムなどを用意する。</li> <li>・今まで使ってきた保育室や遊んだ場所、道具などに感謝の気持ちをもつことができるように、また、次の年長組が気持ちよく使うことができるように、子どもと一緒に園内の環境を整備する機会をもつ。</li> <li>・保護者に感謝の気持ちをこめて、プレゼントを作ることができるように、必要な材料を早めに用意し、提案する。</li> <li>・卒園式に向けて証書のもらい方などは、まずはクラスで少しずつ行い、次に学年で合わせるなど、意欲的に取り組むことができるように見通しをもって取り組む。</li> </ul>	<p><b>残り少ない園生活を楽しむために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びに見通しをもって取り組むことができるようになってくるので、次の遊びに必要な物とそうでない物を友達同士で相談して場の設定や片付けができるように援助する。</li> <li>・次にすることはわかっているが、遊びの切れ目がなかなかつけづらかったり、園庭から帰ってくるのが遅くなったりしている子どもには、時間を惜しんで遊び込もうとしている気持ちを受けとめながら、この機会に時間の感覚が身についていくように、望ましい過ごし方を一緒に考えていくようにする。</li> </ul> <p><b>卒園への喜びや誇りをもって、式に臨むことができるように</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒園式の意味を考えたり、どのような態度が望ましいかを話し合ったり、練習したりして、卒園への自覚を高め、うれしい気持ちとともに、場に応じた態度で臨むことができるようにする。</li> <li>・卒園式の思い出の言葉をみんなで言う際には、できるかぎり、子ども達で言葉や動きを考え、作りあげていくようにする。一人一人の言葉がつながり、みんなの思い出になることを伝え、入園からの出来事や友達とのつながりを振り返りながら取り組むことができるように援助していく。</li> <li>・楽しかった幼稚園生活の思い出を話し合ったり小さい組だった時のことを思い出したりしながら、自分達で成長の喜びを感じ取ることができるように心がけ、一人一人の子どもが自信をもって卒園できるようにする。</li> </ul>

## おわりに

本園の教育課程を本格的に再編成するのは、久しぶりのこととなりました。その間に子どもを取り巻く環境は大きく変わり、ITの発達も子ども達の生活に大きく影響を与え、便利になった一方で、考える機会は失われていきつつあります。今の子ども達が大人になるころには、多くの仕事をAIがすることになるだろうとも言われています。

そんな今だからこそ、本園では“よく考えて行動する子ども”を育みたいと考え、目指す子ども像としています。“よく考えて行動する子ども”を育みたいという思いをしっかりとって意図的に保育をしていかななくては、子ども達がなんとなく遊びや生活を送るようになり、考えることが薄れていってしまうのではないのでしょうか。

そこで、今回、教育課程を大幅に見直すにあたって、“よく考えて行動する子ども”を育てるためには、どの時期に、どのような環境を用意し、どのような援助をすればいいのか、今まで本園で書き溜めてきた週日案や記録、事例などをもとに考えていきました。

例えば、本園では4歳の5月頃に、こんな姿がよく見られます。水道の水を汲んで何かをしたくて、近くにある空き箱に水を入れて持っていこうとするけれども、途中で水がしみ出てしまったり、箱が破れたりして、目的地まで運ぶことができないという姿です。そんなときそばにいる大人は、思わず「これに入れたらどう？」とプリンカップなどを差し出したくなります。でも、子ども達は、水をなかなか運ぶことができないという経験を繰り返すうちに、“ああ、こんな紙の箱は水に弱いんだな。何を使ったらいいだろう。そうだ、あの牛乳パックはどうか？ ヨーグルトの入れ物もいいかも。入れてみよう……”とお宝ステーションや教材棚にあるいろいろな容器に水を入れてみます。教師は、子どもが自分で気づくのではないかと、あえて言葉をかけずに見守り、子ども達が考えることができる時間や素材を用意します。そんな一コマからでも、環境構成の仕方や援助の仕方によって、子どもが経験すること（自分で考える、自分で決める、自分で試す、自分で確かめてみるなど）が違ってくることが、そして、そのことがよく考えることとの兼ね合いでとても大切であることがわかります。そうした姿や援助、環境構成があるにもかかわらず、指導計画には明記されていなかったため、本紀要の指導計画に書き加えていきました。

また、改訂された幼稚園教育要領の“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）”とも照らし合わせ、一人一人の子どもの発達に合った“よく考えて”とはどんなことであるのかを念頭に入れ、教育課程の再編成と月別指導計画の作成を進めました。

この紀要が、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

高知大学教育学部附属幼稚園  
副園長 谷脇 のぞみ